

森原下ノ原遺跡

4 区

2023

島根県教育委員会



1 4区 遠景（南東から）



2 4区 遠景（南から）



1 灰被天目（正面）



2 灰被天目（内面）



3 灰被天目（底面）

序

本書は、島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、令和3（2021）年度に実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果の一部をまとめたものです。

本書で報告する森原下ノ原遺跡は、縄文時代から現代までの膨大な量の遺構・遺物が発見され、5,000年以上にわたる人々の生活の様子が明らかとなっていました。

調査では、新たに古代の遺物がまとまって出土したほか、喫茶の受容を示す室町時代の灰被天目が完全な形を保って出土するなど、当時の社会・文化を考える上で重要な発見がありました。また、江の川河口部の交通拠点として、交易や祭祀が行われた重要な場所であったことも明らかにされつつあります。

本書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および本書の作成にあたりご協力をいただきました江津市森原地区の方々、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月

島根県教育委員会

教育長 野津 建二

例 言

1. 本書は国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所から委託を受けて、島根県教育委員会が令和3年度に実施した一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果である。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

令和3年度 発掘調査 森原下ノ原遺跡4区（江津市松川町八神地先）6,000m²
令和4年度 整理等作業・報告書作成 森原下ノ原遺跡4区
3. 発掘調査は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、仁木 聰・鈴木七奈が担当した。
4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量など）については、次の機関に委託した。

令和4年度 株式会社トーワエンジニアリング（出雲市萩原町）
5. 発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々から御指導をいただいた（五十音順、肩書きは当時）。

田中克子（NPO 法人アジア水中考古学研究所理事）、中村唯史（島根県立三瓶自然館企画情報課調整監）、村上 勇（益田市文化財保護審議会委員）
6. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた（順不同、肩書きは当時）。

内田律雄（元島根県教育庁埋蔵文化財調査センター第一グループ課長）、榎原博英（浜田市教育委員会文化振興課係長）、西尾克己（松江市松江城調査研究室松江市史松江城部会長）、平郡達哉（島根大学法文学部准教授）、盆子原奉成（江津市教育委員会社会教育課係長）、持田直人（江津市教育委員会社会教育課主事）、桃崎祐輔（福岡大学歴史学科教授）、渡邊正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）、松平地域コミュニティ交流センター、江津市建設政策課
7. 出土鉄器の保存処理は次の機関に委託した。

令和4年度 （一財）大阪市文化財協会
8. 本書に掲載した遺構の写真は仁木が撮影し、遺物の写真は仁木・林 健亮が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員などが行ったほか、遺物の分類・鑑定などは埋蔵文化財調査センター職員の協力を得た。
9. 本書の執筆は阿部賢治が第4章第2節を担当し、それ以外を仁木が担当した。編集は仁木がおこなった。
10. 本書に掲載した遺物および実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町33番地）にて保管している。
11. 本書の編集にあたっては、DTP方式を採用した。

凡 例

1. 本書で示す方位は、座標北を使用し、座標値は世界測地系（平面直角座標第Ⅲ系）にもとづく。
2. 本書で示す標高値はメートル表記である。標高値は東京湾平均海面（T.P.）値を使用した。
3. 本書で使用した第3・4・11図は国土交通省浜田河川国道事務所が作成した計画平面図1/1,000、第7図は国土調査5万分の1都道府県土地分類基本調査地形分類図（温泉津、江津・浜田、川本・大朝）を、第10図は国土地理院の1/25,000地図（江津、浅利、都野津、川戸）を使用して作成したものである。
4. 本書に記載する土層は『新版 標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修）にしたがって記載した。
5. 本書で使用した挿図の縮尺は基本的に以下の縮尺としている。

遺構配置図 1/200・1/400・1/600・1/800

遺構実測図 石檻：1/20・1/120

遺物実測図 土器：1/3・1/4、土製品：1/3、石器：1/1・1/3、玉類：1/1、

金属器：1/2

6. 本書で使用した遺構・遺物表現は下記のとおりである。

7. 本書で用いた土器の分類および編年は、下記の論文・報告書に依拠している。

（1）縄文土器

小林達雄編 2008『総覧縄文土器』アム・プロモーション

柳浦俊一 2017『山陰における縄文後期土器の概要』『山陰地方における縄文文化の研究』

雄山閣

柳浦俊一 2021『島根県中・東部の突帯文土器—古屋敷遺跡を中心に—』『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第25集 島根県古代文化センター

（2）弥生土器

松本岩雄 1992a『出雲・隱岐地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

松本岩雄 1992b『石見地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社

（3）土師器

東山信治 2010『益田平野の古墳時代の土器について』『久城東遺跡・若葉台遺跡・久城西I遺跡・久城西II遺跡・原浜遺跡』一般国道9号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書6 島根県教育委員会

松山智弘 2015『山陰』『前期古墳編年を再考するⅡ—古墳出土土器をめぐって—』中国四国前方後円墳研究会第18回研究集会 中国四国前方後円墳研究会

松山智弘 2021『島根県』『中期古墳研究の現状と課題V～古墳時代中期の土師器・須恵器をめぐって～』中国四国前方後円墳研究会第24回研究集会 中国四国前方後円墳研究会

（4）須恵器

榎原博英 2010『石見国の須恵器生産と出雲產須恵器』『出雲国の形成と国府成立の研究—古代山陰地域の土器様相と領域性—』 島根県古代文化センター

岩本真実 2019『石見地域における須恵器の編年と地域性—「石見型須恵器」再考—』『国家形

(5) 土師質土器

東山信治 2020「益田地域の土師器」中世石見における在地領主の動向 第5回検討会資料

北島大輔 2010「大内式の設定—中世山口における遺物編年の細分と再編—」『大内氏館跡XⅠ』

山口市埋蔵文化財調査報告第101集 山口市教育委員会

(6) 中近世陶磁器

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

大可成乃 2011「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）—器種（小器種）の出土状況—」『東京大学構内遺跡調査研究年報7』 東京大学埋蔵文化財調査室

小野正敏 1982「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

片山まさみ 2017「高麗・朝鮮陶磁器の概要—14世紀中葉から17世紀初を中心にして—」『第15回山陰中世土器検討会資料集 山陰における高麗・朝鮮陶磁』

九州近世陶磁学会 2000「九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念」

太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡 XV—陶磁器分類編—』大宰府市の文化財第49集

東京大学埋蔵文化財調査室 1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）」東京大学構内遺跡調査研究年報2別冊

堀内秀樹 1997「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学構内遺跡調査研究年報1』 東京大学埋蔵文化財調査室

森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会

森本朝子 1994「博多遺跡群出土の天目」『特別展 唐物天目—福建省建窯出土天目と日本伝世の天目—』福建省博物館／茶道資料室

8. 註は各章ごとに連番を振り、章末に配置した。

《遺構》



地山・遺構面

《遺物》

▼印、一点鎖線（✓箇所）は施釉範囲を示す



磁器・土器の断面



陶器・瓦質土器の断面



須恵器の断面



煤・炭化物

本文目次

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯	1
1. 事業計画の概要	1
2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整	1
3. 遺跡の名称について	2
第2節 発掘調査の経過	2
1. 試掘確認調査	2
2. 発掘作業	3
3. 整理作業	3
第3節 調査体制	4

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	10
1. 旧石器・縄文時代	10
2. 弥生時代	10
3. 古墳時代	12
4. 古代	12
5. 中世	12
6. 近世・近代	13
第3節 調査地周辺の地名	13

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法	15
1. 発掘調査区の立地	15
2. 発掘調査区とグリッドの設定	15
3. 調査の方法	15
4. 調査の作成	15
5. 整理作業	18
第2節 基本層序	18
第3節 調査の成果	19
1. 遺構	19
2. 遺物	24

第4章 総 括

第1節 4区出土遺物の分布傾向について	66
1. 縄文時代～中世・近世出土遺物の分布傾向	66
2. 分布傾向からみた4区の位置づけ	68
第2節 出土遺物からみる中世期の様相	85
1. 出土遺物の概要	85

2. 関連遺跡との比較	85
3. 東福寺の進出と千本崎地蔵堂層塔	86
4. 黒褐釉碗について	87
5. 小結	88
第3節　まとめ－森原下ノ原遺跡の変遷と位置づけ－	88
1. 繩文時代	88
2. 弥生時代	90
3. 古墳時代	90
4. 古代	91
5. 中世後半	96
6. 近世以降	96

挿図目次

第1図 森原下ノ原遺跡の位置	1
第2図 江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所(平成28年2月時点の計画段階)	2
第3図 試掘トレーニング配置と遺跡範囲・調査対象範囲	5
第4図 グリッド・調査区配置	6
第5図 試掘トレーニング出土遺物	6
第6図 試掘トレーニング土層	7
第7図 遺跡周辺の地形分類	8
第8図 森原下ノ原遺跡周辺の地形	9
第9図 遺跡周辺の東西断面模式図	10
第10図 森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡	11
第11図 森原下ノ原遺跡の調査区配置	16
第12図 グリッド・調査区・全遺構配置図	17
第13図 森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図	19
第14図 A-A' ライン土層図	20
第15図 C-C' ライン土層図	21
第16図 B-B' ライン・D-D' ライン・E-E' ライン土層図	22
第17図 F-F' ライン・G-G' ライン土層図	23
第18図 近世・近代遺構配置図	24
第19図 石樋実測図(H-H' ライン)	25
第20図 石樋3D写真測量図(1)	26
第21図 石樋3D写真測量図(2)	27
第22図 石樋3D写真測量図(3)	28
第23図 石樋3D写真測量図(4)	29
第24図 石樋3D写真測量図(5)	30

第25図	石檻3D写真測量図(6)	31
第26図	縄文土器	32
第27図	弥生土器(1)	33
第28図	弥生土器(2)	35
第29図	弥生土器(3)	36
第30図	弥生土器(4)	37
第31図	弥生土器(5)	38
第32図	弥生土器(6)	39
第33図	古墳時代土師器(1)	41
第34図	古墳時代土師器(2)	42
第35図	須恵器(1)	43
第36図	須恵器(2)	44
第37図	古代・中世土師器	45
第38図	土製品	46
第39図	中世・近世陶磁器(1)	47
第40図	中世・近世陶磁器(2)	48
第41図	中世・近世陶磁器(3)	49
第42図	中世・近世陶磁器(4)	50
第43図	中世・近世陶磁器(5)	51
第44図	石器・石製品(1)	54
第45図	石器・石製品(2)	55
第46図	石器・石製品(3)	56
第47図	石器・石製品(4)	57
第48図	磨製石斧分類模式図	58
第49図	石器・石製品(5)	59
第50図	石器・石製品(6)	60
第51図	石器・石製品(7)	61
第52図	石器・石製品(8)	62
第53図	金属製品(1)	63
第54図	金属製品(2)	64
第55図	金属製品(3)	65
第56図	4区遺物出土比率	66
第57図	縄文土器(中～後・晚期)	68
第58図	弥生土器(石見I～3様式)	69
第59図	弥生土器(石見I～3様式壺・甌底部)	70
第60図	弥生土器(石見II様式)	71
第61図	弥生土器(石見III様式)	72
第62図	弥生土器(石見IV様式)	73
第63図	弥生土器(石見V～1～3様式)	74

第64図 古墳時代前期末～中期前半	75
第65図 須恵器甕・壺口縁部片(古代)	76
第66図 土師器甕口縁部片(古代)	77
第67図 中世前半(11世紀後半～12世紀後半)	78
第68図 中世後半(15世紀後半～16世紀後半)	79
第69図 近世	80
第70図 石斧未成品	81
第71図 その他の石器	82
第72図 非掲載・須恵器細片の総重量	83
第73図 非掲載・土師器細片(弥生土器細片含む)の総重量	84
第74図 森原下ノ原遺跡1～4区総括図(縄文～古墳時代)	92
第75図 森原下ノ原遺跡1～4区総括図(古代～近世)	94

表目次

第1表 文化財保護法にもとづく提出書類	3
第2表 弥生時代前期の編年と併行関係	67
第3表 中世陶磁器組成表と関連表	90
第4表 江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落	94
第5表 遺物観察表(縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品)	94
第6表 遺物観察表(中・近世陶磁器)	100
第7表 遺物観察表(石器・石製品)	102
第8表 遺物観察表(金属製品)	103
第9表 出土石器計測表(非掲載品)	104
第10表 3・4層出土須恵器・土師器の器種別点数(非掲載品)	106

図版目次

卷頭図版 1	1 4区 遠景(南東から)	図版 20	1 弥生土器(12)
	2 4区 遠景(南から)		2 弥生土器(13)
卷頭図版 2	1 灰被天目(正面)	図版 21	1 弥生土器(14)
	2 灰被天目(内面)		2 弥生土器(15)
	3 灰被天目(底面)	図版 22	1 弥生土器(16)
図版 1	1 4区調査前(北東から)		2 弥生土器(17)
	2 4区調査前(南東から)	図版 23	1 古墳時代土師器(1)
図版 2	1 4区北半完掘状況(写真上方が西)		2 古墳時代土師器(2)
	2 4区南半完掘状況(写真下方が西)	図版 24	1 古墳時代土師器(3)
図版 3	1 4区北半8・9層検出状況(北から)		2 古墳時代土師器(4)
	2 E-E' ライン土層断面(南から)	図版 25	1 古墳時代土師器(5)
図版 4	1 D-D' ライン土層断面(南東から)		2 古墳時代土師器(6)
	2 A-A' ライン東壁北端の土層断面(南西から)	図版 26	1 古墳時代土師器(7)
			2 古墳時代土師器(8)
図版 5	1 C-C' ライン土層断面西端(北東から)	図版 27	1 古墳時代土師器(9)
	2 C-C' ライン土層断面(北東から)	図版 28	1 古墳時代土師器(10)
図版 6	1 A-A' ライン東壁北半土層断面(北西から)		2 古墳時代土師器(11)
	2 A-A' ライン東壁中央土層断面(北西から)	図版 29	1 須恵器(1)
図版 7	1 A-A' ライン東壁4区TR4付近の土層断面(北西から)		2 須恵器(2)
	2 4区北半完掘状況(北から)	図版 30	1 須恵器(3)
図版 8	1 B-B' ライン南壁土層断面(北西から)		2 須恵器(4)
	2 B-B' ライン南壁土層断面(北東から)	図版 31	1 須恵器(5)
図版 9	1 A-A' ライン東壁南半土層断面(北西から)		2 須恵器(6)、古代・中世土師器(1)
	2 G-G' ライン東壁土層断面(東から)	図版 32	1 古代・中世土師器(2)
図版 10	1 石撻掘方検出状況(東から)		2 古代・中世土師器(3)
	2 石撻閉塞側のA-A' ライン東壁土層断面(東から)	図版 33	1 土製品(1)
			2 土製品(2)
図版 11	1 石撻完掘状況(東から)	図版 34	1 中世・近世陶磁器(1)
	2 石撻完掘状況(西から)		2 中世・近世陶磁器(2)
図版 12	1 4区南半完掘状況(南から)	図版 35	1 中世・近世陶磁器(3)
図版 13	1 試掘遺物		2 中世・近世陶磁器(4)
	2 繩文土器(1)	図版 36	1 中世・近世陶磁器(5)
図版 14	1 繩文土器(2)		2 中世・近世陶磁器(6)
	2 弥生土器(1)	図版 37	1 石器・石製品(1)
図版 15	1 弥生土器(2)		2 石器・石製品(2)
	2 弥生土器(3)	図版 38	1 石器・石製品(3)
図版 16	1 弥生土器(4)		2 石器・石製品(4)
	2 弥生土器(5)	図版 39	1 石器・石製品(5)
図版 17	1 弥生土器(6)		2 石器・石製品(6)
	2 弥生土器(7)	図版 40	1 石器・石製品(7)
図版 18	1 弥生土器(8)		2 石器・石製品(8)
	2 弥生土器(9)	図版 41	1 石器・石製品(9)
図版 19	1 弥生土器(10)		2 金属製品(1)
	2 弥生土器(11)	図版 42	1 金属製品(2)
			2 金属製品(3)

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

1. 事業計画の概要

広島県北広島町の阿佐山（標高 1,218 m）に端を発し、中国山地を縦断して島根県江津市で日本海に注ぐ一級河川江の川は、その地形的特徴から山間の狭隘部を流れる中・下流域では、水位が一気に跳ね上がるなど常に洪水の危険をはらんでいる。これまで幾度とない洪水が記録され、流域では多くの被害を受けてきた。

こうした状況から 1953（昭和 28）年を端緒に水害防止策が図られてきた。2007（平成 19）年には「江の川水系河川整備基本方針」が策定され、2016（平成 28）年には向こう 20～30 年間の治水事業計画として「江の川水系河川整備計画」が整備された。これらの計画にもとづき水防災事業が進められてきたが、2018（平成 30）年と 2020（令和 2）年に立て続けに江の川が氾濫したことから、江の川流域治水推進室を新たに設け、計画を前倒して対策事業が進められることになった。遺跡の所在する江津市松川町八神地区は江の川下流にあたり、現堤防高の不足を解消し、洪水による氾濫防止を目的とした堤防整備が計画されている（第2図）。

2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

八神地区は 2014（平成 26）年 7 月に照会および調整が開始され、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所（以下、国土交通省）や江津市教育委員会と協議を重ねながら調査・調整が進められた。文化財保護法に基づく提出書類は第 1 表にまとめている。

平成 26 年度から平成 27 年度にかけて市教育委員会により試掘確認調査が実施され、八神上流工区で八神上ノ原遺跡（県営農地環境整備事業）と八神上ノ原Ⅱ遺跡、八神下流工区で森原神田川遺跡と森原下ノ原遺跡の 4 遺跡が発見された。森原下ノ原遺跡は調査対象面積が約 10,000m²と広く、用地買収などの条件が不揃いであったため、遺跡北側から順次調査を開始し、令和元年度に 1・3 区、令和 2 年度に 1・2 区の発掘調査を県埋蔵文化財調査センターが実施した。1 区は想定を超えた



第1図 森原下ノ原遺跡の位置

る遺物・遺構量を検出したことから、2年にわたって調査をおこなった。

3. 遺跡の名称について

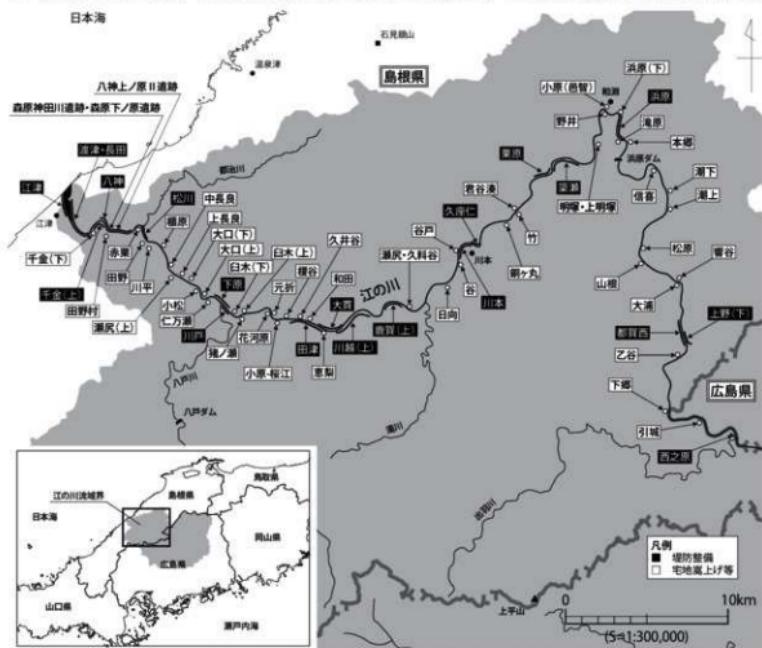
森原下ノ原遺跡は、発見当初「森原上ノ原遺跡」として周知の埋蔵文化財包藏地に登録された。しかし、明治22年の地籍図から字名が「下ノ原」と考えられたことから、地域の歴史や実態をより正確に反映するため、国土交通省や江津市教育委員会と協議した上で令和2年2月に遺跡名を変更した。したがって、本書では第1表の文書類を除き、すべて「森原下ノ原遺跡」として記述する。

第2節 発掘調査の経過

1. 試據確認調查

森原下ノ原遺跡は江津市教育委員会が平成26年度から27年度に実施した試掘確認調査で発見され、試掘調査範囲の中央や南側に位置する水路を基準として北側が森原神田川遺跡、南側が森原下ノ原遺跡の範囲とされた(第3・4図)。森原下ノ原遺跡の面積は約25,000m²で、うち事業予定地内の調査対象面積は約10,000m²である。

また、平成30年度、令和元年度、令和2年度には鳥取県埋蔵文化財調査センターも遺構・遺物の確認や土層堆積状況などの詳細を把握すること目的として試掘確認調査をおこなった（第3・5・6図）。これにより、H30TR7・8とTR1・TR4から繩文時代～古代の遺物包含層が確認され（第



第2図 江の川水系河川整備計画に基づく事業箇所（平成28年2月時点の計画段階）

第1表 文化財保護法にもとづく提出書類

文書番号 日付	種類	所在地	発見 年月日	発見の事情	届出者	参考事項	勧告文書番号 日付	主な指示事項
第578号 H27.3.27	集落跡	江津市松川町 八神246番地1外	H27.3.26	農地環境整備事業に 伴う試掘調査	江津市教育 委員会教育長	森原下/原 連絡	島教文財第41号の30 H27.3.27	保存への配慮を 土地所有者へ伝達

埋蔵文化財発掘の通知と勧告（法第97条第1項）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	土地所有者	面積 (m²)	原因	届出者	期間	勧告文書番号 日付	主な指示事項
国中文財河第 第83号 H20.3.9	散布地	江津市松川町 森原下/原連絡	国土交通省	10,000	河川改修	国土交通省 浜田河川国道事務所	H24.1～ H36.3.31	島教文財 第49号の131 H30.3.26	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	面積 (m²)	原因	報告者	担当者	期間
島教理第10号 R3.4.1	散布地/集落跡?	江津市松川町八神地先 森原下/原連絡(4区)	6,000	河川改修	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター長 仁木 駿	R3.5.17～ R3.12.26	

埋蔵文化財の発見通知（法第100条第2項）

文書番号 日付	物件名	出土地	発見者	土地所有者	現保管場所
島教文財第574号の13 R3.12.21	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、 陶磁器、石器、铁器、青銅製品、土製品、地先 石製品 計100箱	江津市松川町八神 野津建二	島根県教育委員会教育長 野津建二	国土交通省 浜田河川国道事務所長	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

終了報告

文書番号 日付	遺跡名	調査期間	面積 (m²)	提出者	提出先
島教文財第903号 R3.12.15	森原下/原連絡(4区)	R3.5.17～R3.12.26	6,000	島根県教育委員会教育長 野津建二	国土交通省浜田河川国道事務所長

6図)、4区が設定された。なお、TR1・TR4では遺物を確認したが、遺構は確認できなかった。また、TR2・TR3・TR5では遺構・遺物は確認されなかった。

2. 発掘作業

発掘調査は、令和3年度に実施した。以下、発掘作業の経過を記載する。

令和3年度

令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、引き続き令和2年度來の調査体制を探り、朝・昼2回の体温測定をはじめ、休憩所の消毒、作業中以外はマスクを着用した。

5月2日に起工測量、5月4日に重機掘削を開始した。調査は層序を確認しながら、河川堆積土中の遺物をグリッド毎に取り上げるものであった。空中写真撮影は9月1日に1回目の、11月24日に2回目をおこなった。10月9日には現地説明会を実施し、地元を中心に約80名の参加があった。また、10月8・9日には灰被天目の公開をパレットごうつ1階ロビーでおこなった。新型コロナウイルス感染対策を徹底し、参加者全員のマスク着用、受付での消毒、検温、連絡先の記入などを実施した。

8月23日には、村上氏に完形で出土した灰被天目をはじめとする中世陶磁器の調査指導を受け、11月8日には、中村氏に遺跡の形成過程などについて調査指導を受け、11月25日に現地作業を終了し、11月26日に完了検査を受け、引き渡しをおこなった。

3. 整理作業

令和3年度は、発掘調査と並行して現場事務所で遺物の洗浄をおこなった。調査終了後は、12～3月まで埋蔵文化財調査センターで、注記、分類、接合などの作業を進め、平行して遺構図面・写真の整理と金属製品の実測をおこなった。

令和4年度は、仁木が報告書作成担当となった。4～7月で実測作業を終え、8～11月にトレース作業、8月に写真撮影をおこなった。10月4・5日には田中氏から中世陶磁器の調査指導を受

けた。

全国的に感染が拡大した新型コロナウイルスの感染防止のため、作業スペース等に配慮し、県外者の調査指導を控えざるを得ないなど制限がある中での整理作業となった。

第3節 調査体制

発掘調査・報告書作成は次の体制でおこなった。

調査主体 島根県教育委員会

令和3年度

事務局 島根県教育庁文化財課

課長 中島正顕、文化財グループGL 田中明子、管理指導スタッフ調整監

池淵俊一

埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 坂根祐二、高速道路調査推進スタッフ調整監

熱田貴保、管理課長 深田 浩、調査第一課長 林 健亮

調査担当者 調査第一係長 仁木 聰、主任主事 鈴木七奈

会計年度任用職員調査員 阿部賢治、同調査補助員 幸村康子、米田美江子

渡邊真二

令和4年度

事務局 島根県教育庁文化財課

課長 中島正顕、文化財グループGL 田中明子、管理指導スタッフ調整監

原田敏照

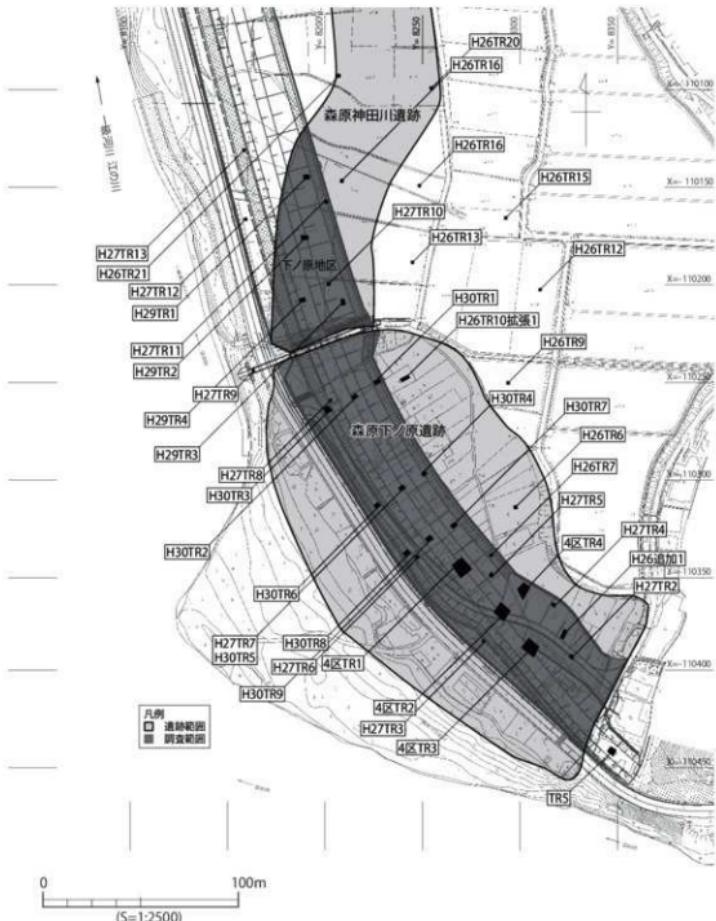
埋蔵文化財調査センター

所長 熱田貴保、総務課長 坂根祐二、高速道路調査推進スタッフ調整監

池淵俊一、管理課長 深田 浩、調査第一課長 林 健亮

報告書担当者 調査第一係長 仁木 聰

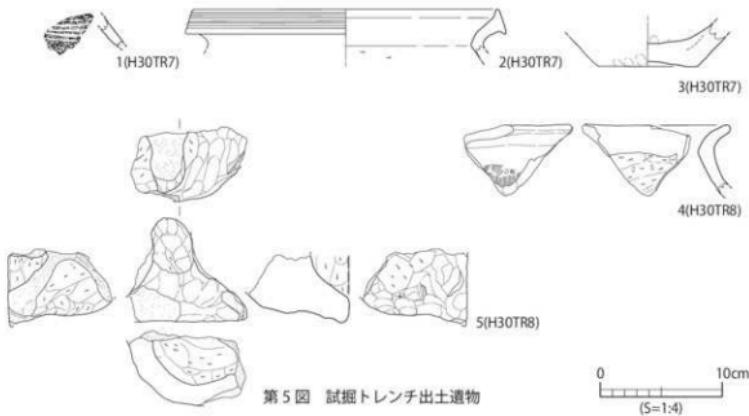
会計年度任用職員調査補助員 岩橋康子、幸村康子、原 英誓



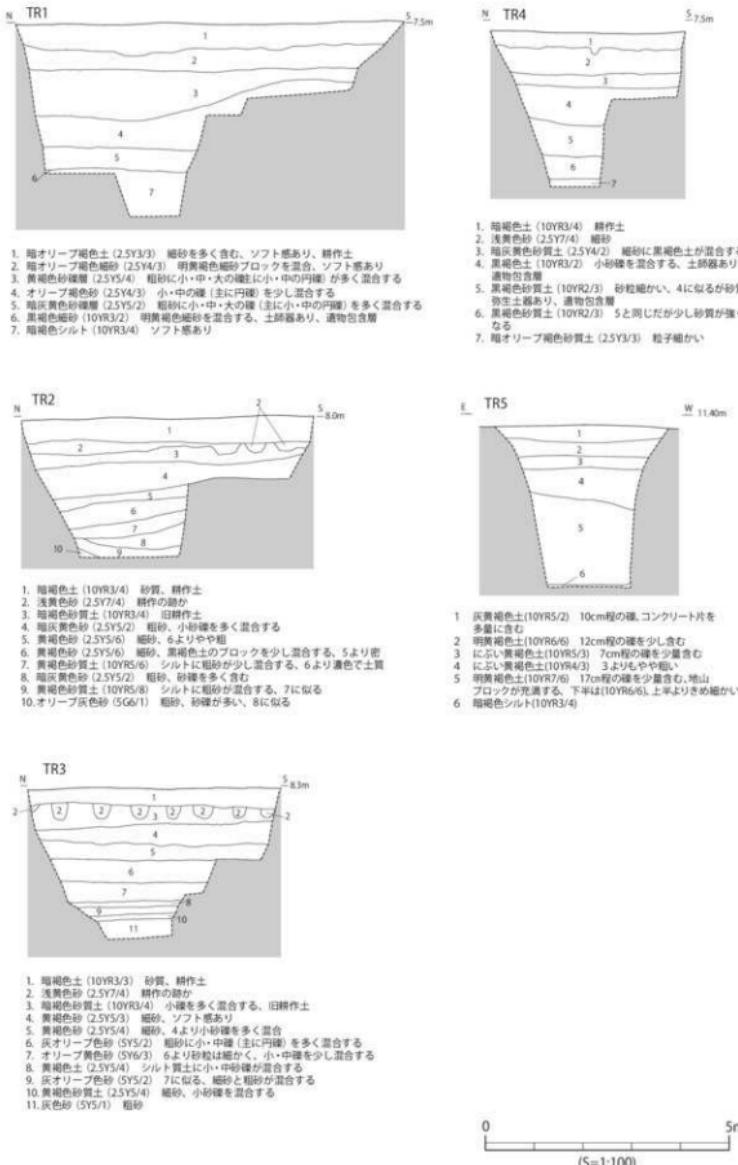
第3図 試掘トレンチ配置と遺跡範囲・調査対象範囲



第4図 グリッド・調査区配置



第5図 試掘トレンチ出土遺物



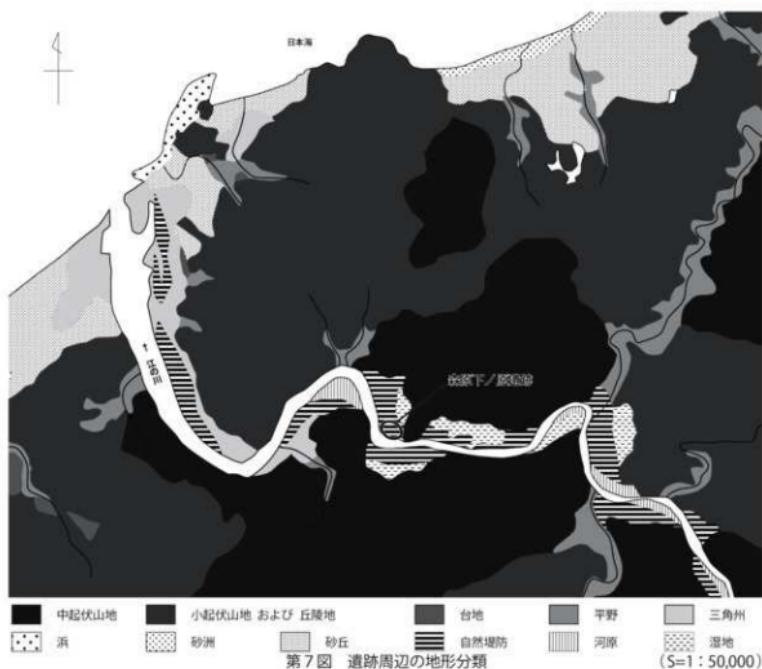
第6図 試掘トレーンチ土層

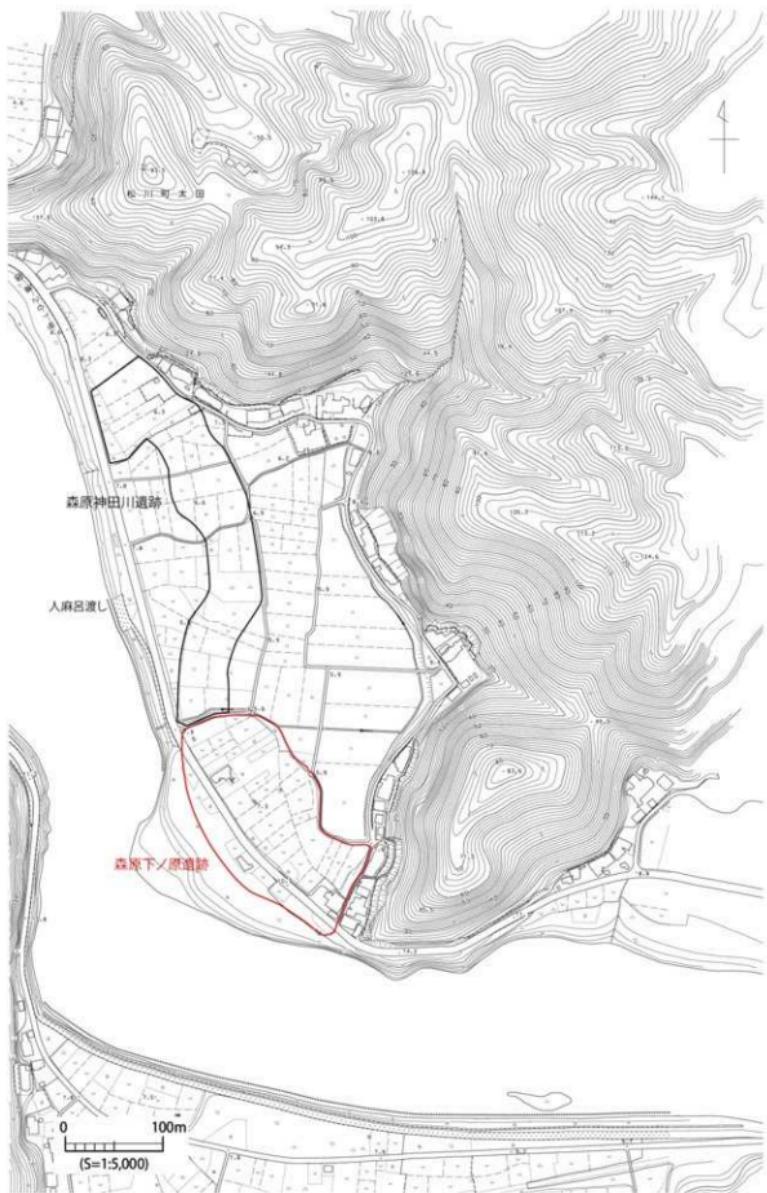
第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

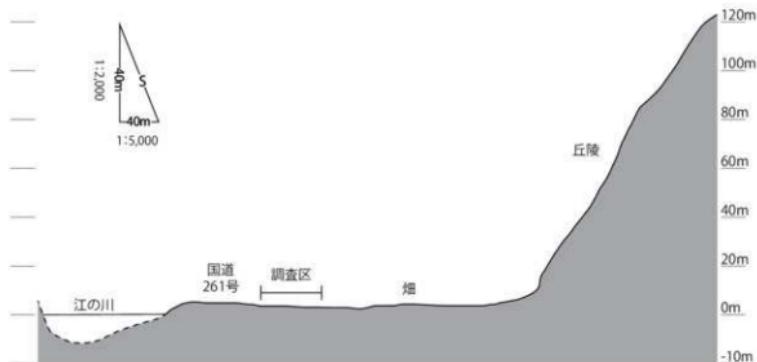
森原下ノ原遺跡は、島根県江津市松川町八神に所在する。中国地方最大の河川である江の川の河口から約5km遡った右岸に位置し、周囲を急峻な山塊に囲まれた約16haの沖積平野に形成された自然堤防とその後背低地に立地する(第7～9図)。現状で自然堤防上は国道や竹林となっており、後背低地は水田あるいは畠地として利用され、集落は山際に展開している。自然堤防は江の川の流路に平行して発達しているが、標高は高い所で8m程度であり、集中豪雨の際には自然堤防を越流し低地に河川堆積物が流れ込む。

江の川は、広島県北広島町の阿佐山に源を発し、三次市、邑南町、江津市などを経て日本海に注ぐ一級河川である。幹川流路延長194km、流域面積3,900km²を誇り、全国的にも珍しい先行河川という特徴をもつ。新生代第三紀末葉に起きた地盤隆起によって現在の中国山地が形成された際、江の川は隆起よりも速いスピードで下刻浸食を続けたため、結果として中国山地を断ち切って日本海へと流れ出る長大な水系が誕生した。流域の大部分が山間の狭隘部にあたり、上流の西城川や馬洗川などが合流する三次盆地付近を除き、広大な平野は存在しない。





第8図 森原下ノ原遺跡周辺の地形



第9図 遺跡周辺の東西断面模式図

第2節 歴史的環境

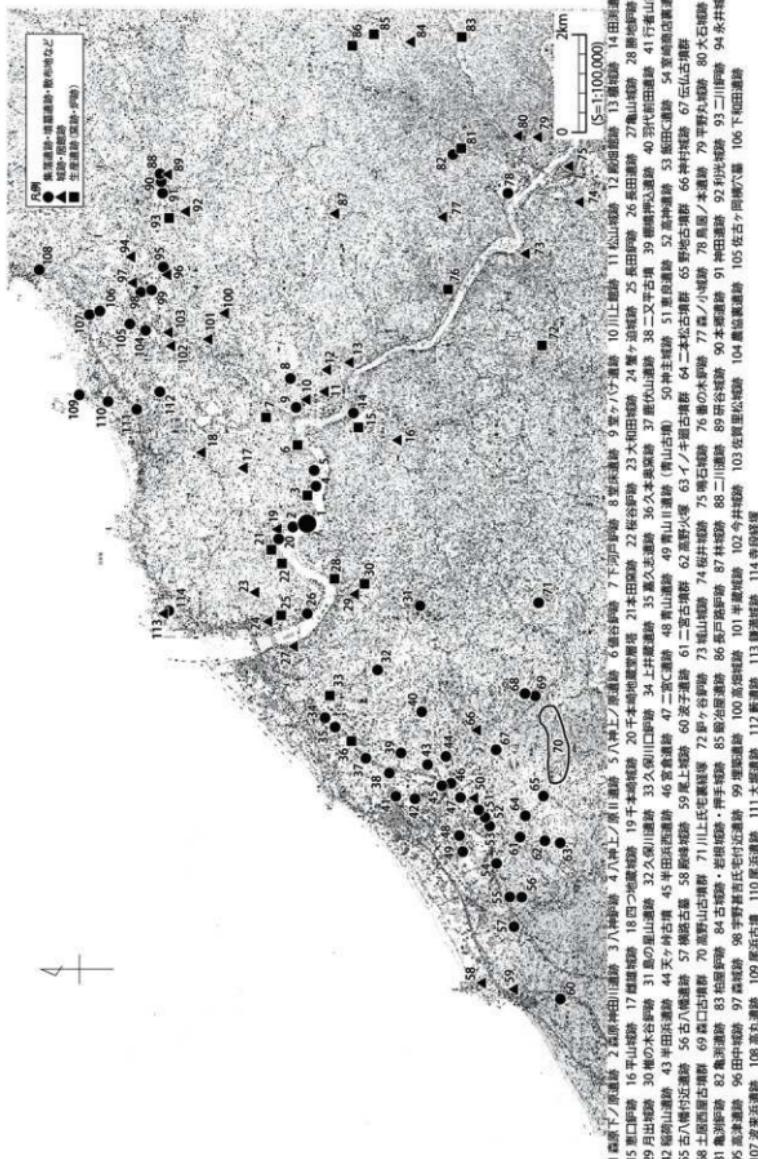
江の川は広島県北部の中国山地に源を発し、三次盆地を経て中国山地脊梁部を貫流して日本海に注ぐ。上流域にあたる広島県側では支流河川が合流する三次盆地が形成され、低丘陵上に集落や大規模な古墳群など数多くの遺跡が密集する。一方、中・下流域では、山間の峡谷化した流域の両岸に形成された小規模な河岸段丘や自然堤防上に遺跡が孤立的に点在するところに特徴があり、現状で大規模な集落や古墳は知られていない。後世の氾濫などにより消滅してしまった遺跡も多く存在すると考えられる。したがって、江の川沿岸部の遺跡の様相は不明瞭な点が多いが、ここでは日本海沿岸部も含めた江の川下流域における遺跡の変遷や概要を述べる。

1. 旧石器・縄文時代

江の川流域において、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は海浜部に多く、後期以降は内陸部にもみられるようになる。波子遺跡(60)では縄文時代中期の土器がまとまって出土しており、いわゆる「波子式」の標式遺跡となっている。中流域の沖丈遺跡、築瀬遺跡、都橋遺跡などでは、縄文時代後期から晩期の土器が多く出土しており、この時期に江の川流域の人口が増加した可能性が考えられる。とくに沖丈遺跡では多くの磨製石斧未成品が出土し、中国地方ではじめて縄文時代の磨製石斧製作地であることが明らかとなった。

2. 弥生時代

弥生時代前期は、埋築遺跡(99)、沖丈遺跡で遺構が確認されているが、その他の遺跡ではいずれも包含層からわずかに土器が出土する程度である。埋築遺跡でも溝状遺構が検出されているにどどまり、遺物はほとんどが包含層からの出土で、出土量も少ない。一方、沖丈遺跡では配石墓群が確認され、緑色凝灰岩製管玉の出土などがある。中期になると、古八幡付近遺跡(55)で環濠をともなう明確な集落が形成され、広島県備後北部地域の塩町式土器や瀬戸内地方で出土の多い分銅形土器製品が出土しており、江の川を介した交流の一端を示している。また、波来浜遺跡(107)では、



第10図 森原下ノ原遺跡と周辺の遺跡

貼石をもつ墳丘墓が確認され、中期後半以降に中国山地から山陰地方に展開する四隅突出型墳丘墓につながるものではないかとの指摘もある。後期になると遺構・遺物ともに増加し、高津遺跡（95）、宮倉遺跡（46）、半田浜西遺跡（45）、二宮C遺跡（47）、沖丈遺跡などで竪穴建物や掘立柱建物が検出され、各地で集落が形成されたことがわかる。とくに沖丈遺跡では多くの竪穴建物とともに鉄製品が出土し、鉄器製作がおこなわれていたことが指摘されている。その他、八神上ノ原II遺跡（4）でもこの時期の土器が多く出土し、付近に集落が存在した可能性が考えられる。

3. 古墳時代

古墳時代前期は、高津遺跡（95）や八神上ノ原II遺跡（4）で比較的多くの土器が出土しているものの、明確な集落の検出例はない。中期になると、高津遺跡や二宮C遺跡（47）で竪穴建物や掘立柱建物が検出され、後期にも高津遺跡や半田浜西遺跡（45）、堂庭遺跡などで集落や烟が確認されている。高津遺跡では水場と大溝と呼ばれる祭祀遺構が確認され、弥生時代終末期から古墳時代後期にかけて断続的に祭祀がおこなわれていたと考えられる。また、森原神田川遺跡（2）でも古墳時代後期を中心とする祭祀がおこなわれていた可能性が指摘されている。

墳墓としては、明確な前・中期の古墳は確認されておらず、行者山古墳（41）が前期から中期にかけての箱式石棺をもつ墳墓と考えられている程度である。一方で、後期以降は30基ほどの群集墳である高野山古墳群（70）や主頭大刀や牛歯などが出土した青山古墳（49）、古八幡付近遺跡（55）などで横穴式石室をもつ古墳があり、佐古ヶ岡横穴墓（105）などの横穴墓も確認されている。

4. 古代

律令期に全国的に駅路が整備されるなかで、山陰道が設けられた。また、一定の距離ごとに駅馬を備えた駅家が設置され、江の川下流域付近には樟道駅、江東駅、江西駅があったとされる。森原下ノ原遺跡周辺でこれらの古代道や公的機関が実際の発掘調査によって検出された例はまだないが、その存在をうかがわせる遺構や遺物が各地で確認されている。

波来浜遺跡（107）では古代の須恵器が数百点出土するほか、古墓から石帶が出土しており公的機関の存在が想定される。その他、古八幡付近遺跡（55）やカミヤ遺跡、飯田C遺跡（53）、恵良遺跡（51）、八神上ノ原遺跡（5）などでも竪穴建物や掘立柱建物、土師器、須恵器が確認され、各地で集落あるいは公的機関が存在したと考えられる。また、森原下ノ原遺跡から約3km江の川を下った渡津町では江東駅の存在が推定されており、長田遺跡（26）で土師器や須恵器が出土している。

特徴的な出土遺物としては、宮倉遺跡（46）で石見国分寺跡と同文の軒平瓦、半田浜西遺跡（45）では奈良三彩や土製権、越州窯青磁、高津遺跡（95）で「郡」のヘラ描き須恵器、古八幡付近遺跡（55）では統一新羅土器が出土している。

5. 中世

中世前期の様相は資料が乏しく不明な点が多い。しかし、この頃すでに江の川を利用した水運が盛んであったようで、遠く広島県三次市周辺まで往来していたという。下流域の田淵遺跡（14）や八神上ノ原遺跡（5）では、12～13世紀を中心とする掘立柱建物や小鍛冶炉が確認され、その一

端がうかがえる。その他、沿岸部を中心に半田浜西遺跡（45）、墨書き土器が出土した宮倉遺跡（46）、中世前期の建物群と中世後期の貿易陶磁器が出土した古八幡付近遺跡（55）、掘立柱建物から備前系擂鉢が出土した二宮C遺跡（47）、製鉄がおこなわれた可能性がある羽代前田遺跡（40）等の集落遺跡が確認されている。

中世後半、南北朝時代の動乱の際には、当時の地頭であった中原氏をはじめ石見の諸将の多くが南朝方に付しており、たびたび北朝方と争っていた。森原下ノ原遺跡から約3km江の川を遡ったところに位置する松山城跡（11）は南北朝に地頭として近江国から入部した中原氏（河上氏）により築城されたと伝えられており、建武3（1336）年に北朝方の攻撃を受け、翌4年にも城付近で戦闘がおこなわれたといわれている。また、詳細は不明だが、森原下ノ原遺跡を囲む丘陵北端には千本崎城跡（19）があり、その麓には千本崎地蔵堂層塔（20）が存在する。この辺りには「大津」という小字名が残り、江の川水運の拠点の一つとなっていたことがうかがえる。

室町時代以降の遺跡は調査例が少なく詳細は不明である。ただ、博多の豪商神屋寿貞が大永7（1527）年に石見銀山（大田市大森町）を再発見して以降、銀山は中国地方支配のための焦点となり、大内氏、毛利氏、尼子氏ら戦国大名に加え、石見地方の各領主たちの領地争いも交えた争奪戦となる。松山城下の市村では、「石州中郡川上市」などの市場が存在したらしく、これらを中心とした江の川下流域もこの戦いに巻き込まれていったようである。

6. 近世・近代

慶長5（1600）年、徳川家康が石見国の7ヶ村に禁令を発布し、江戸時代に石見銀山を中心とした地域は幕府直轄の領地となる。森原下ノ原遺跡が位置する江の川東岸は一部が浜田藩の領地となるが、替地により幕府領に復し石見銀山領として幕末まで継続した。また、全国各地の幕府領では、奉行や代官により盛んに新田開発がおこなわれ、森原神田川遺跡大津地区（2）の水田や畠、同下ノ原地区的水路はまさにそうした新田開発の様相を示すものと考えられる。

江戸時代中期から明治時代にかけて、恵口鉛跡（15）、桜谷鉛跡（22）、値谷鉛跡（6）など銑鉄を中心とした鉛製鉄が盛んになる。原料となる砂鉄は水運によって運ばれ、薪炭の供給も周辺の森林資源により豊富にあったと考えられる。

第3節 調査地周辺の地名

石見地方には、文化14（1917）年に成立した地誌、『角郭経石見八重篠』が伝えられている。著者は森原下ノ原遺跡にほど近い那賀郡太田村（現江津市太田）の庄屋、石田初右衛門春律である。この中では、石見各地域の地名の由来などが記されており、とくに森原下ノ原遺跡も含む春律の住宅周辺については詳細に記載されている。

森原下ノ原遺跡の所在する江津市松川町八神は、遺跡が位置する江の川および丘陵地に囲まれた低地と、低地南東側に張り出した尾根を隔てた八神上ノ原遺跡が所在する低地、およびこれら低地の北東側に広がる丘陵部を指す。『角郭経石見八重篠』によれば、八神には上の原、下の原、川原という3つの地域があり、一帯には大きな森が広がり、大元尊神の森と呼ばれていたことから森原という地名が生まれたとされる。上記の尾根を境として上流側が上の原、下流側が下の原と呼ばれ

ていたようで、川原の場所は定かではない。また、万寿3（1026）年の大津波の際、川下り村の下モの坂本村（現江津市桜江町）から長者が来て森や河原を開発し、田畠となしたとされている。その後長者は先祖の墓とともにこの地に移住し、下の原の森山崎というところに屋敷を構えたという。こうした点が森原下ノ原地名の由来となっているが、大津波の存在や下の原に屋敷があったという記述は本報告の発掘調査成果にも関わる可能性が考えられよう。

【参考文献】

- 石見地方未刊資料刊行会 1999『角郭経石見八重篠』
- 邑智町教育委員会 2001『沖太遺跡』
- 江津市 1973『波来派遺跡発掘調査報告書』
- 江津市教育委員会 1993『宮倉遺跡』
- 江津市教育委員会 2002a『江津の地名』
- 江津市教育委員会 2002b『埋蔵遺跡』
- 江津市教育委員会 2003『青山古墳』
- 江津市教育委員会 2004『堂庭遺跡』
- 江津市教育委員会 2005『高津遺跡』
- 江津市教育委員会 2008『カミヤ遺跡・羽代前田遺跡』
- 江津市教育委員会 2018a『八神上ノ原遺跡・森原上ノ原遺跡』
- 江津市教育委員会 2018b『八神上ノ原Ⅱ遺跡』
- 江津市教育委員会・浜田市教育委員会 1988『大平山遺跡群調査報告書』
- 島根県教育委員会 1995『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1（鹿伏山・半田西遺跡・二宮C遺跡・久本奥窓跡）』
- 島根県教育委員会 1997『嘉久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡』
- 島根県教育委員会 2000『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』
- 島根県教育委員会 2001『恵良遺跡・堂々塙窓跡・上条遺跡・水戸（三戸）神社跡（上条古墳）・立女遺跡』
- 島根県教育委員会 2020『森原神田川遺跡大津地区』
- 島根県教育委員会 2021『森原神田川遺跡下ノ原地区』
- 島根県教育委員会 2022a『森原下ノ原遺跡1～3区 1. 古代～近世編』
- 島根県教育委員会 2022b『森原下ノ原遺跡1～3区 2. 繩文～古墳時代編』
- 柳浦俊一 1984「石見における群集墳の一例—江津市千田町高野山古墳群の分布調査—」『島根考古学会誌』第1集 島根考古学会

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

1. 発掘調査区の立地

調査対象地は、江の川右岸に開けた小規模な氾濫原の南部に位置する標高約8mの微高地にあり、調査前は耕作地、宅地として利用されていた（第8図）。調査区北側には小規模な河川を挟んで森原神田川遺跡が立地する平地がある。この微高地は、背後に江の川に張り出す山塊があり、この下流側に形成された砂州、自然堤防に由来すると考えられる。

2. 発掘調査区とグリッドの設定

本調査にあたっては、森原下ノ原遺跡の調査対象範囲全体で共通のグリッドを使用するため、座標系に基づく座標軸を合わせた10m四方のグリッドを設定した（第4・12図）。グリッドは北西角を基準とし、東に向けアルファベットを、南に向けアラビア数字を振り各交点の北西角をもってグリッド名称とした。調査区は遺跡北側から1～4区を設定し、1区が約2,000m²、2区が約1,500m²、3区が約1,500m²となり、残りを4区（6,000m²）とした。なお、4区は廃土処理場所の確保が必要であったため、Nラインを境に北半と南半と便宜的に分割し、近世遺構面以下は北半、南半の順番で調査を行った。

3. 調査の方法

調査対象地は、江の川右岸沿いの国道に面していることから、国道と調査区の間に幅10m程度の空闊地を設けて道路法面の保全に配慮した。また、遺跡を構成する砂の粒径が大きく、掘削深度がかなり深くなることが予想されたことから、調査区壁は十分な勾配を確保し、一定深度ごとにステップを設けて壁面の崩壊防止に努めた。

表土掘削は重機によりおこない、その後包含層掘削・遺構検出を繰り返しおこなった。包含層の掘削時は主としてスコップ、ジョレンを使用し、出土する遺物の粗密に応じて草削りや移植ゴテを適宜使用した。遺構検出はジョレン、草削り、移植ゴテを使用した。

遺構の埋土掘削は、土層観察用ベルトを設定するか半截し、土層観察をおこないつつ掘り下げた。土層断面については、分層が可能なものは写真撮影後に断面図を作成し、単層のものについては土色を記録したうえで掘削した。遺構から出土した遺物は、適宜出土状況を記録し取り上げた。

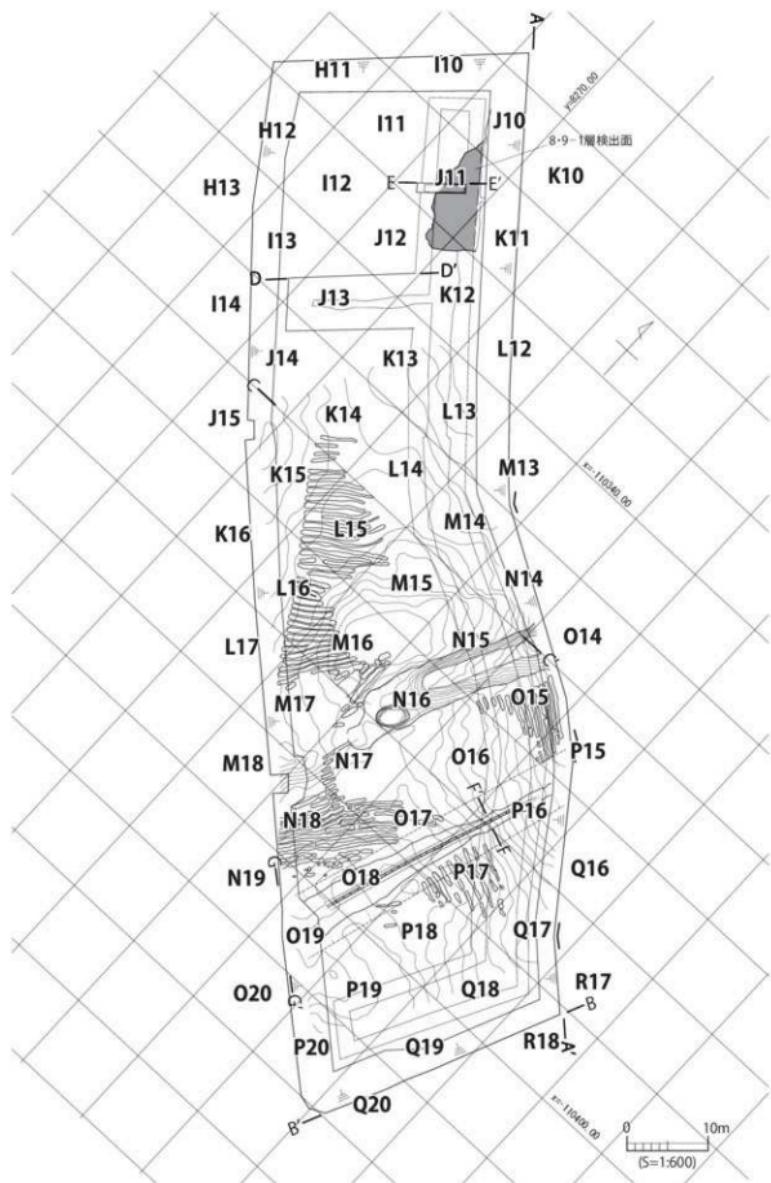
現地調査は令和3年5月2日から11月26日、調査対象面積は6,000m²で、最終的な発掘面積は4,200m²である。

4. 記録の作成

遺物の出土位置は基本的にグリッド単位で取り上げ、必要に応じて遺跡調査システム「遺構くん」を用いて座標を記録した。遺構の平面図は遺跡調査システムを用いて測量し、出力後補正をおこなうこととした。令和3年度には石檻に対して写真撮影による3D記録システムを併用した。断面図はオートレベルを用いて測量をおこない、高低差のある壁面については平面図と同様に遺跡



第11図 森原下ノ原遺跡の調査区配置



第12図 グリッド・調査区・全遺構配置図

調査システムによる記録作成をおこなった。遺構などの写真撮影はデジタルカメラを使用し、必要に応じて6×7版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）カメラによる撮影をおこなった。

5. 整理作業

出土遺物の整理は、以下のようにした。調査4区は遺構面が検出されず、全面が江の川の河川活動に由来する堆積層であり、出土遺物は後述する基本層序3・4層からの出土であった。出土遺物は、一括して分類・整理を行い、各時代・種別ごとの代表的な遺物を実測・撮影した。非掲載遺物については、時代・種別（器種）ごとに分類し、計数もしくは、重量によって報告した。

報告書作成はDTP方式を探用し、遺物・遺構の図面をデジタルトレースしたうえでレイアウトをおこなった。デジタルトレースや図の加工はAdobe社のIllustratorCC、PhotoshopCCを用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、PhotoshopCCを用いて階調、コントラストの調整をおこない掲載した。最終的な原稿執筆、編集作業はInDesignCCを用いておこなった。

第2節 基本層序

先ず既往の調査で明らかにされた森原下ノ原遺跡（1～3区）の基本層序について、説明する（第13図）。1～3区の基本層序は1～14層までに分けられている。森原下ノ原遺跡の1～3区では縄文時代中期から近世までの遺構・遺物が重層的に発見されている。縄文時代から古墳時代中期までは比較的安定した環境であったようで、それぞれの遺構面で集落に関わる遺構が検出されている。しかし、その後平安時代頃に当時の江の川の河川活動（大規模な洪水もしくは流路の変更など）の影響で調査区の西側が大きく削られており、その範囲は1区がもっとも狭く、3区にかけて広くなる。これによって西低東高い地形が形成され、比較的短時間で再び流水のない環境に戻ったようである。その後、中世前半は耕作などの人の活動や小規模な氾濫による再堆積によりこの地形が次第に埋没し、室町時代頃に再びほぼ元の地形に近い状態に戻ったと考えられる。この段階で複数の建物が並ぶ遺構面を検出している。近世以降は基本的に耕作地や鍛冶作業の場として利用されたようだが、氾濫による埋没を複数回受けしており、現代までそれが続いたようである。以上のような遺跡の変遷をもとに、森原下ノ原遺跡の基本層序を示す。

【森原下ノ原遺跡の基本層序】

1層 表土	2層 近世から近現代の耕作土	3層 近世の耕作土と氾濫堆積
4層 平安時代頃の河川活動による浸食後の再堆積		
5層 弥生時代中期から古墳時代中期を中心とする包含層		
6層 弥生時代前期の包含層	7層 弥生時代晚期から弥生時代前期の氾濫堆積	
8～10層 縄文時代晚期の湿地状堆積	11層 縄文時代後期の包含層	
12層 縄文時代中期の包含層	13・14層 無遺物層	
4層は河川活動によって削られた西側にのみみられ、中世後半の遺構はこの4層上面および東側の5層上面にまたがって検出した。3層は中世後半の遺構の上に堆積したもので、3～1層から3～4層に細分でき、耕作と氾濫堆積が繰り返されたことが判明した。ただ、これは調査区の西側でしか検出できておらず、東側では3～4層のみが堆積していた。5層はやや幅のある時期の包含層		

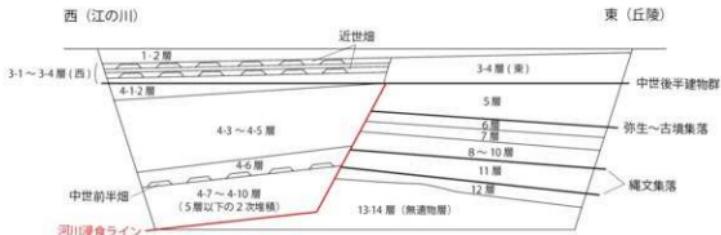
で、これを掘削した6層の上面で弥生時代後期から古墳時代中期の堅穴建物などの遺構を検出した。6層は平面的に調査区北側のみで限定的に確認された。新しい時期の遺物を若干含みつつ基本的には弥生時代前期の遺物で占められ、まとまりのある時期の包含層と考えられる。7層は1~3区の全体で確認でき、粒径が大きく逆級化構造が確認できたこと、遺物量が少ないとから短期間で堆積した氾濫堆積層である。8~10層は他の層に比べ粒径が小さくシルト質で、非常に固く締まっていた。厚い部分では1m以上の堆積がみられ、遺物量も少ないとから長期にわたって湿地状の環境が広がっていた可能性が高い。11層は縄文時代後期初頭・前葉の遺物を大量に包含しており、土層断面では2層に細分できたが、平面では違いを認識できなかった。粒径が大きく、堆積自体は流水の作用によるものと考えられるが、遺構も比較的多く検出しており、人の活動があった可能性が高い。12層は11層に比べると粒径が小さく締まりも良く、比較的容易に区別できた。遺物は小さな破片が多いものの、時期的なまとまりがみられた。2区では12層でも若干質の異なる層を確認し、当初12~2層としていたが、整理作業の中で縄文時代中期末の包含層であることが判明したため11~3層と改称した。これら縄文時代の包含層も6層と同様に調査区北側のみに限定されていた。13~14層は無遺物層であり、これより下層では人の活動痕跡は認められないと判断した。14層は灰オーリーブ色を呈する粒径の大きい砂で識別は容易である。約1万9千年前に噴火した三瓶山の浮石軽石の粒状片を大量に含んでおり、上記の層序とも時期的な矛盾はない。

一方、4区のほぼ全域は平安時代以降の江の川の河川活動により近世以前の遺構面が破壊されていた(第14~17図)。そのため、1~3区の基本層序のうち、4区で確認できた層序は、1層~4層、8~9層、13~14層のみであった。このうち、8~9層は4区の北東側で部分的にしか確認できず、遺構も確認できなかった。また、調査区の北半は、北東方向から南北西方向への土石流による砂礫堆積が著しかった(第14図A-A'ラインの4層、第16図D-D'・E-E'ライン参照)。

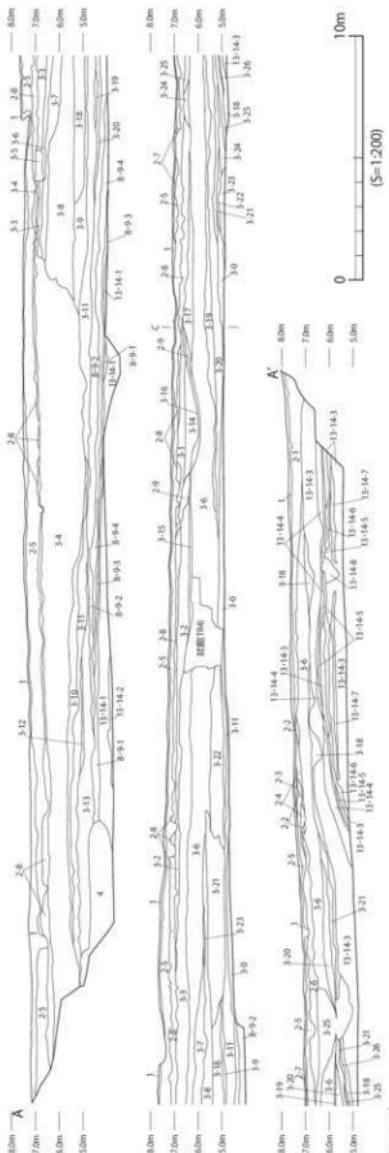
第3節 調査の成果

1. 遺構

4区では中世以前にさかのぼる遺構は確認されていない(第18図)。表土除去後に、近世以降の畠跡、近代の石樋が検出されたに過ぎない。畠跡は南北方向と東西方向のものがある。石樋は表土直下の2層から掘りこまれた溝(掘方)に設置されていた。なお、2層上面では石樋の掘方が認識できなかったため、3層掘削時に調査区東西壁で掘方の土層断面図を作成し、掘削時の安全面を考慮して、掘方の外側から掘削を進め、石樋全体を検出した(第19~25図)。石樋は東西方向に設置

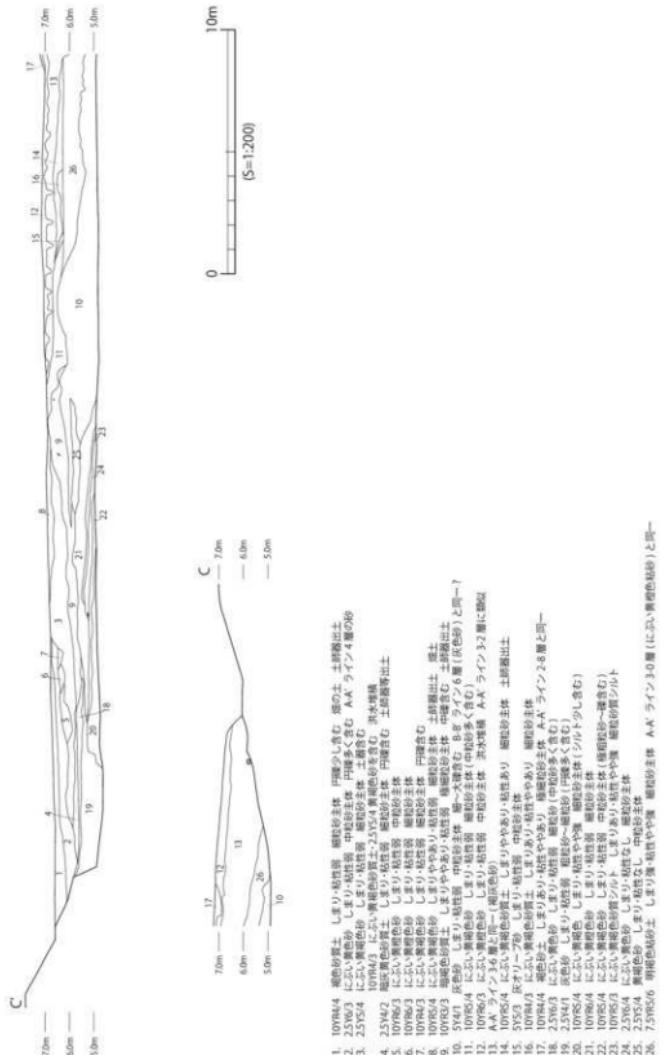


第13図 森原下ノ原遺跡の土層堆積模式図

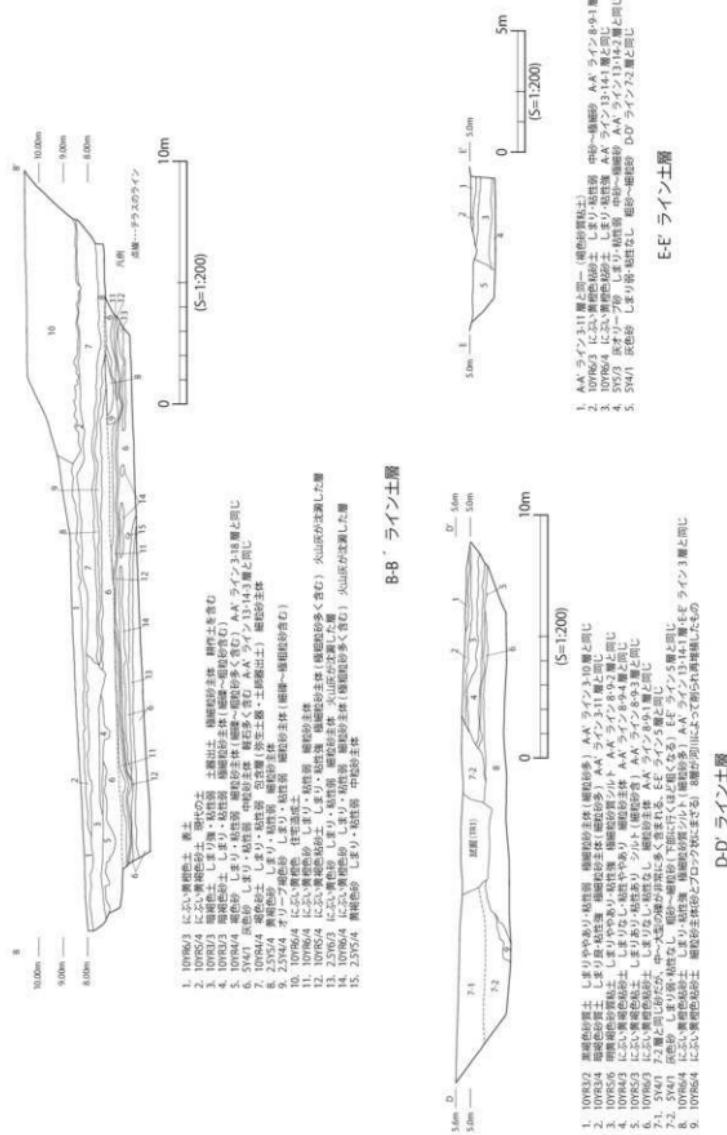


第14図 A-A' ライン土層図

されており、西側（江の川側）にかけて僅かに高くなっていることから、江の川からの取水が考えられる。一方、最東端の石樋の小口には板石（止水栓）が施されていた。石樋は大田市で産出する福光石の一種で製作されたもので、コの字型の身に板状の蓋が施されたものを一セット（全長1m）とし、全部で24セット（検出延長20m）が確認された。それぞれのセットは身・蓋の小口面に段違

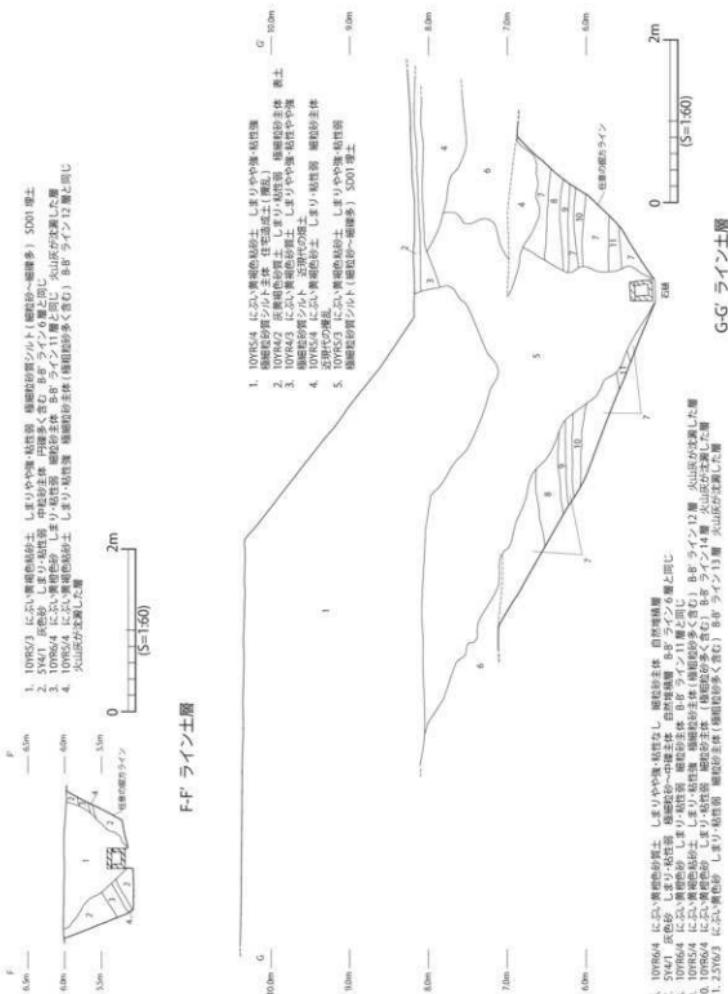


第15図 C-C'ライン十層図



第16図 B-B' ライン・D-D' ライン・E-E' ライン土層図

いの継目が施されていることから、セット間の接続と漏水防止がはかられている。なお、身の天板小口に約3cm四方の大きさで、「み」・「は」・「り」の文字が単体で印刻されていた身が3個体あった。止水栓を有した石樋以東は、木樋等の遺構は検出されなかつたが、この石樋の延長線上にあたる調査区東壁の土層断面には、石樋埋設に伴うものと思われる掘方が確認されている。石樋の機能は、江の川からの取水が考えられるが、実際の運用や廃絶等の状況は判然としない。



第17図 F-F' ライン・G-G' ライン土層図

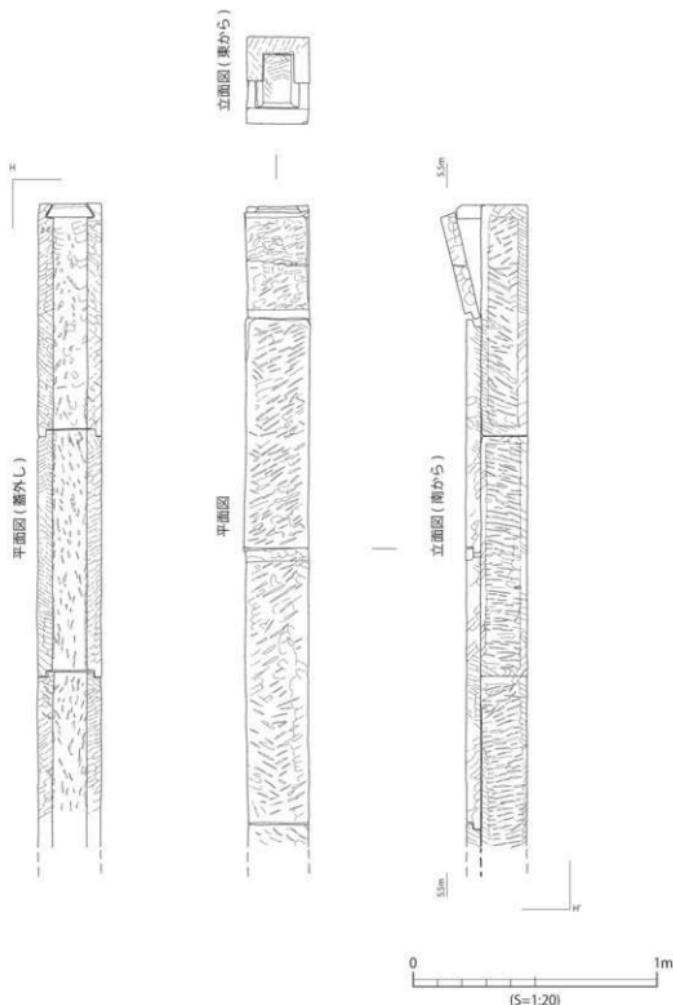
2. 遺物

4区の出土遺物は3・4層からの出土が中心で、一部が8・9層で出土している。遺物総量はコ

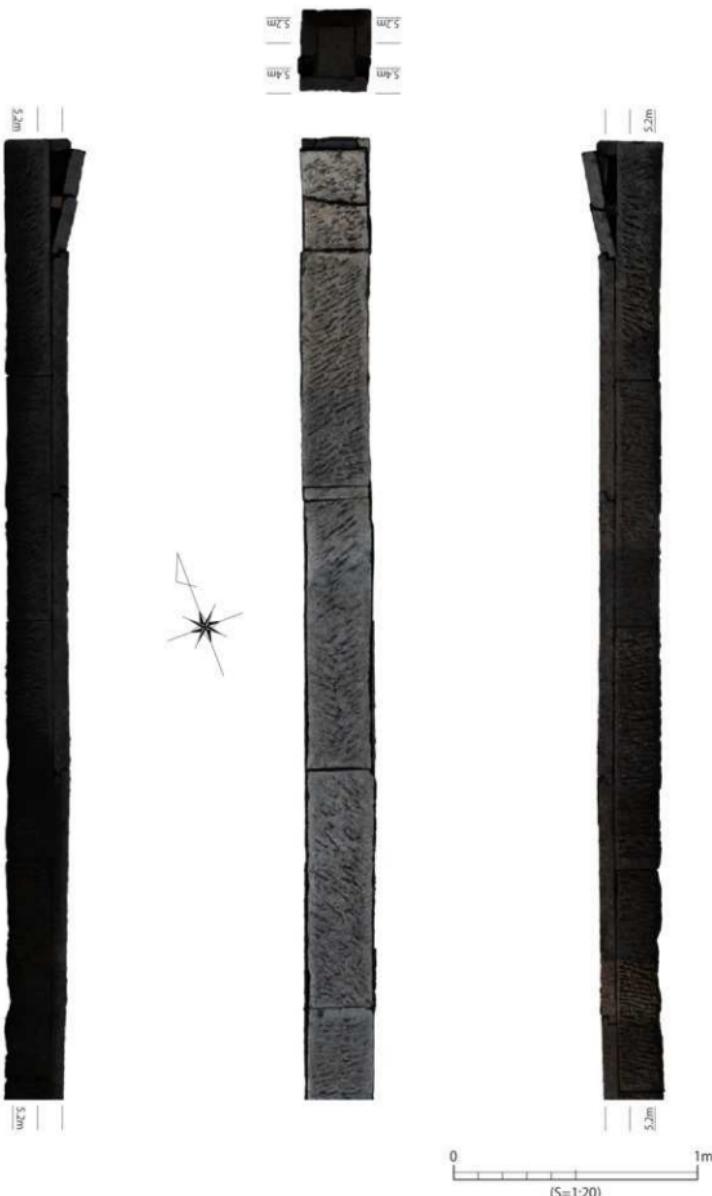


第18図 近世・近代遺構配置図

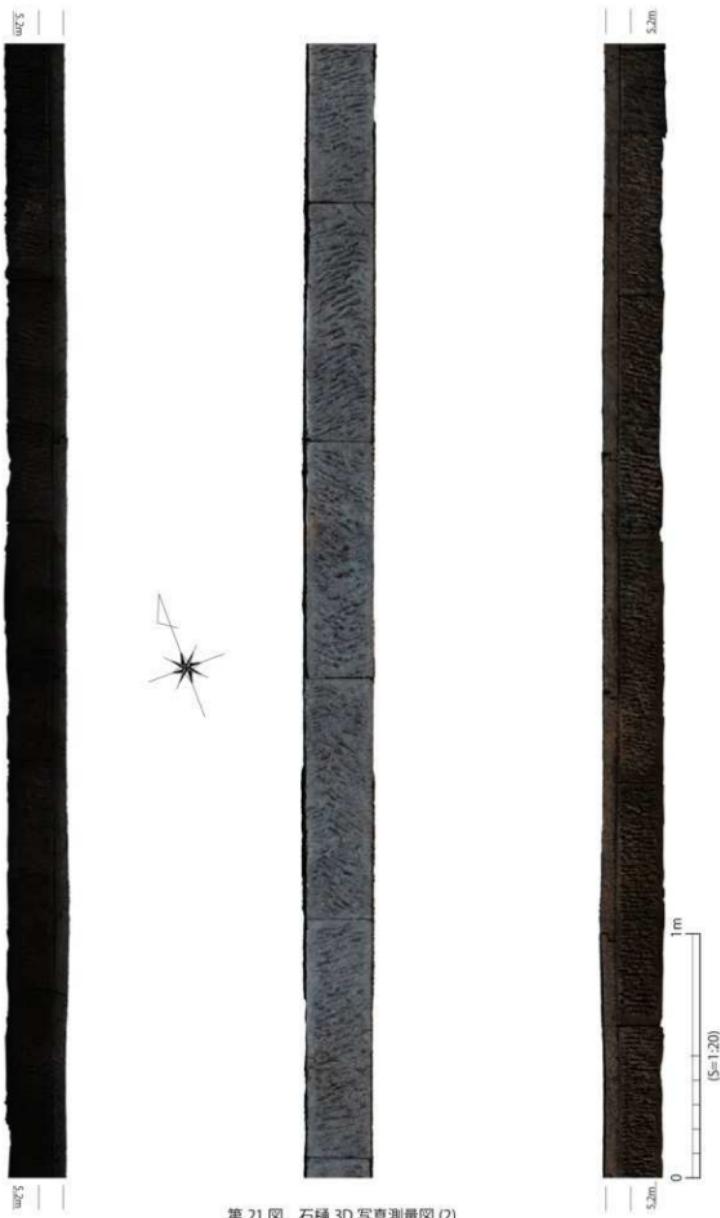
ンテナ箱（長さ58.5cm、幅38.5cm、深さ15.5cm）で100箱程度ある。河川活動による浸食後の再堆積や氾濫堆積からなる3・4層から出土した遺物は細片が多かったが、時代・種別・器種等の分類作業を進め、掲載遺物と非掲載遺物の分類を行った。ここでは、縄文時代から中近世の代表的な出土遺物を報告する。掲載・非掲載遺物を含め、時代・種別・器種等が判明した出土遺物の総点数と出土地点の傾向については、第4章第1節で報告する。



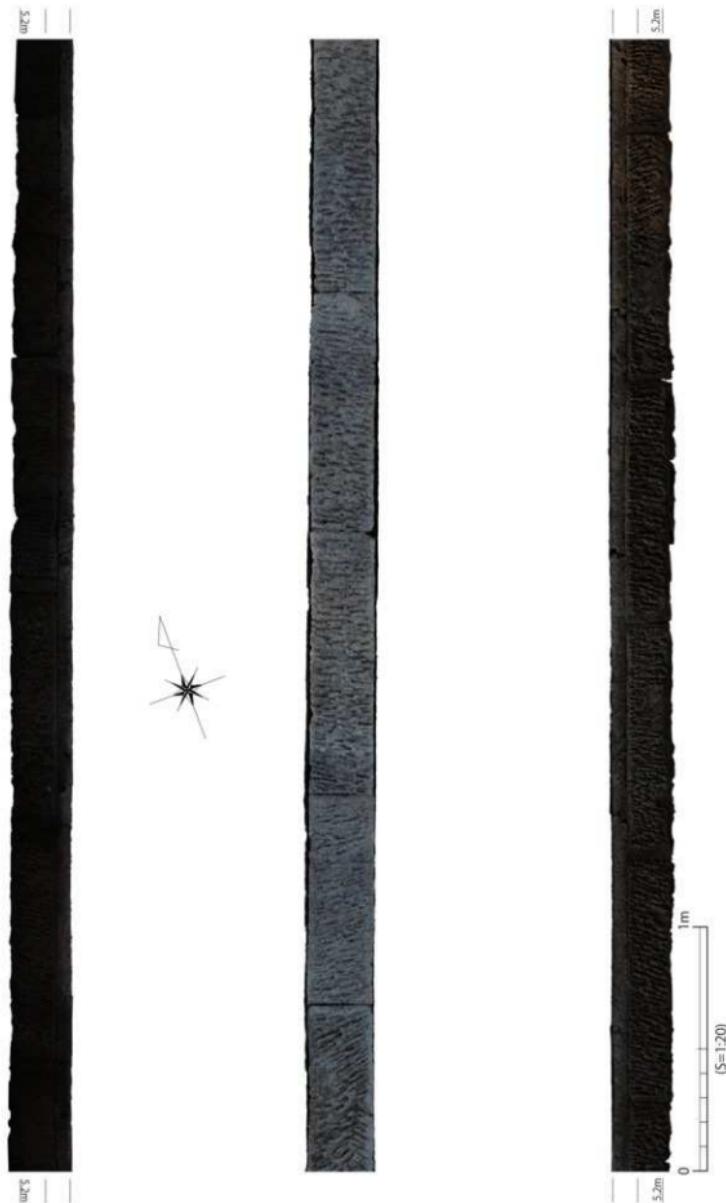
第19図 石壙実測図(H-H' ライン)



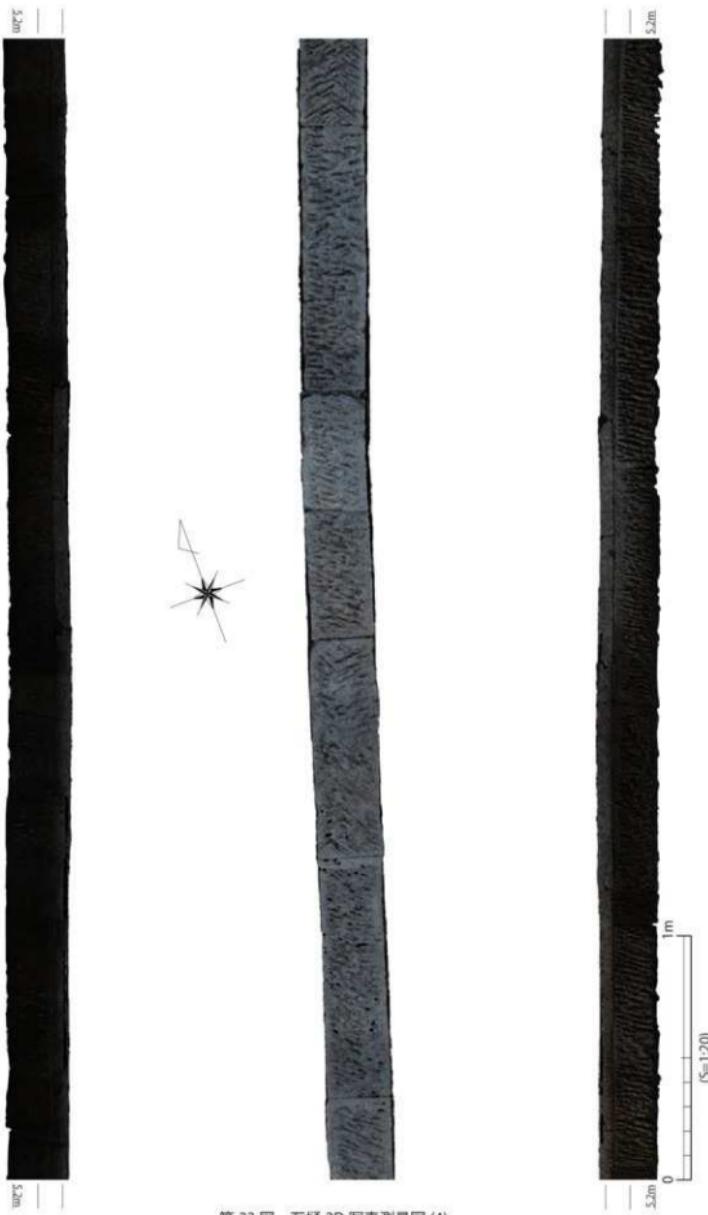
第20図 石樋3D写真測量図(1)



第21図 石垣 3D写真測量図(2)



第22図 石塁3D写真測量図(3)



第23図 石垣3D写真測量図(4)



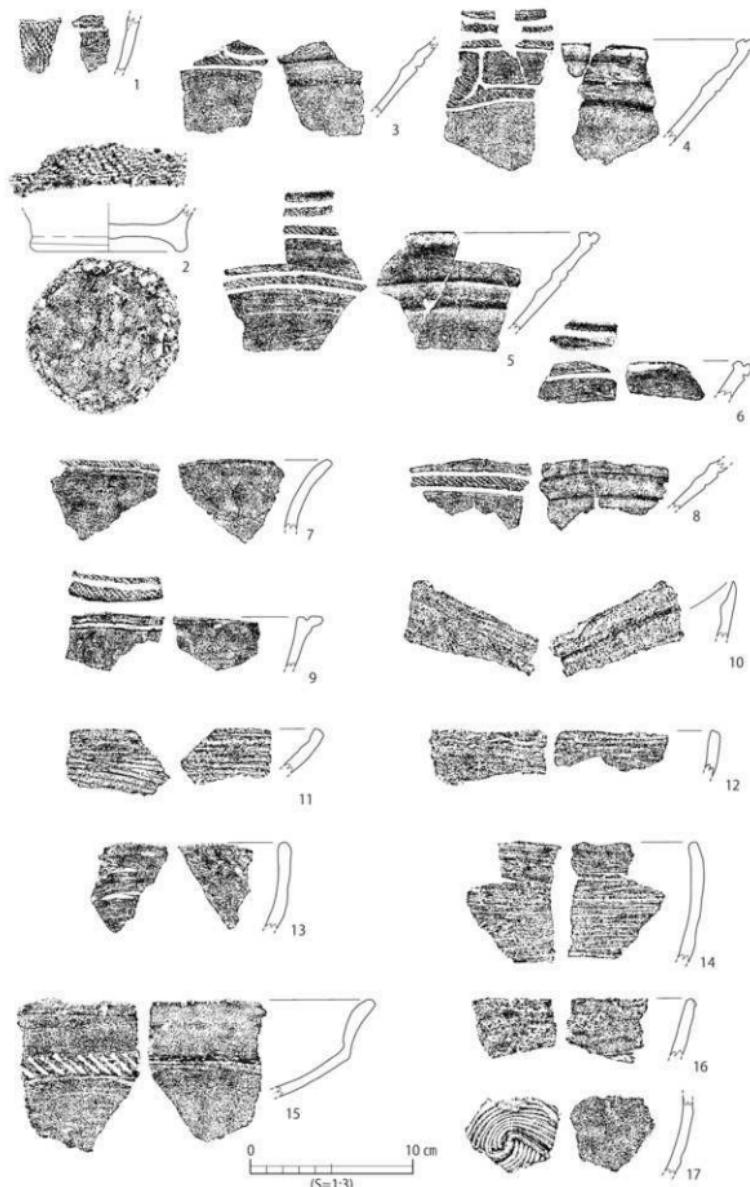
第24図 石垣 3D写真測量図(5)

縄文土器（第26図、図版13～14）

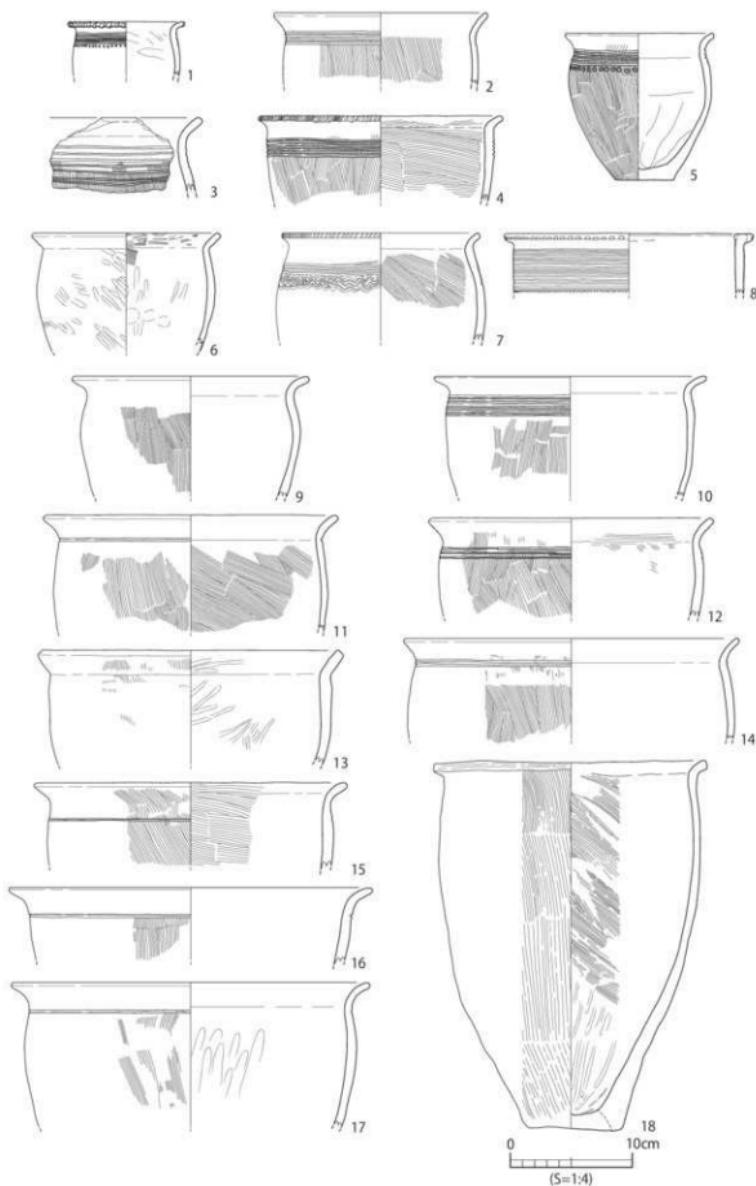
森原下ノ原遺跡4区では、縄文土器の出土が極めて少ない。1・2は縄文時代中期の深鉢で、波子式併行と考えられる。3～17は縄文時代後期と考えられる。3～9は幕地式で、3・4・6は浅鉢で、7～9は深鉢である。10・12・14は幕地式から布施式併行期の深鉢、同じく11は浅鉢、13は小型の鉢である。15は布施式併行以降の浅鉢で、17は崎ヶ鼻1式併行の深鉢で、明瞭な入り組み文が施されている。



第25図 石塹3D写真測量図(6)



第26図 繩文土器



第27図 弥生土器(1)

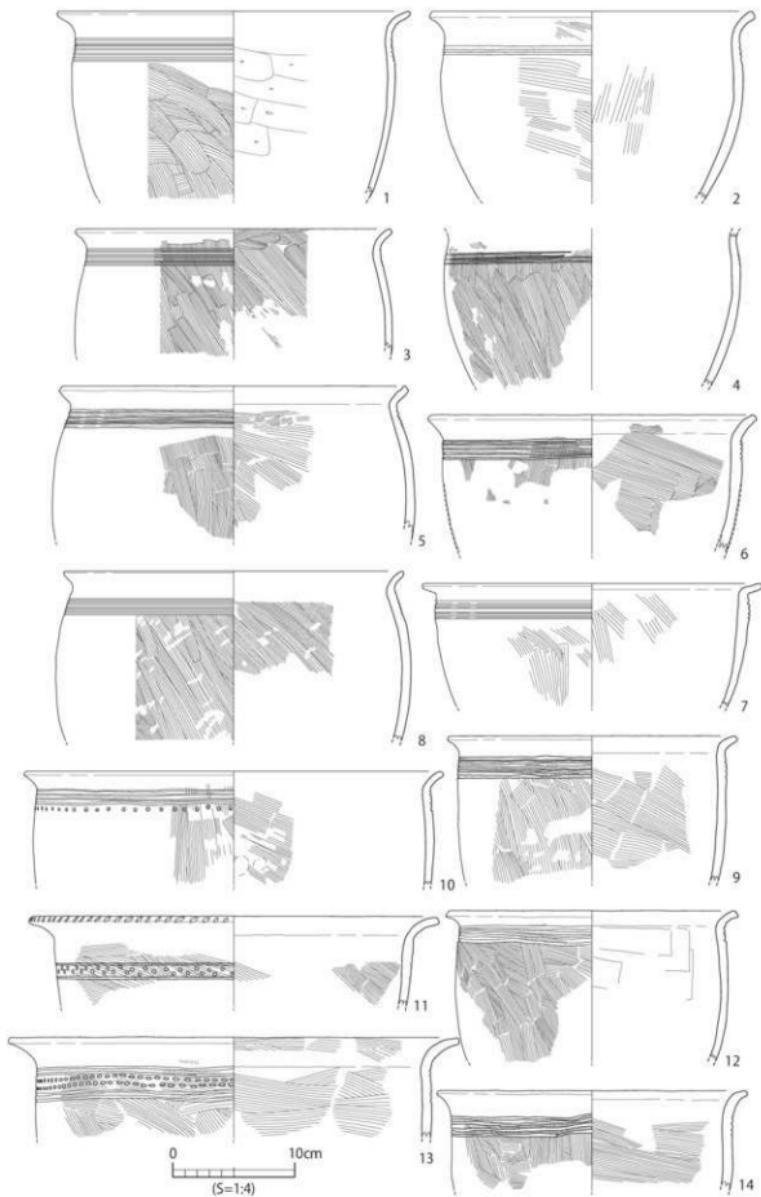
弥生土器（第27図～第32図、図版14～22）

第27図の1～18は弥生時代前期後半（I～3様式）の甕である。頸部に施されたヘラ描文、櫛描文の条数は施文のないものを含めて多様である。第56図に弥生時代前期後半の甕（非掲載）の施文頻度をまとめている。また外面調整に縦方向のハケ目が多用されている。1は復元口径9.5cmの小ぶりな甕で口縁部に斜交する連続した刻目が施されている。頸部には7条の櫛描文と円形の連続刺突文がめぐる。II様式の指標である櫛描文を施すことから、I～3様式でも新しい段階に位置づけられる可能性がある。2～4・10・12・14は頸部に複数条のヘラ描文が施されている。4は口縁部に刻目が施されている。5はほぼ完全形の甕であり。頸部にヘラ描き沈線と円形の連続刺突文が施されている。6は13と同じく頸部に沈線は施されていない。7は口縁部に斜交する刻み目、頸部には櫛状工具による沈線文と波状文が施されている。8は口縁端部が水平方向につまみ出され、円形の連続刺突文が施されている。頸部には14条のヘラ描き沈線、その下部に円形状とおぼしき連続刺突が施されている。口縁端部の形状からI～3様式でも古相のものと考えられる。9・11・15～17は頸部あるいは肩部に1条のヘラ描き沈線が施されているものである。18は口縁端部の中央に強いナデが施されている。外面の縦方向のハケ目は、器壁の下半部でナデ消されている。

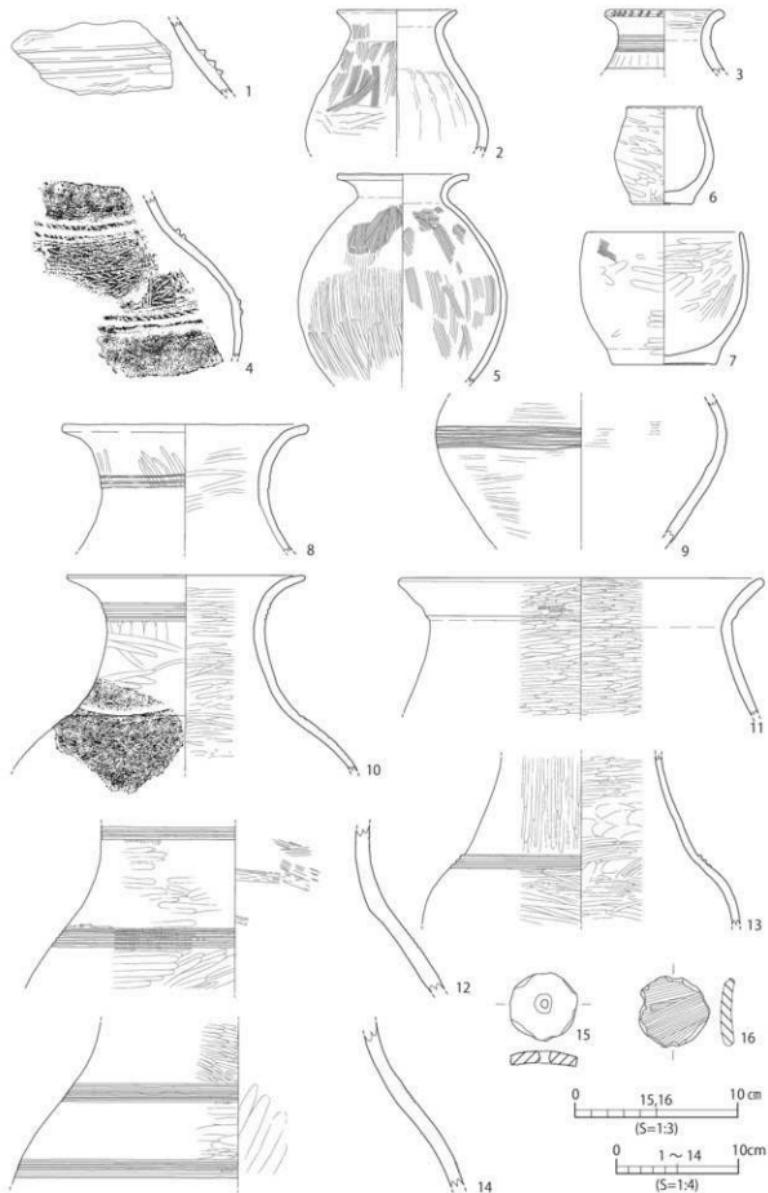
第28図は、すべて弥生時代前期後半（I～3様式）の甕である。1～14は概して、口縁端部が外半気味に聞く甕である。外面のハケ目は水平方向や斜め方向に施されている個体が認められる。また、頸部に施されたヘラ描文、櫛描文の条数は施文のないものを含めて多様である。1は7条のヘラ描き直線文が施されており、内面調整にはヘラ削りがなされている。2は頸部に2条のヘラ描き直線文、内面のハケ目はナデ消されている。3・4・6・7・9・10～14は外面に施されたハケ調整後に頸部のヘラ描き直線文が施されているのが、明瞭に観察できる資料である。このうち、10～13には円形の連続刺突文が施されている。

第29図の1～14は弥生時代前期後半（I～3様式）の壺、15と16は、甕片を素材とした土器円錐である。1・4は頸部に断面三角形の貼付突帯が施されている大型の壺で、4には貝殻腹縁による綾杉文が施されている。2・3・5は口径が10cm程度の小型の壺で、2の内面調整は縦方向の指ナデが顕著である。3は口縁部に斜行する刻み目、頸部に6条のヘラ描き沈線が施されている。5は無文の壺である。6はわずかに口縁が外反する小型の壺で、内面調整はナデのみである。7は6に類似するプロポーションであるが、口縁部が内傾するため鉢として報告しておく。8～14は口径が20～30cmを越える中・大型の壺で、頸部、肩部、あるいは胴部に複数条のヘラ描き直線文等が施され、内外面共に最終的にミガキ調整が施されている。10は貝殻腹縁を用いた羽状文や弧文が施されている。15の土器円錐は、両面共に滑らかに穿孔されている。16の土器円錐は対面する二力所に打ち欠いた痕跡が明瞭である。

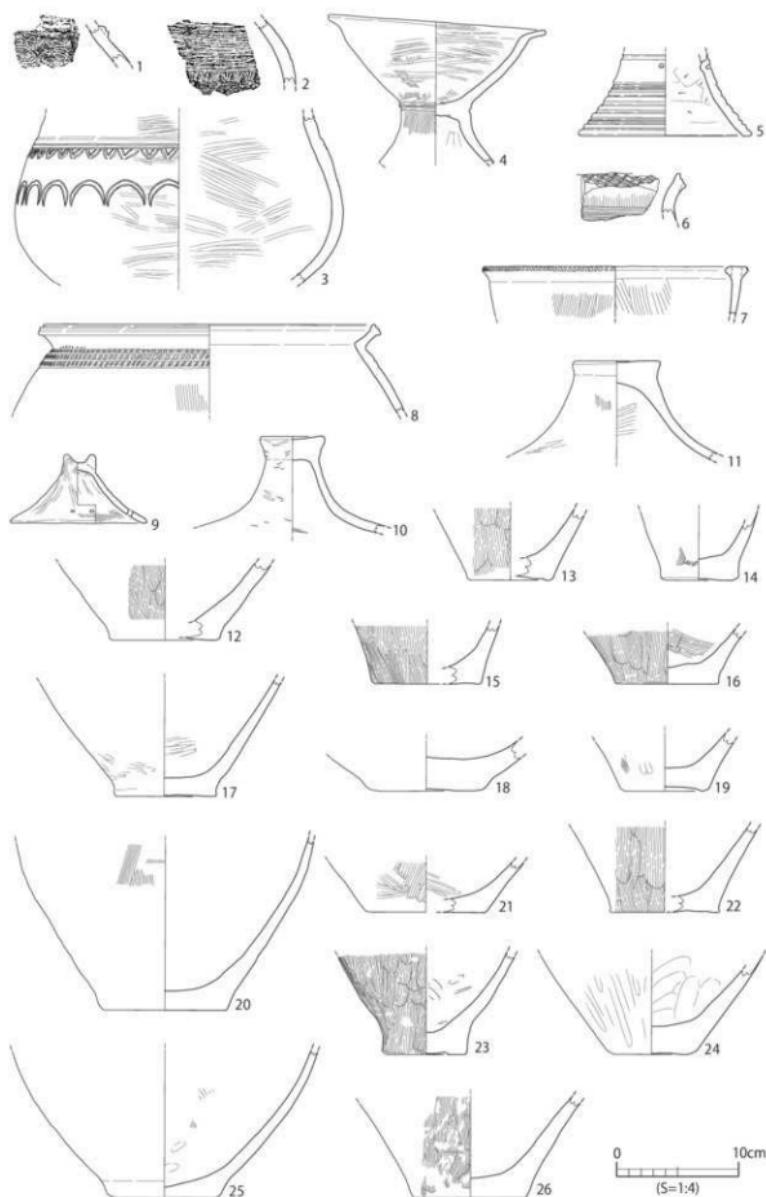
第30図はI～IV様式の弥生土器である。1～3は、I～3様式の壺である。1～3は貝殻腹縁による施文が明瞭で、2は木葉文が施されている。4は低脚環である。坏部と脚部の境に二条の沈線が施されている。5はIV様式の高脚脚部で、貫通していない円形小孔が認められる。6はII様式の甕で口縁に斜格子の刻み目が明瞭に施されている。7は口縁部が水平に成形されたIII様式の鉢と考えられる。8はIV-1様式の甕である。9～11はI～3様式の蓋である。9は天井部に二つの突起が施されている。12～26はI～3様式の壺・甕の底部である。



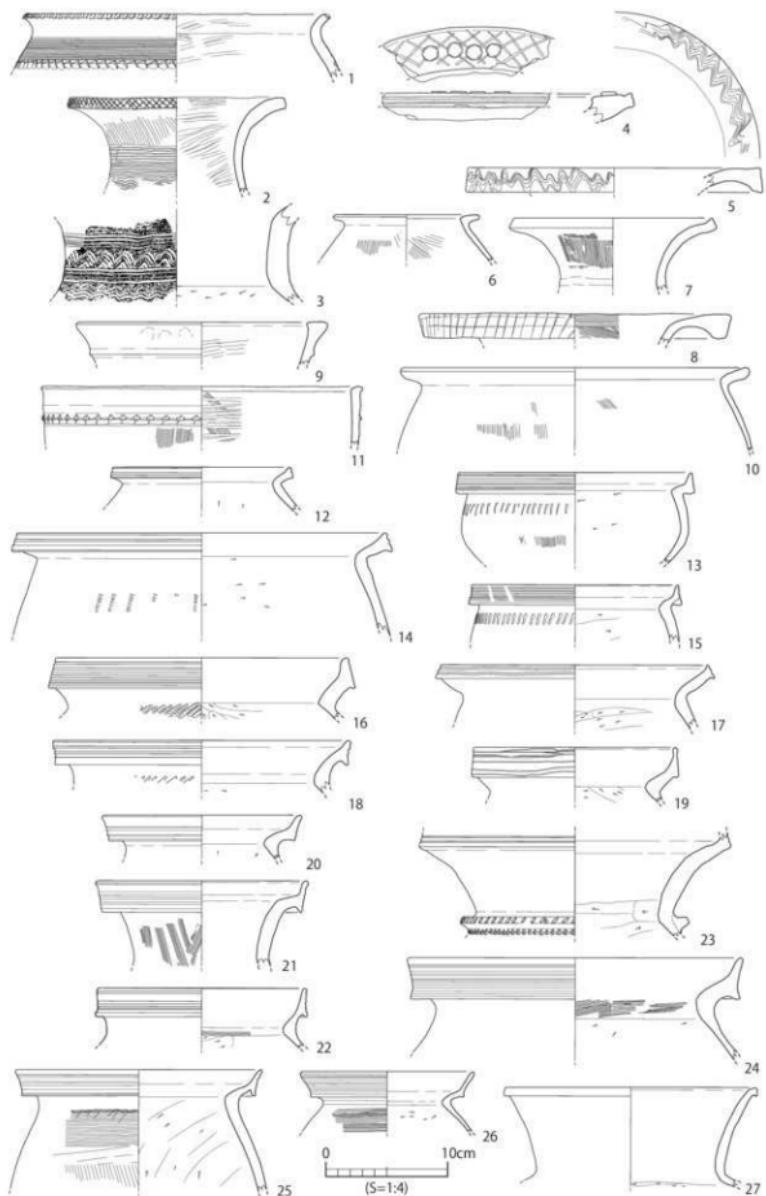
第28図 弥生土器(2)



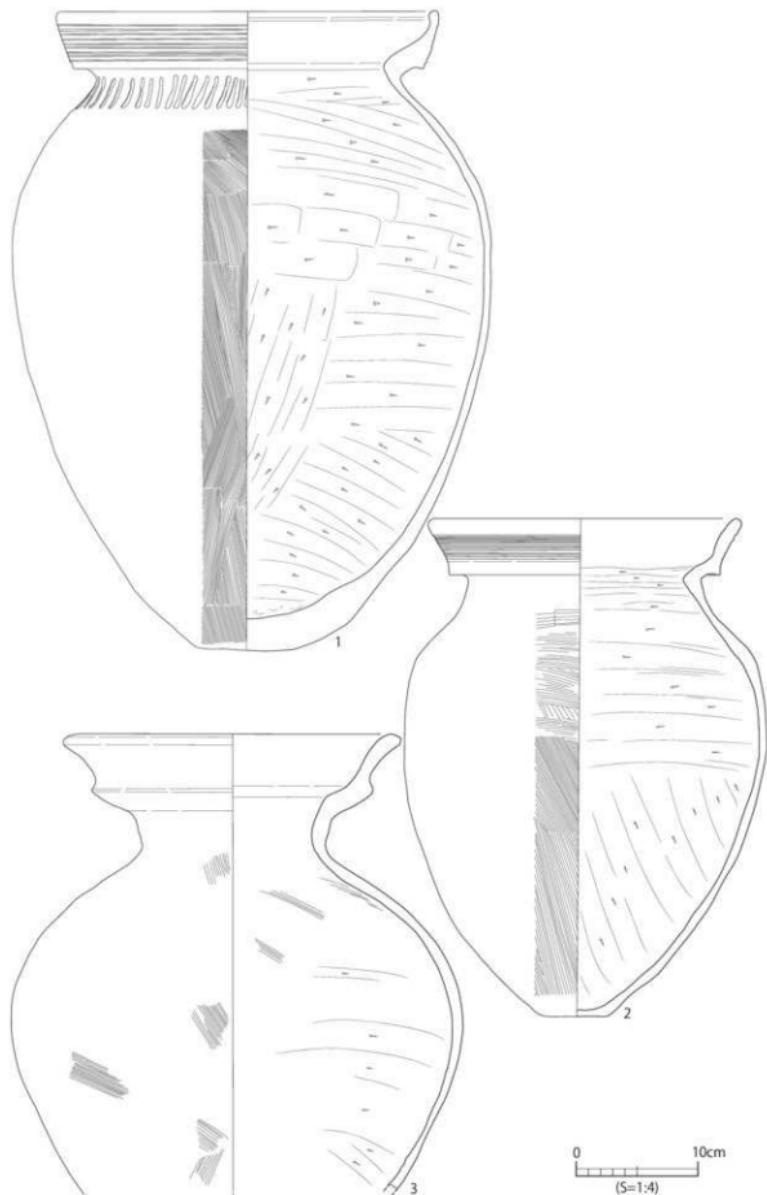
第29図 弥生土器(3)



第30図 弥生土器(4)



第31図 弥生土器(5)



第32図 弥生土器(6)

第31図はII～V様式の弥生土器である。1はII様式の甕で、頸部に6条の櫛描文、肩部に三角形の連続刺突文が施されている。2・3はII様式の壺で頸部に櫛描文や波状文が施されている。また、2には口縁端部に斜格子の刻み目が施されている。4～10はIII様式の壺・甕である。4・5の加飾壺には口縁部上端全面に斜格子文、円形浮文、波状文等が施されている。また4の口縁端部には2条の凹線文、5は波状文、8には斜行する刻み目が施されている。6・10・11はIII-1様式の甕で、口縁部は「くの字」状を呈している。7はIII-2様式の壺で、頸部に薄い貼り付け突帯が施されている。9はIII-1様式の長頸壺で口縁端部には指頭圧痕が認められる。12～14はIV様式の甕・鉢で、口縁端部に複数条の凹線文が施されている。13の鉢、14の甕の頸部には、刺突列点文が施されている。15～27はV様式の甕・壺である。15～19は口縁部が内傾するV-1様式の甕で、18・20は口縁部が外傾するV-1様式の甕、21は壺である。23は口縁部が内傾することから、V-1様式に位置づけられるが、頸部に突帯を有していることから備後方面など他地域からの影響が考えられる。22は19の擬凹線文とは異なり、明瞭に凹線文がめぐっていることからV-2様式に位置づけられる。24～26はV-3様式の甕である。27はV様式後半から末に比定される壺で、口縁部の形態に九州北部等の他地域からの影響が考えられる。

第32図の1・2はV-3様式の甕である。1は口縁部に9条の凹線文、頸部に刺突文が施されている。2は口縁部に擬凹線文が施されている。3は古墳時代前期後葉の壺である。

古墳時代土師器（第33図～第34図、図版23～28）

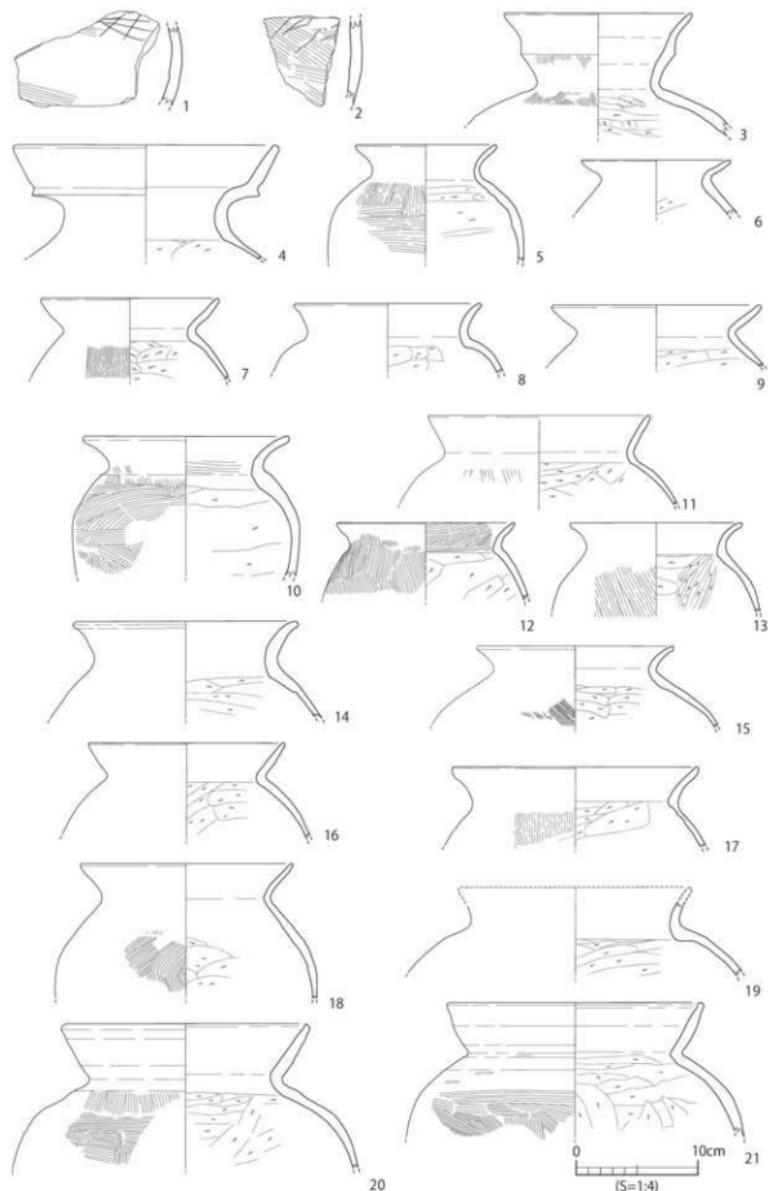
森原下ノ原遺跡4区では、古墳時代前期後半から中期前半にかけての土師器が比較的まとまって出土している。

第33図の1・2は線刻絵画のある古墳時代前期の土師器壺（甕）片である。絵画は部分的なものであるため、そのモチーフは不明である。森原下ノ原遺跡1区では、龍や雷を表現した古墳時代前期後半の壺が出土していることから、1・2も前期後半に属する可能性が高いものと考えられる。3は複合口縁の甕、同じく4は壺で、古墳時代前期後葉に位置づけられる。6・7・9は「くの字」口縁の布留式甕である。5・8・10～19は、古墳時代中期前半の甕である。20・21は古墳時代中期前葉の大型の甕である。

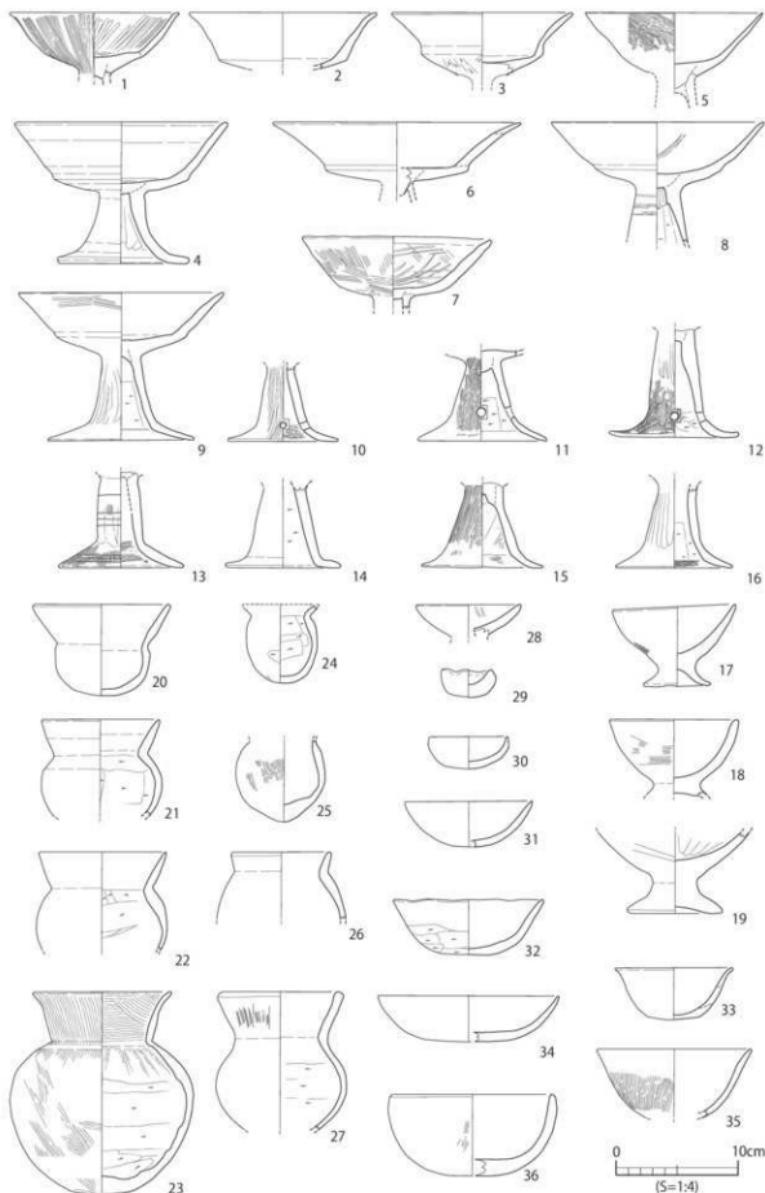
第34図の1～16は高坏である。1と5は坏身が椀型の無稜外反で脚部との接合方法は円盤充填である。2～4・6・8の环身は段やアクセントがつく有稜外反のものである。5は坏身の外面に縱方向の皺が多く観察できることから、型作りで形成されたものと考えられる。また内外面ともに赤彩が施されている。いずれも古墳時代中期前半に位置づけられる。10は脚部裾近くに3つの円形透かしが認められる。17～19は古墳時代中期前半の低脚坏である。20～22は古墳時代前期後半の小型壺、23・27は古墳時代中期前半の小型壺、同じく26はミニチュア土器の甕である。24・25はミニチュア土器の壺である。28は小型器台であるが、脚部は欠失している。29・30はミニチュア土器の坏で、29は手捏ねで成形されている。30～36は坏である。古墳時代中期前半のものである。

須恵器（第35図～第36図、図版29～31）

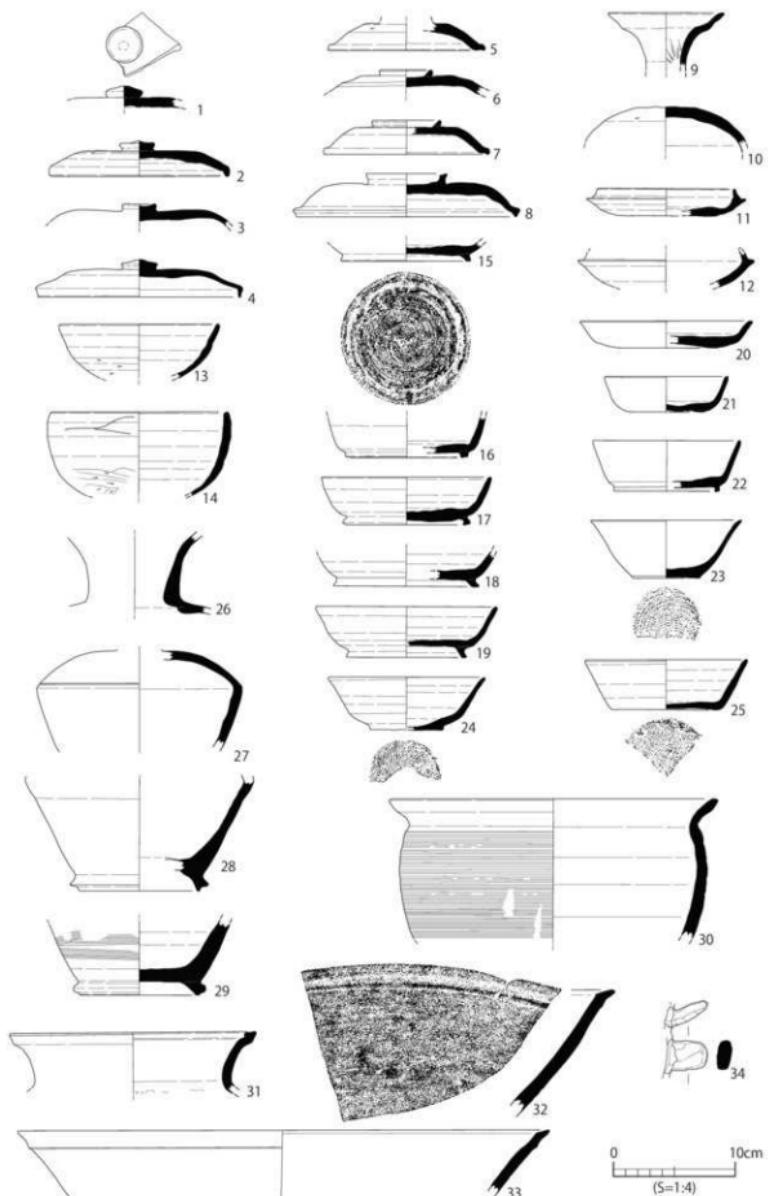
第35図の1～4は宝珠状もしくはボタン状のつまみを有する蓋で、7世紀後半から8世紀前



第33図 古墳時代土師器(1)



第34図 古墳時代土師器(2)



第35図 須恵器(1)

半の石見7・8期、5～8は輪状つまみを有する蓋で、8世紀代の石見9B期に相当すると考えられる。9～12は古墳時代後期の須恵器で、9は縁の口縁部、10は环蓋、11・12环身である。6世紀後葉～7世紀前葉の石見3・4期と考えられる。13・14は碗である。8世紀後半代の石見9B・10期と考えられる。15～19・22は高台付杯である。石見9B期と考えられる。20は皿で、21は小ぶりの环である。8世紀後葉～9世紀代の石見10期と考えられる。24・25は底部に回転糸切の痕跡が明瞭な环である。9世紀代の石見10期以降と考えられる。26・27は長頸壺の上半部、28・29は底部に高台のある長頸壺と考えられる。いずれも石見8期以降と考えられる。30は広口壺で、胴部に明瞭なカキ目が施されている。31・33は甕の口縁部である。32は大型器台の口縁部の可能性がある。34は把手であるが、直か壺に付随するのかは不明である。

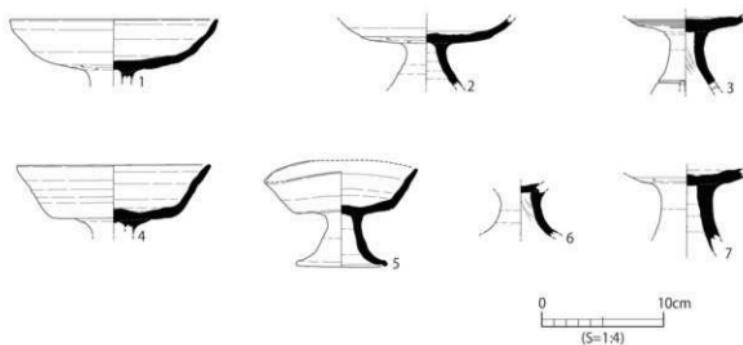
第36図の1～7は高杯である。脚部に透かし孔がある個体は見つかっていない。环部は内湾するものと直線的なものがある。脚部の形態が不明なものが多いが、概ね7世紀後半～8世紀にかけての古墳時代終末期～奈良時代前半に相当するものと考えられる。

古代・中世土師器（第37図、図版31～32）

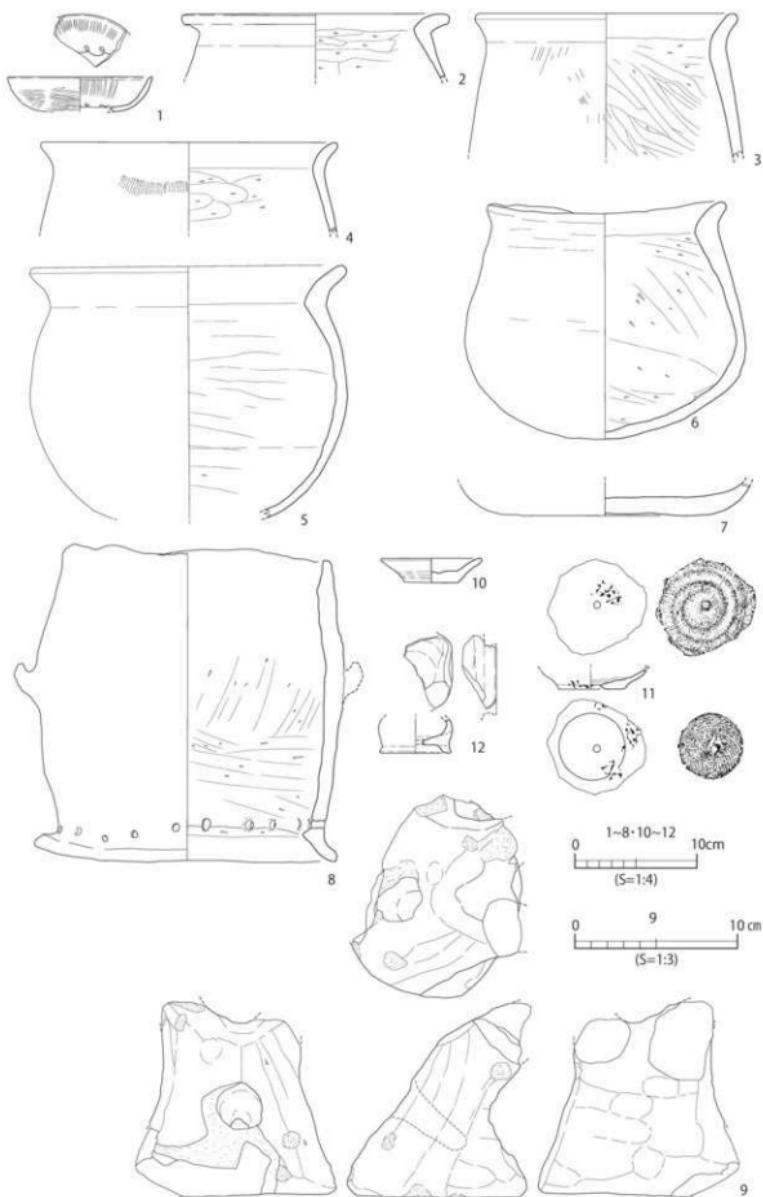
第37図の1は赤彩の暗文土師器である。古墳時代終末期の7世紀前半のものである。2～6は甕、7は厚手の皿、8は瓶、9は土製支脚である。いずれも8世紀～9世紀代、奈良～平安時代の資料と考えられる。8の瓶は北陸に類似資料がある（青山2013）。10～12は中世の土師質土器である。10は皿である。11は灯明皿で中心部に燈心を通すための小孔が穿たれ、内外面に煤が付着していることから、同様の皿を複数枚重ねて火をともして使用したものを考えられる。12は耳皿である。

土製品（第38図、図版33）

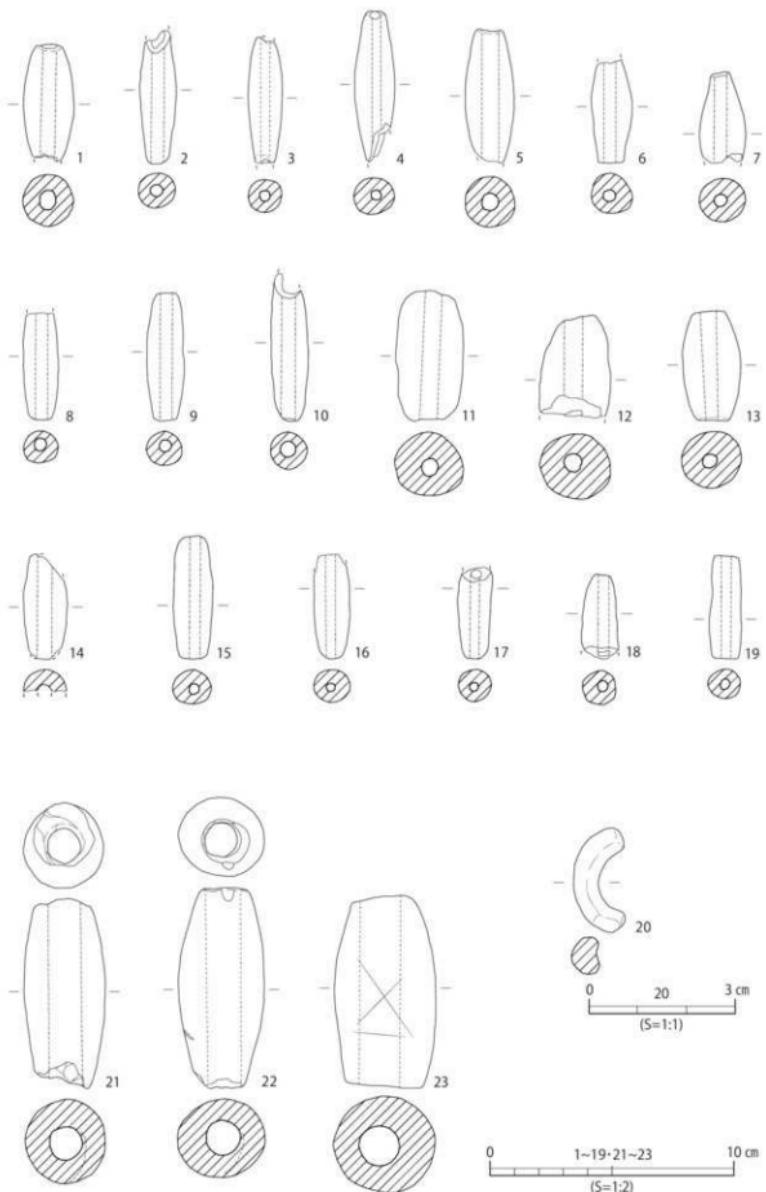
第38図の1～19・21～23は中世・近世以降の土錘である。1～19は長さ4～5cm程度の大きさである。13・19は端面のエッジがシャープであることから、近世以降の所産である可能性が考えられる。21～23は長さ8cm程度の大型品で、線刻のある23は石見焼の製品である。20は勾玉状の土製品である。古墳時代前半期の可能性が考えられる。



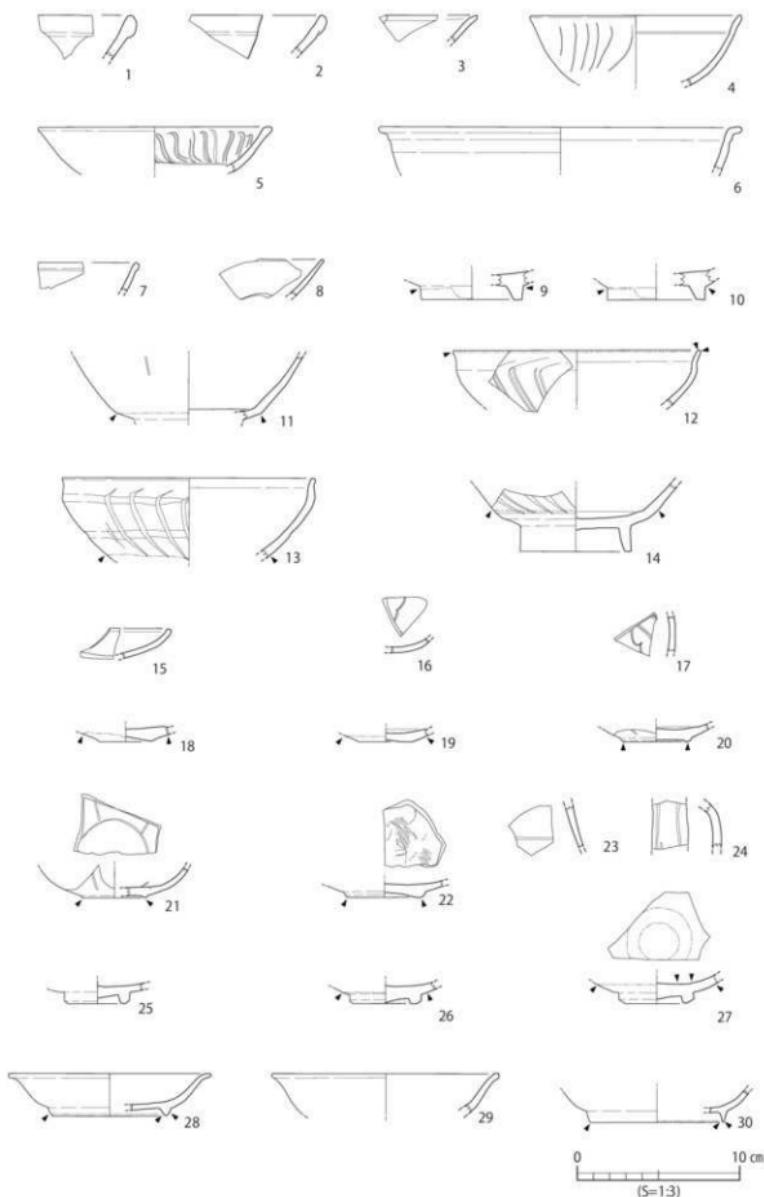
第36図 須恵器(2)



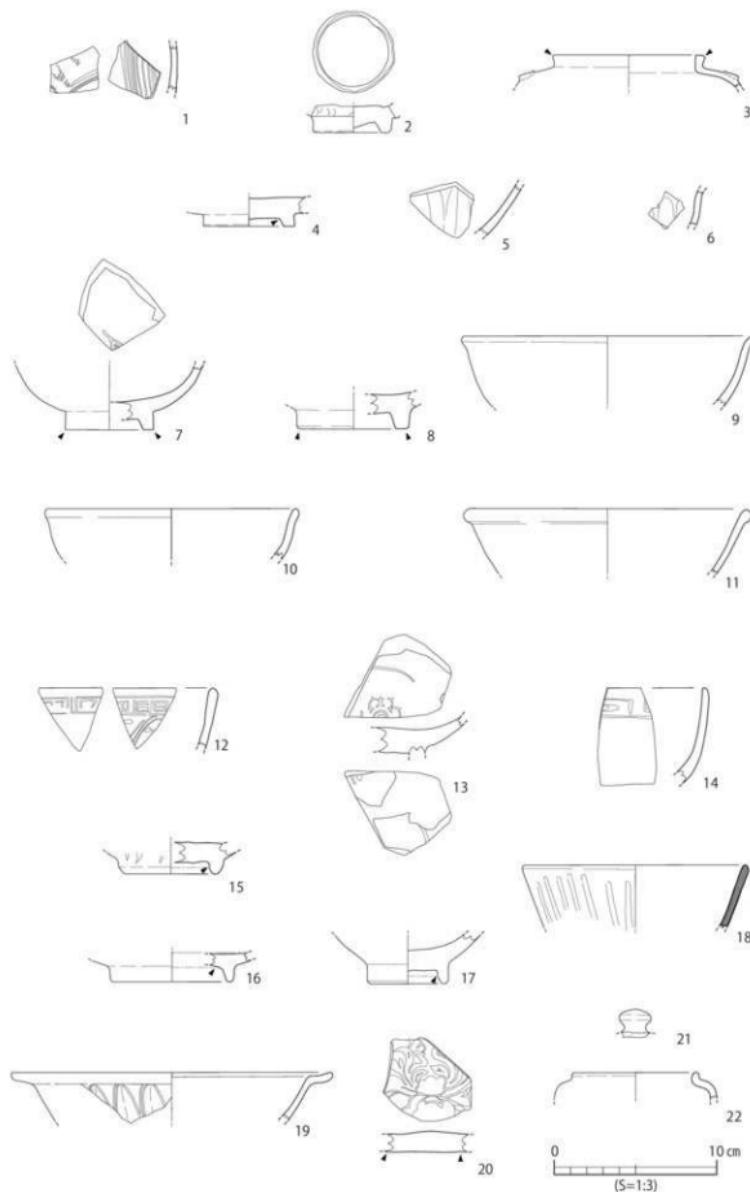
第37図 古代・中世土師器



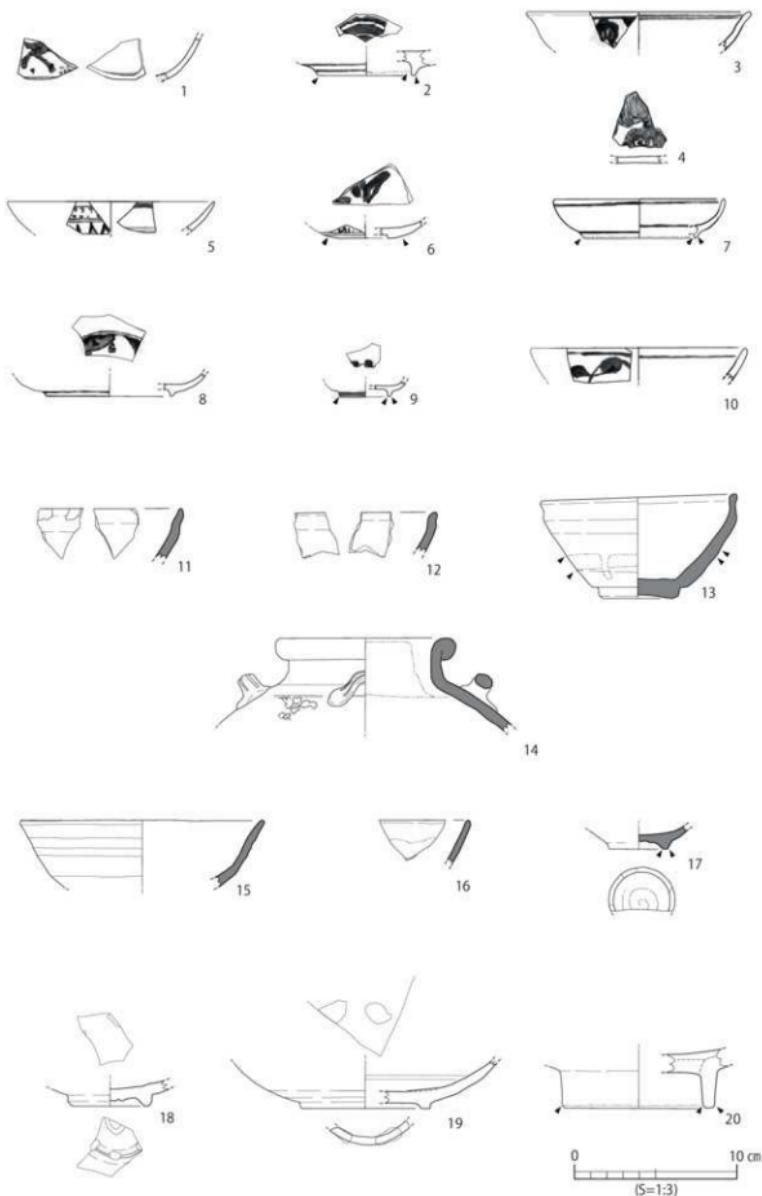
第38図 土製品



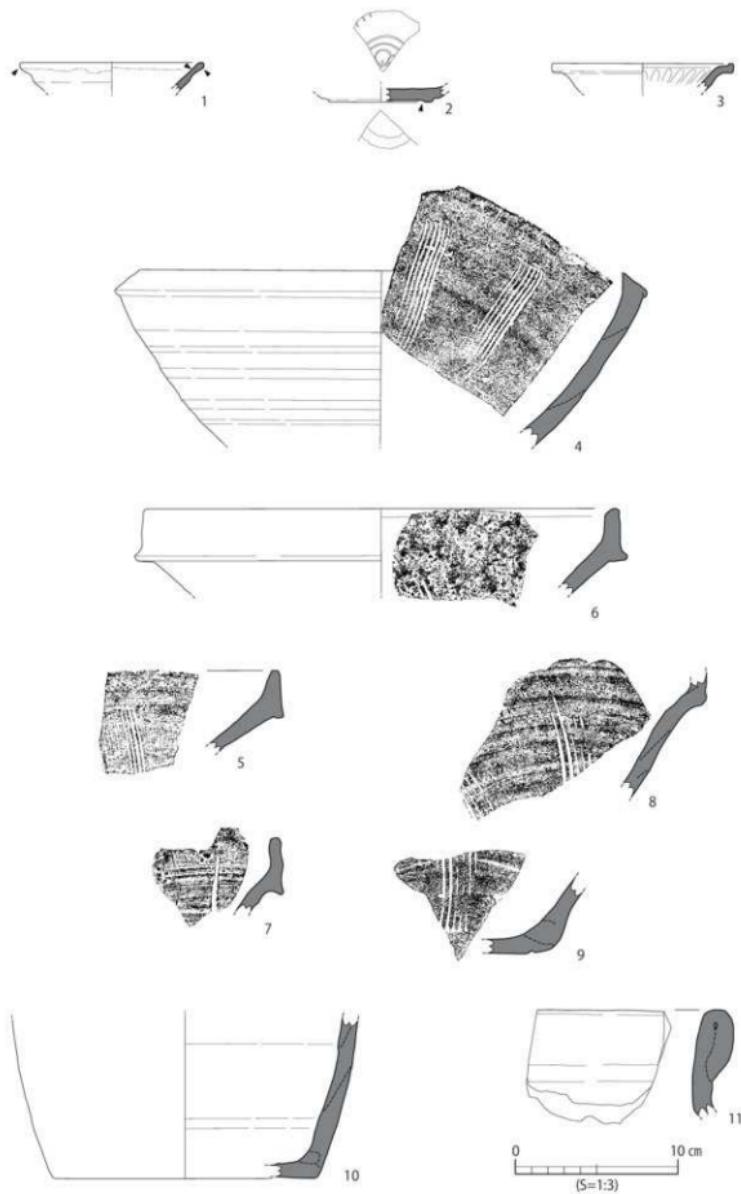
第39図 中世・近世陶磁器(1)



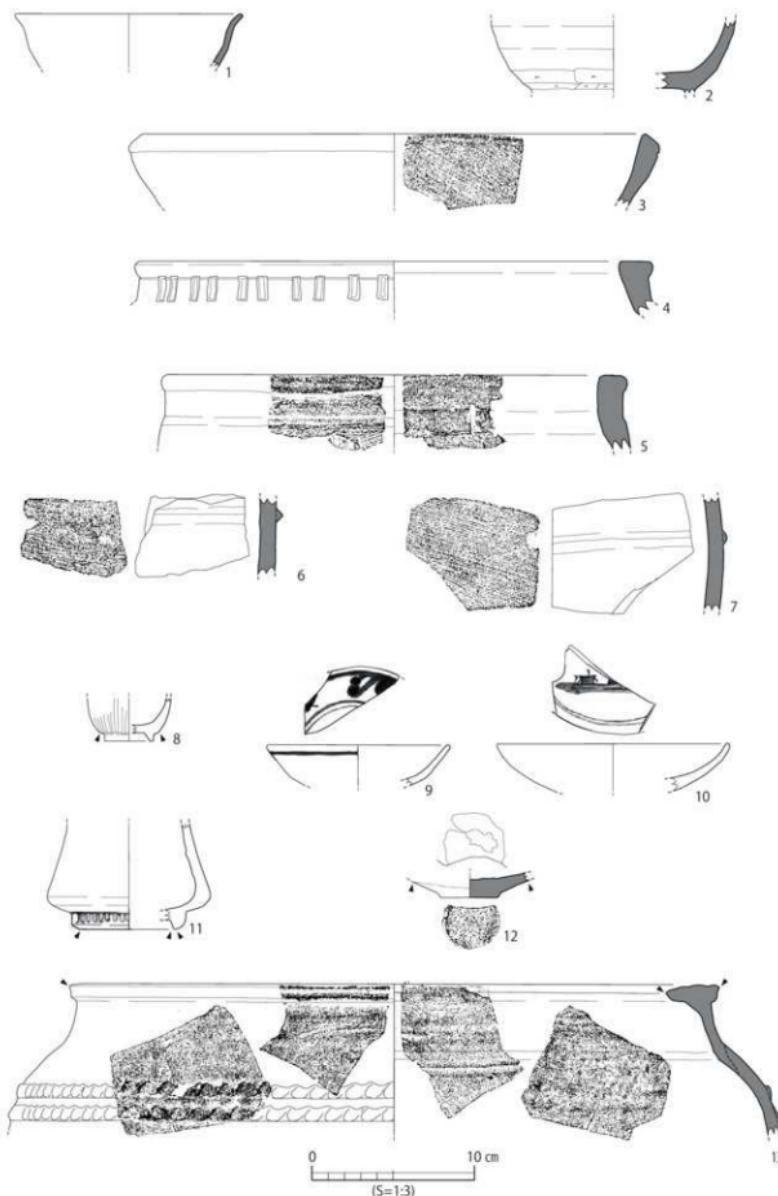
第40図 中世・近世陶磁器(2)



第41図 中世・近世陶磁器（3）



第42図 中世・近世陶磁器(4)



第43図 中世・近世陶器器(5)

中・近世陶磁器（第39図～第43図、図版34～36）

第39図は中国製白磁である。1～6の産地は福建省閩清義窯と推定される。1～4は碗で、玉縁口縁の1・2は大宰府編年白磁椀IV類、外反口縁の3は白磁椀V類、外面に花弁文を伴う4は白磁椀V-4類、内面に花弁文を伴う浅形の5は白磁椀XIII-1b類に分類される。年代観は1・2・3・5が11世紀後半から12世紀第1四半期であり、4が12世紀中頃から後半である。6は折縁口縁の鉢である。

7～24の産地は広東省潮州窯と推定される。7～14は碗である。7～10は大宰府編年白磁椀II類、腰折の11は白磁椀XII-1a類、外面に花弁文を伴う12～14は白磁碗XII-1b類に分類される。15～22は大宰府編年白磁碗V類に分類される。7～22の年代観は11世紀後半から12世紀第1四半期である。23・24の器種は水注と思われる。

25～27の産地は福建省邵武市四都窯と推定される。いずれも皿底部で、器壁は厚く軟質である。森田編年D類に分類され、年代観は14世紀後半から15世紀中頃である。27の見込みは輪剥ぎされる。

28～30の産地は江西省景德鎮窯と推定される。器種はいずれも皿であり、器壁は薄く硬質である。森田編年E類に分類され、年代観は16世紀中葉である。

第40図は中国製青磁である。1～3は福建産と推定される。1～2は同安窯系の碗で、大宰府編年同安椀I類に分類される。年代観は12世紀中頃から後半である。3は耳付の壺で、年代観は宋代である。

4～22の産地は浙江省龍泉窯と推定される。4～18は碗である。4は低い高台がつく底部で、大宰府編年龍泉椀I類に分類される。年代観は12世紀中頃から後半である。5・6は外面に錦蓮弁文を伴う碗である。5は大宰府編年龍泉椀II類に分類され、年代観は13世紀前後から前半である。6は釉調に青味を帯びた佔青磁である。大宰府編年龍泉椀III類に分類され、年代観は13世紀中頃から14世紀初頭前後である。7～11は口縁が外反するタイプである。7・8は上田編年D-I類に分類され、年代観は14世紀中頃である。9～11は、上田編年D-II類に分類される。年代観は14世紀後半から15世紀初頭前後である。11の口縁端部は玉縁状となる。12～14は口縁に雷文を伴うタイプで、上田編年C-II類に分類される。年代観は14世紀後半から15世紀初頭前後である。13は酸化炎により茶色に発色している。15～18は線彫による蓮弁文を伴うタイプである。15は上田編年のB-III類に分類され、年代観は15世紀中葉である。16～18は上田編年B-IV類に分類され、年代観は15世紀後葉から16世紀前葉である。19は錦蓮弁文を伴う折縁环である。大宰府編年龍泉环-IV類に分類され、年代観は14世紀中葉から後半である。20は青磁盤の底部で、見込みに芙蓉文が捺される。年代観は15世紀代と推定される。21・22の器種は壺で、21は壺蓋の摘みである。年代観は宋代と推定される。

第41図の1～10は中国製青花、11～14は中国製陶器、15～20は朝鮮製陶磁器である。1～9の産地は江西省景德鎮窯と推定される。1・2は饅頭心タイプの碗で、小野編年染付碗E群に分類される。年代観は16世紀後半である。3～4は端反タイプの皿で、4は見込みに玉取獅子が描かれる。小野編年染付皿B1群に分類され、年代観は15世紀後半から16世紀前半である。5・6は筍筒底タイプの皿で、5は外面に波涛文、6は見込みに芭蕉文が描かれる。小野編年染付皿C群に分類され、年代観は15世紀後葉から16世紀前半である。7・8は丸形皿で、8の見込みには

網干文が描かれる。小野編年染付皿E群に分類され、年代観は16世紀後葉から17世紀初頭である。9は小杯である。

10は福建省漳州窯系の青花皿である。外面に唐草文が描かれ、器壁は厚く軟質である。年代観は16世紀後葉から17世紀初頭である。

11～13は福建産と推定される黒褐釉碗である。11～12の口縁端部は括れ、釉調には禾目が生じている。森本編年IV～V類に分類され、年代観は12世紀後半から13世紀代である。13は完形の黒褐釉碗である。高台脇に段をもち、高台内は浅く抉られる。褐釉の上に黒褐釉を重ね掛けし、一条の釉垂れがみられる。腰部以下は露胎となる。砂中に埋まっていたことから全体的に摩擦を受け、釉調は光沢を失い、見込み付近は環状に剥落して地体が透けている。13は森本編年VI類に分類され、年代観は14世紀末から15世紀初頭である。南平市茶洋窯が指標とされる。11～13の黒褐釉碗はいずれも天目形を呈しており、13は灰被天目と思われる。

14は耳付の褐釉壺で、推定産地は広東省奇石窯である。大振りの玉縁口縁がつき、肩部に花文が捺される。年代観は12世紀前半である。

15～17は朝鮮製陶器である。15・17は灰釉が施釉される灰青沙器で、16は刷毛目を施す粉青沙器である。15～17の年代観は、15世紀後半から16世紀前半である。忠清南道熊川窯を指標とする。

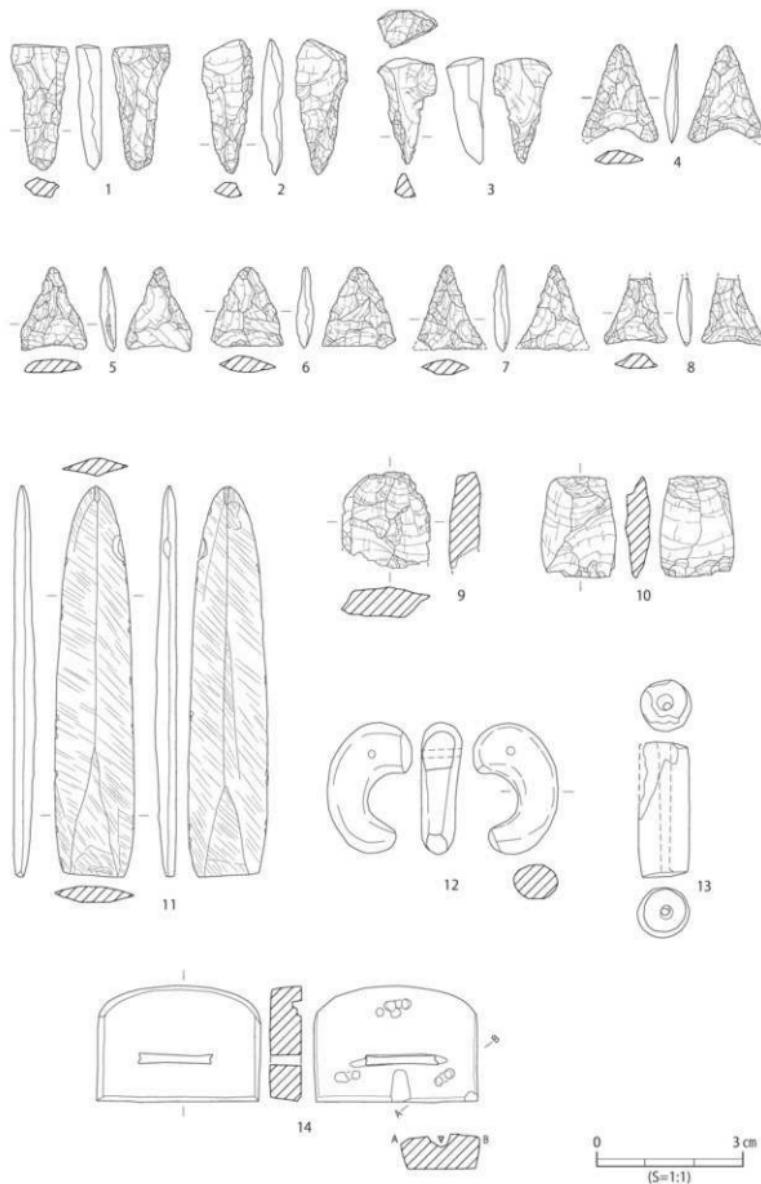
18～20は胎土が軟質な朝鮮製白磁である。18と19は見込と豊付に砂目を伴い、20は高台の高い鉢である。年代観は16世紀後半である。慶尚南道放牧里窯が指標のひとつにあげられる。

第42図は国産陶器である。1は口縁のみに灰釉を施釉する平形皿であり、産地は瀬戸系と推定される。古瀬戸III～IVに分類され、年代観は15世紀第2四半期から中葉である。2～3は灰釉皿で、産地は瀬戸・美濃系と推定される。2は見込みに花文を捺し、高台裏に輪トチン痕がみられる。大窯2～3期に分類され、年代観は16世紀後半である。3は折縁皿で内面に鎬を作う。大窯4期に分類され、年代観は16世紀末から17世紀初頭である。

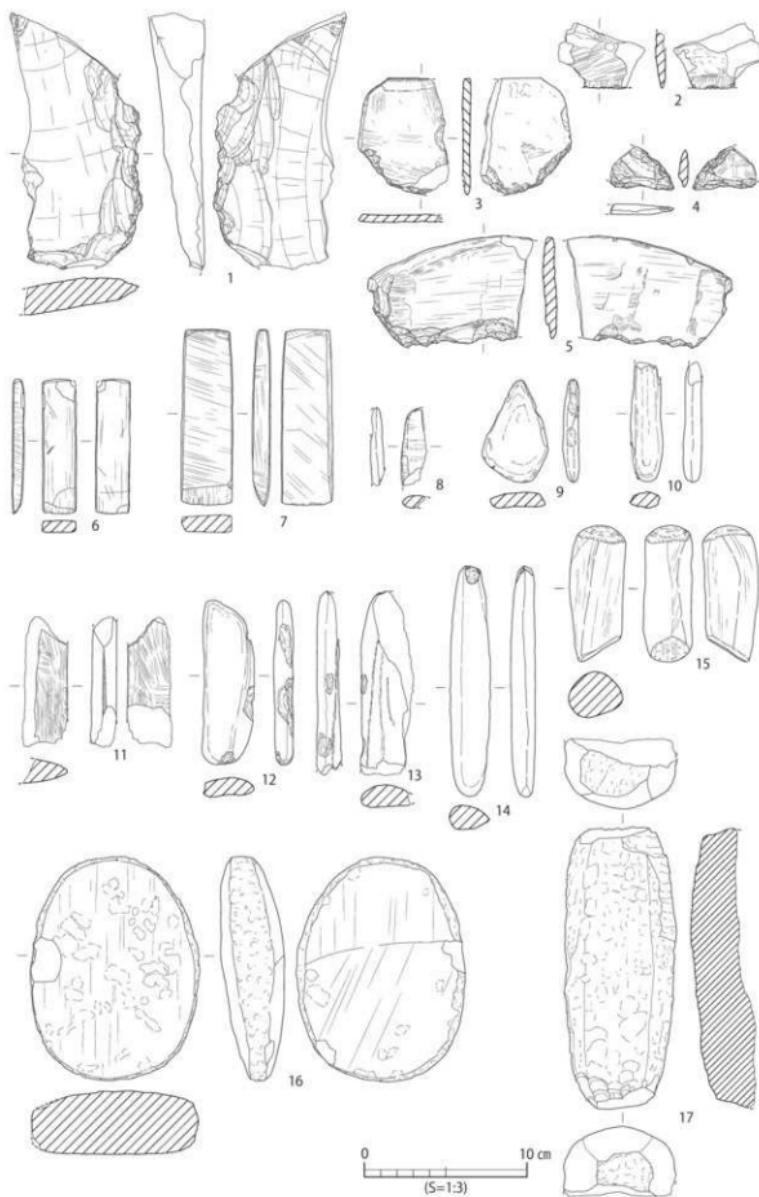
4～13の産地は備前焼と推定される。4～9は擂鉢である。4は口縁端部が内湾気味に立ち上がり、備前擂鉢IV A-2に分類される。年代観は14世紀中葉から15世紀中葉である。5～9は口縁が上方に延伸するタイプで、5は備前擂鉢IV B-1に分類され、年代観は15世紀前葉から後葉である。6は備前擂鉢IV B-2に分類され、年代観は15世紀中葉から16世紀初頭である。7～9は備前擂鉢IV B-3に分類され、年代観は15世紀後葉から16世紀初頭である。10は壺の底部である。11は壺の口縁で、備前壺IV Bに分類される。年代観は15世紀後半から16世紀初頭である。

第43図の1～7は瓦質土器で、8～13は近世陶磁器である。1は口縁が外反する筑前系の瓦器碗で、年代観は12世紀代である。2は高台がつく鉢底部。3は内面が刷毛目調整される鉢で、西長門型に類似している。年代観は14世紀後半から15世紀前半である。4～7の器種は火鉢である。4～5は鼎形を呈しており、4の頸部には格子目が施される。6～7は深鉢形を呈し、胴部に一条の突帯が貼り付けられる。

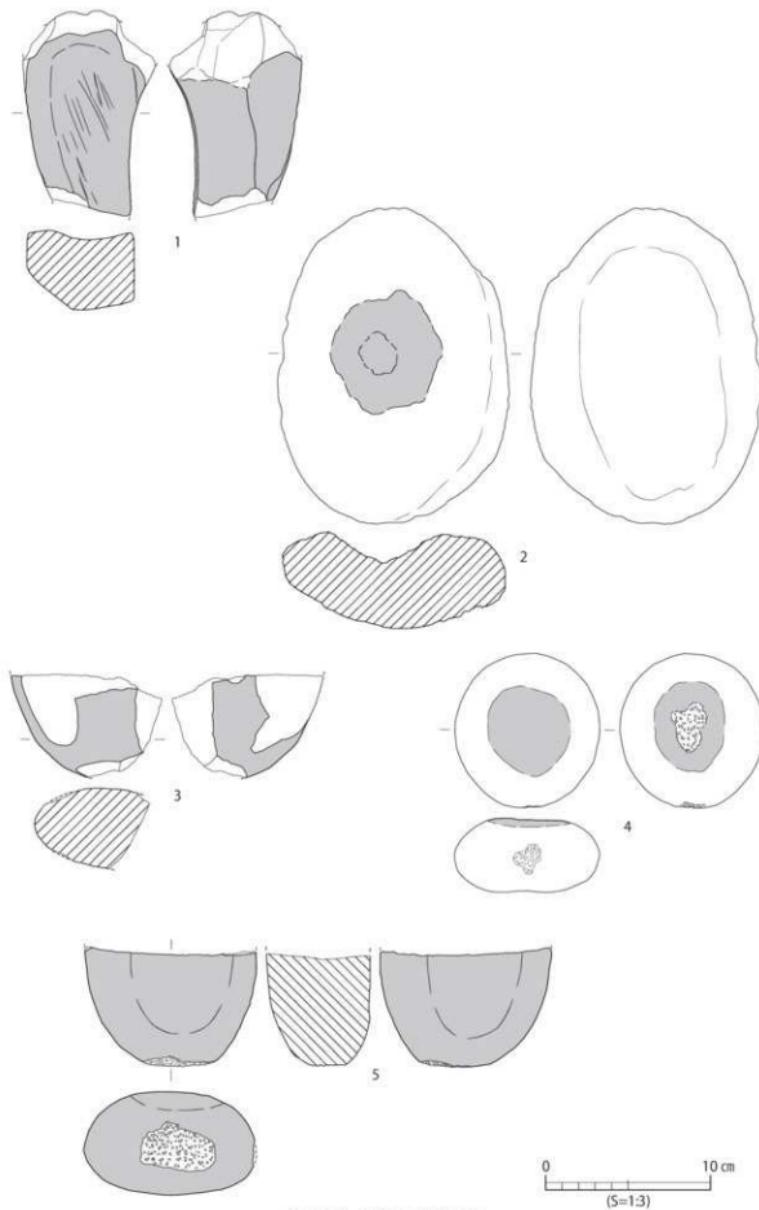
8～11は肥前系磁器である。8は外面に鎬を施した白磁碗である。九陶編年II-2に分類され、年代観は1630～40年代である。9は内面に唐草文を絵付した染付皿である。九陶編年II-2に分類され、年代観は17世紀中葉である。10は内面に山水文を絵付した染付皿である。九陶編年II-2に分類され、年代観は1630～40年代である。11は染付瓶で高台脇に網目文を絵付する。



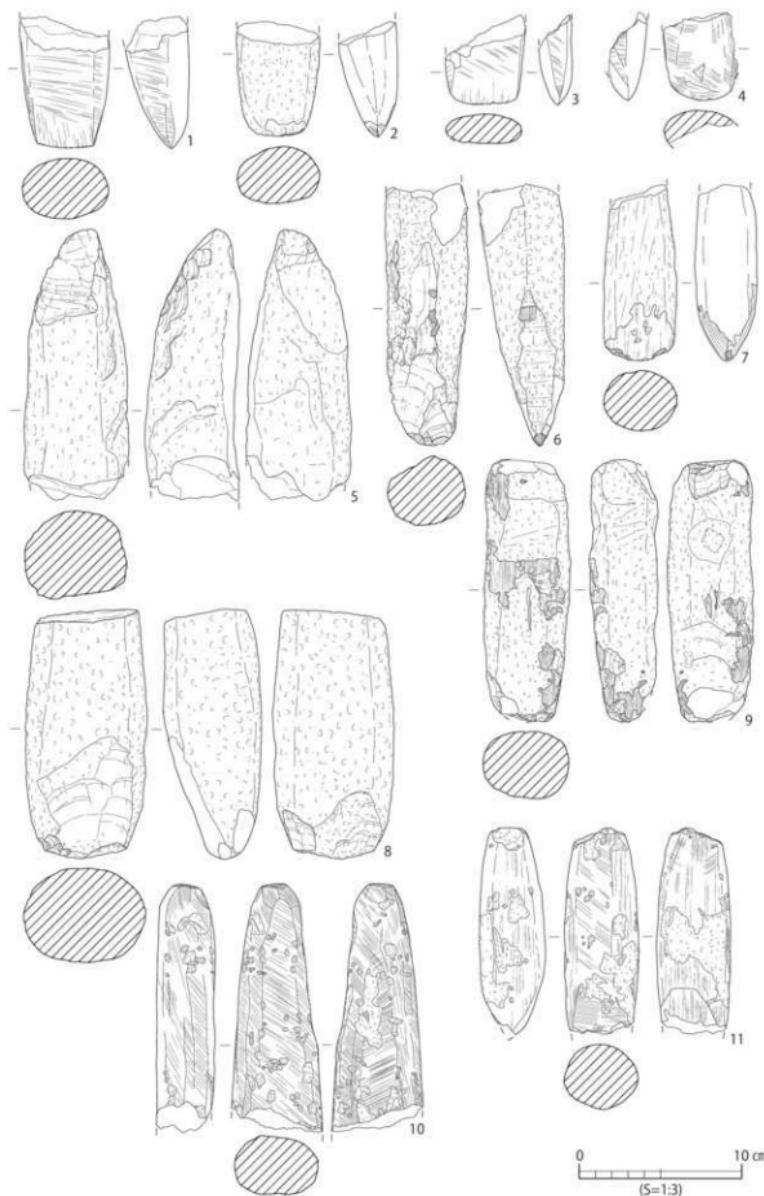
第44図 石器・石製品(1)



第45図 石器・石製品(2)



第46図 石器・石製品(3)



第47図 石器・石製品(4)

九陶編年Ⅲに分類され、年代観は1650～90年代である。

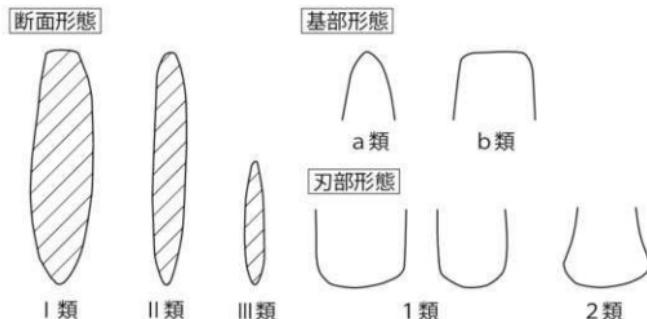
12～13は肥前系陶器である。12は見込みに砂目を伴う鉄釉皿で、底部は糸切底である。九陶編年Ⅱに分類され、年代観は1610～50年代である。13は鉄釉甕で、肩部に二条の縄状突帯文が貼りつけられる。内面には格子目圧痕がみられ、年代観は17世紀前半である。

石器・石製品（第44図～第52図、図版37～41）

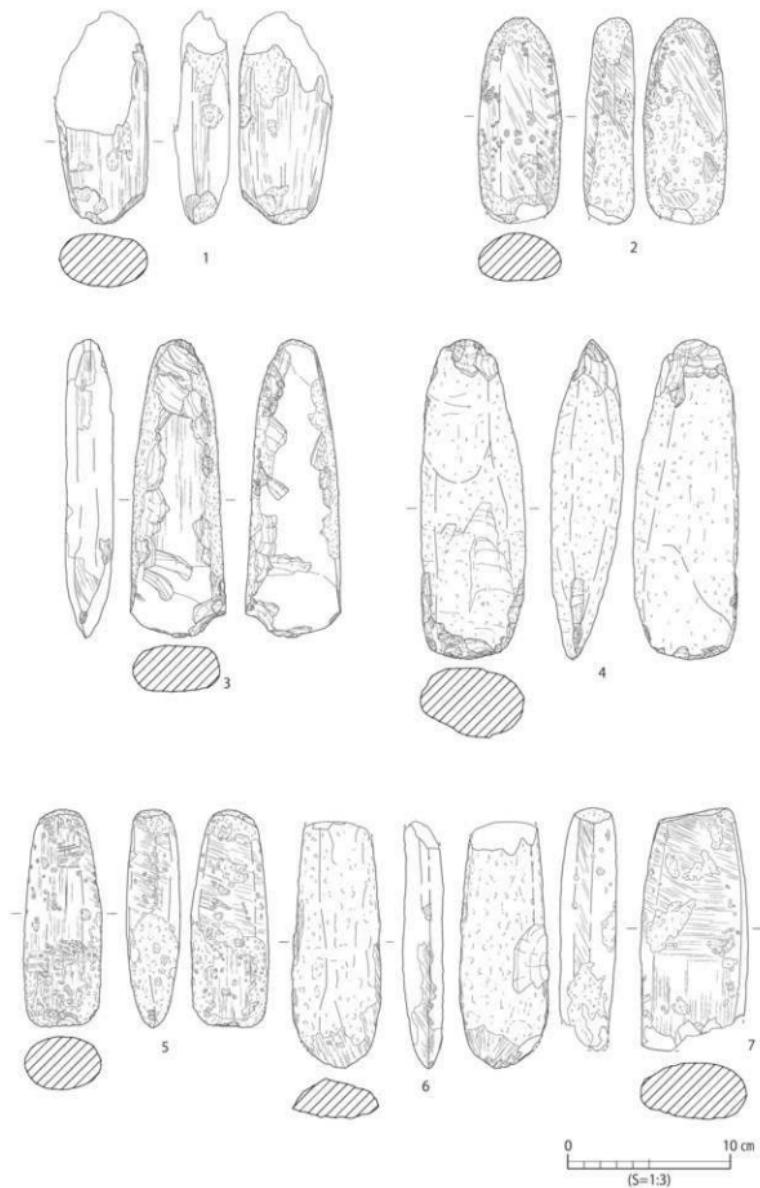
第44図の1・2は安山岩製の、3は黒曜石製の石錐である。1は調整が大まかなことから未成品の可能性がある。4～8は安山岩製の石錐である。4・5・8は凹基無茎錐で、6・7が平基無茎錐である。9は黒曜石製、10は石材不明の楔形石器である。9は下部が欠損しているが、上端部がつぶれている。10は上下端部がつぶれている。11は粘板岩製と思われる平基式の磨製石錐である。全長8cmの大型品である。4区では石見I～3様式の弥生土器が、まとまって出土していることから、前期後半～中期前葉に帰属する可能性が考えられる。中央部から基部にかけて鎬が施されている。12は古墳時代中期の滑石製勾玉である。孔は片面穿孔である。13は碧玉製管玉は、やや太型で片面穿孔であることから、古墳時代中期後葉～後期の時期であると考えられる。14の石帶は雑石製で幅3.3cm程度の大きさである。このことから、平安時代の石帶資料で、從七位相当の位階を表示した腰帶の飾りと考えられる（松村2002）。石材は不明であるがマーブル状の模様が入った貴石を用いている。表面と側面は光沢が出るまで研磨しており、裏面も表面までの光沢はないが、丁寧に研がれている。中央にスリットのほか、裏面に腰帶に縫い付けるための二対の孔が三カ所に認められる。

第45図の1は打製石錐もしくは石包丁と思われる。2・3は石包丁様石器、4・5は石鎌である。6・7は扁平片刃石斧、8～10・12～14は、いずれも人為的に形成・研磨を施している何らかの未成品である。11は刃部が形成されているが、左右非対称の刃部であることから、石剣の一部とは考えにくい。石戈等の武器の可能性も考えられる。17はハンマーストーンと考えられる。小口両面に敲打痕が認められる。

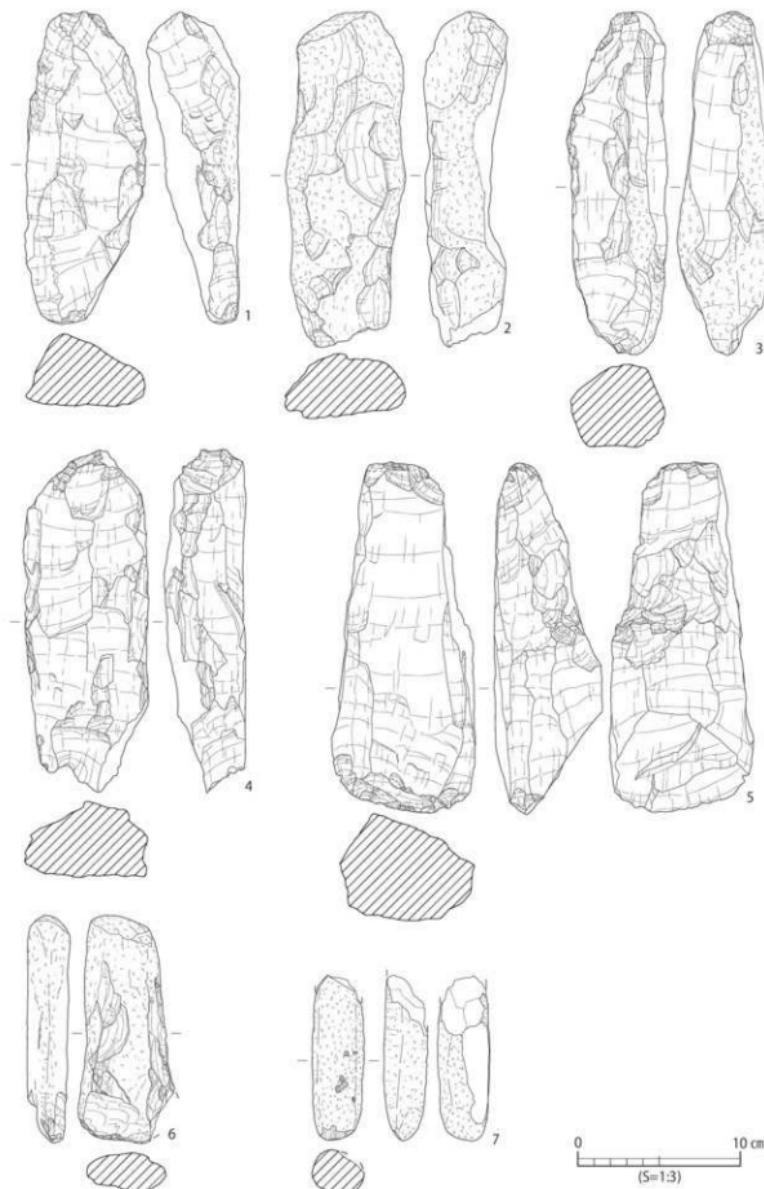
第46図の1は砥石、2は軽石加工品である。表面の研磨のほかに、中央部が凹んでいる。3は磨石、4・5は磨石もしくは敲石である。いずれも河川礫を利用している。4・5は側縁に打痕が明瞭である。



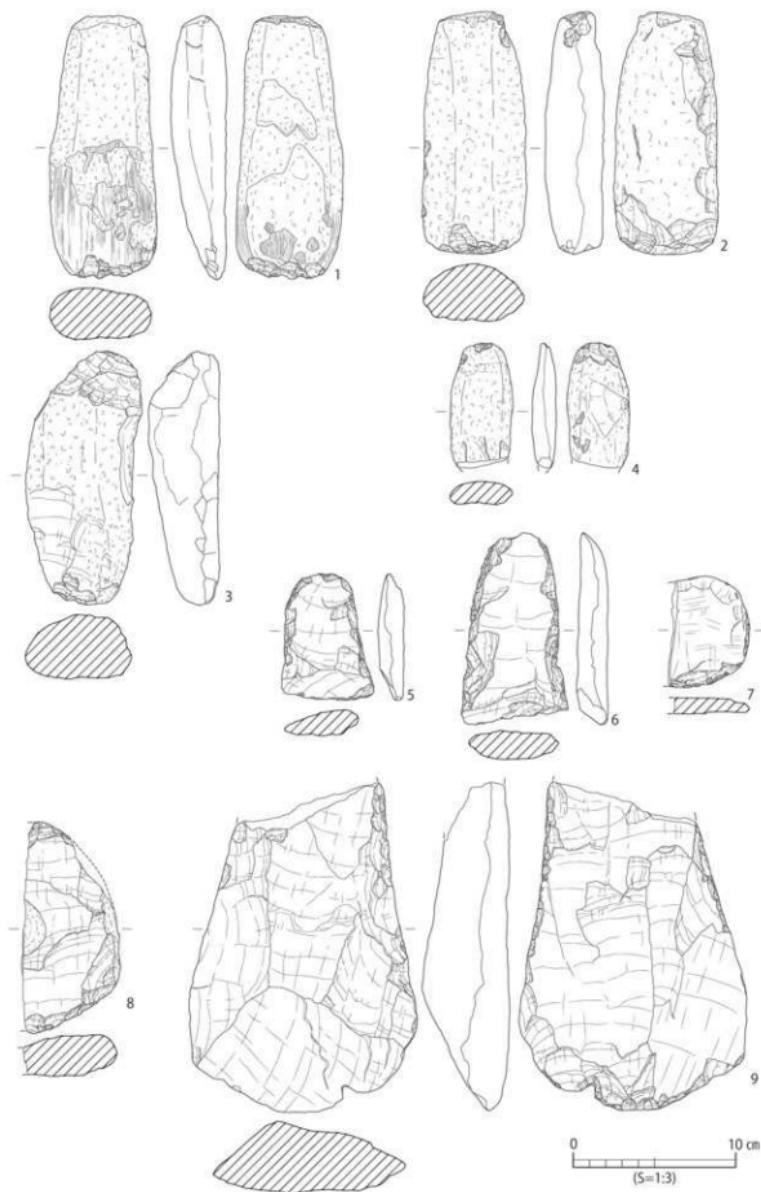
第48図 磨製石斧分類模式図



第49図 石器・石製品(5)



第50図 石器・石製品(6)



第51図 石器・石製品(7)

第47図の磨製石斧は断面形態を3つ、基部形態を2つ、刃部形態を3つに分類した（第48図・観察表の備考参照）。1～11は磨製石斧である。1～4は基部が欠損しているが、刃部が明瞭に残っている。1は刃こぼれが認められる。2は敲打が細かく施されており、刃部から研磨を始めている。4は刃部に刃こぼれの修復と思われる研磨が認められる。5・6・8・9は敲打成形段階の未成品である。7は敲打後に刃部にのみ研磨が施されている。10・11は刃部欠損品であるが、全体的に丁寧に造られている。

第49図の1・2は磨製石斧の欠損品である。1は全体に研磨されているが、2は刃部に研磨が施されていない製品と考えられる。3は全体的に風化が著しいが、磨製石斧の研磨段階の未成品と思われる。4の磨製石斧は敲打成形段階の未成品である。5は敲打痕が残っているが、刃部が欠損しているため研磨せずに使用された磨製石斧と思われる。6は磨製石斧の研磨段階の未成品である。基部と刃部は一部欠損している。7の磨製石斧は刃部欠損品と思われる。基部は石材の自然面をそのままにしており、全体に敲打痕を残しながら研磨されている。

第50図の1～7は磨製石斧の未成品である。いずれも敲打初期段階の未成品である。6・7は小型の磨製石斧と思われる。

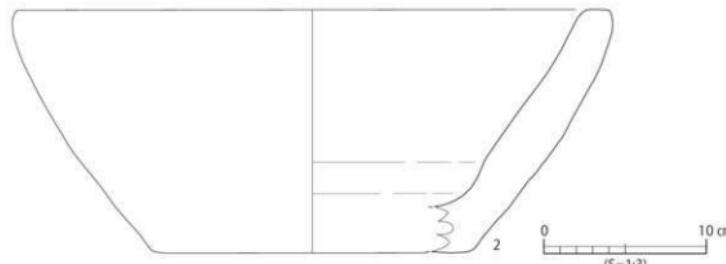
第51図の1～4は磨製石斧の未成品である。いずれも敲打成形段階の未成品である。5は打製石斧の完形品と思われる。直刃の刃部には刃こぼれ等の使用痕跡が認められる。7・8は環状石斧の未成品である。7は中央部に研磨面が認められる。8は中央部に穿孔しようとした敲打痕跡が認められる。9は大型の打製石斧である。基部は欠損している。刃部に穿孔状の剥離が認められる。

第52図の1は石皿、2は石鍋と考えられる。2の内面は熱を受け黒色に変化している。いずれも中近世以降の資料である。

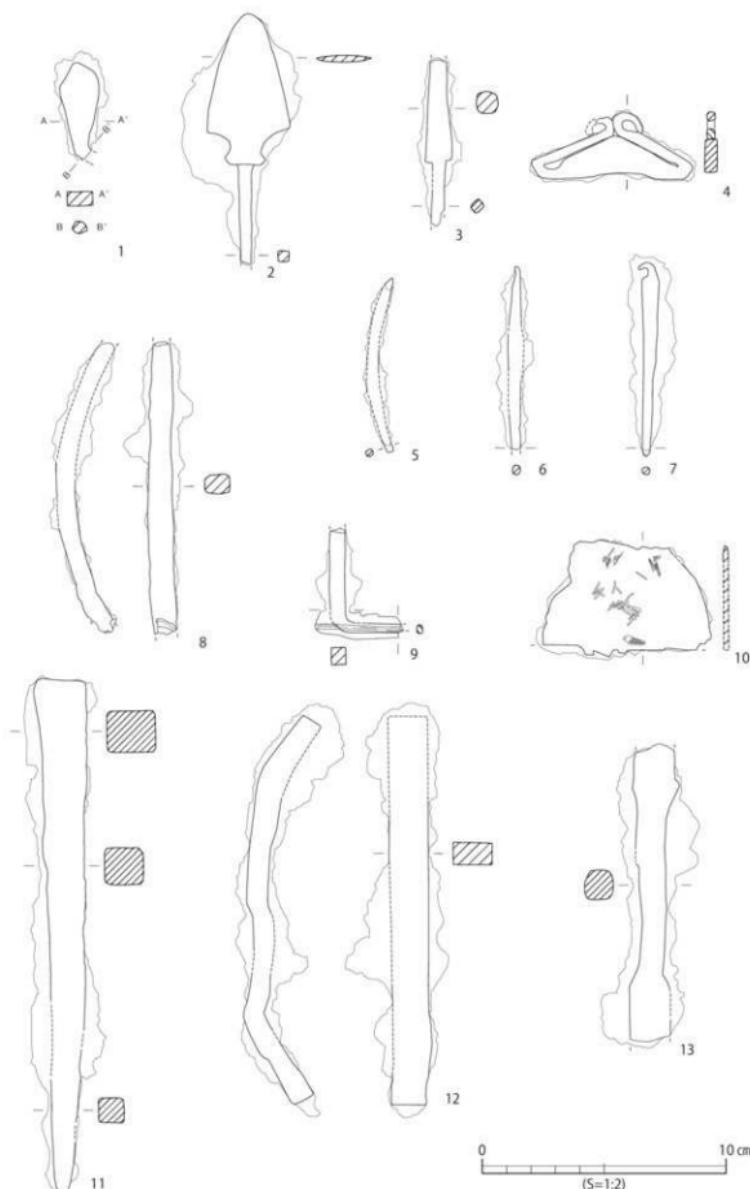
このほか、磨製石斧の非掲載品が134点ある。内訳はI類が42点（うち敲打段階が27点）、II類が17点（うち敲打段階が7点）、分類不能品が75点である。

金属製品（第53図～第55図、図版41～42）

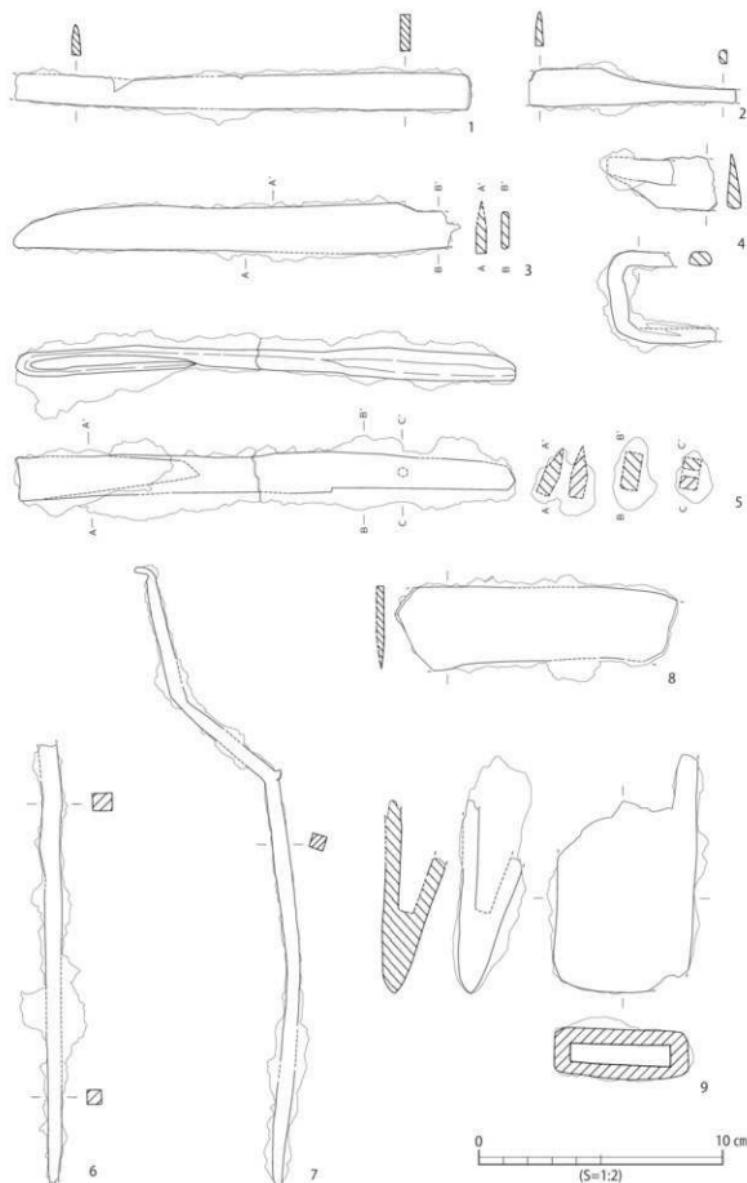
第53図の1～3は鉄鎌である、1は柳葉式の長頸鎌、2は柳葉式の平根鎌、3は鎌身の断面が



第52図 石器・石製品(8)



第53図 金属製品(1)



第54図 金属製品(2)

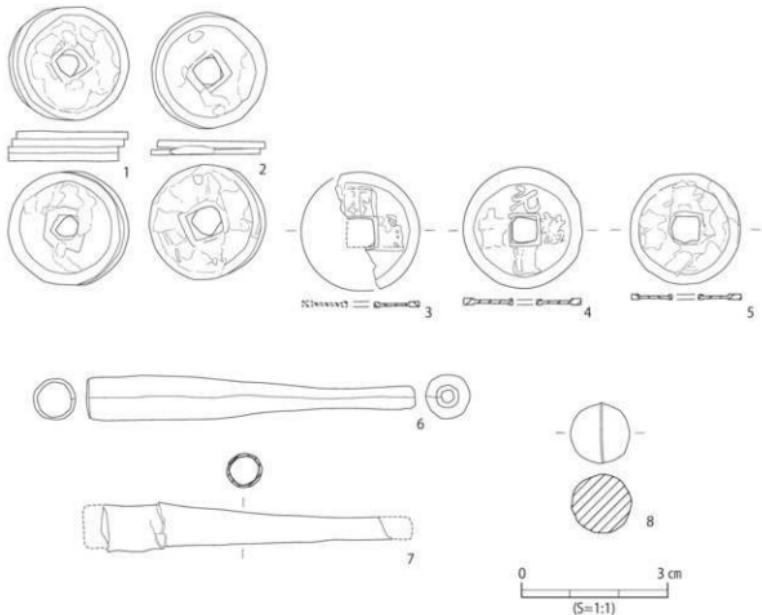
隅丸方形を呈しているが、丸根式の鉄鎌と考えられる。4は火打金である。いずれも平安時代中・後期（10～11世紀）以降の形態である。5は棒状の鉄製品である。7は鉤状に折り曲げられている棒状の鉄製品である。8は環状のタガの一部と考えられる。9は釘の可能性がある。10は鋸の可能性がある。11・12は釘と考えられる。13も釘の可能性があるが、棒状の不明品である。

第54図の1は剃刀と考えられる。2～3は刀子、4は短刀である。4の短刀は切先側の刀身が折り曲げられている。6・7は火箸、8は鎌、9は袋状鉄斧である。以上の金属器は、森原下ノ原1～3区出土の金属製品の様相や検出されている室町時代の遺構群に鑑みれば、いずれも中世後半期に属するものと考えられる。

第55図の1～5は、古銭である。1は4枚の銅錢、2は2枚の銅錢が鏽着している。5も含めて文字はX線でも判読できなかった。3は唐銭の「開（元）通（宝）」、4は北宋銭の「元祐通宝」、5は明銭の「洪武通宝」と考えられる。6・7は煙管の吸い口、8は鉄砲玉である。

【引用・参考文献】

- 青山 晃 2013「富山県における壇の変遷」『富山考古学研究 - 紀要第16号 - 』公益財團法人 富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所
 津野 仁 1990「古代・中世の鉄鎌—東国出土品を中心にして—」『物質文化(54)』物質文化研究会
 松村恵司 2002「鉤帶金貝の位階表示機能」『鉤帶をめぐる諸問題』奈良文化財研究所



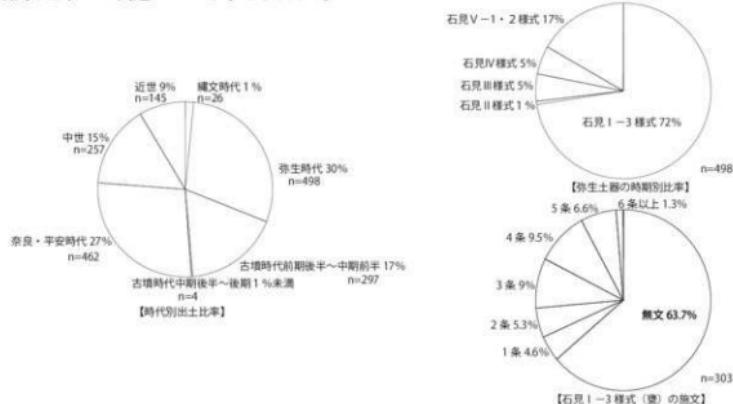
第55図 金属製品(3)

第4章 総括

第1節 4区出土遺物の分布傾向について

森原下ノ原遺跡の1～3区では中世以前の遺構が多数確認されているが、4区はほぼ全域が平安時代以降の江の川の氾濫堆積とその影響下にある再堆積(基本層序の3・4層)であった。したがって、出土遺物は遺構から遊離したもので、同一層位に縄文～近世の遺物が混在していた。ここでは、10m四方のグリッド毎に取り上げた遺物を分類し、各時期ごとの分布傾向を明らかにする。

まず、4区から出土した遺物の時期別比率は、概ね第56図のようになる。比率の算出は器種等が判別できるものを抽出し、須恵器・土師器の甕片は計数から除外している。縄文時代が全体の1%、同じく弥生時代が30%、古墳時代前期～中期前半が17%、古墳時代中期後半～古墳時代後期が1%未満、奈良・平安時代が27%、中世が15%、近世が9%となる。とくに縄文時代と古墳時代中期後半～古墳時代後期の出土遺物は極端に少ない。ただし、1～3区、森原下ノ原遺跡に隣接する森原神田川遺跡の様相に鑑みれば、江の川の氾濫等による環境的制約(遺構・遺物の流出)や、4区が該期の遺構中心部の周縁であった可能性が考えられる。以下に示す各時期の出土遺物の分布傾向から、この問題について考えてみたい。



第56図 4区遺物出土比率

1. 縄文時代～中世・近世出土遺物の分布傾向

(1) 縄文時代

縄文土器は細片も含めて20点程度の出土と極めて少ない。4区の東側のグリッドに偏って出土する傾向にある(第57図)。該期の遺跡の中心は、1～3区側で確認されているが、4区の東側にもあった可能性が考えられる。

(2) 弥生時代

弥生土器は4区出土遺物全体の30%を占める。また、石見様式編年(松本1992b)に則せば、4区出土の弥生土器は石見I様式～V様式-1・2まで分類される。とくに石見I-3様式が全体の

72%を占めている。次いで石見V様式が16%、石見III・IV様式が5%、石見II様式が1%を占める(第56図)。1～3区では、磨製石斧の未成品が多数含まれていた6層の弥生土器が、弥生時代前期前半(石見I-1～2様式)を中心としている。また、1～3区は総じて石見V様式が主体を占めている。以上のことから、弥生時代前期後半(石見I-3様式)段階は、4区側周辺で遺跡が展開していた可能性が考えられる。第2表にまとめるとき、森原下ノ原遺跡における弥生時代前期の現状の様相は、石見I-1様式と石見I-3様式に核があると考えられる。なお、石見I-3様式の甕の施文は、約60%が無文であり、残り40%が1条以上の沈線が施されている(第56図)。

弥生土器の分布傾向をみると、石見I-3様式の分布傾向(第58・59図)は、4区北側のグリッド(K・L12～13とN・O・P14～16)に集中する。石見II～V様式の分布傾向(第60～63図)も、出土数の多寡はあるが、石見I-3様式と同様のあり方を示している。また、第70図に分布傾向を示した石斧は、成品・未成品に関わらず、石見I-3様式の分布傾向と概ね同調している。

(3) 古墳時代

古墳時代は前期～中期前半の土器が主体を占める。第64図の分布傾向では、弥生土器とは異なり、4区北東グリッドに分布が集中する。これは、J・K11～12グリッドで面的に検出された基本層序8・9層の周辺から該期の土器が多数出土していることが、大きな要因と考えられる。古墳時代中期後半から古墳時代後期に属する上器(須恵器)の出土は極めて少なく、グリッド毎の分布傾向を示すことはできなかった。該期の遺跡の中心は1～3区と森原神田川遺跡にあったとみられる。

(4) 奈良・平安時代

奈良・平安時代の出土土器は、須恵器・土師器の甕(壺)片、須恵器(全器種)から分布傾向を把握した(第65・66図)。4区では弥生時代に次いで出土遺物が多い時期である。分布傾向は4区北側のグリッドL13～16、O・P15～16の二か所に分布の核がある。

(5) 中世

中世陶磁器については第2節そのに詳細を譲るが、分布傾向(第67・68図)としては4区北側にやや偏りが認められるものの、調査区全域から出土している。

(6) 近世

近世陶磁器の分布傾向(第69図)も、中世陶磁器の分布傾向と同様のあり方を示す。中世・近世

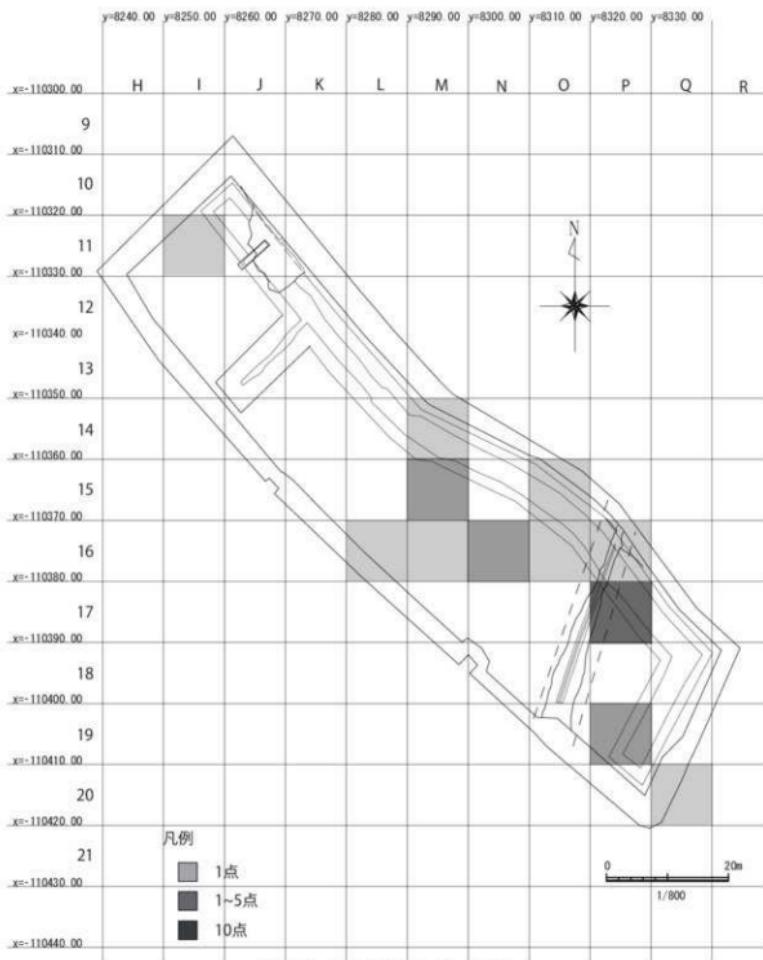
第2表 弥生時代前期の編年と併行関係

森原下ノ原遺跡	北部九州	綾羅木式	突堤文土器 (柳瀬2021)	石見 (松本1992b)	石見基準	(松本1992a)	出雲 (岩本2021)	出雲基準
遺物量 橙	山ノ寺	突堤文3期	突堤文1期	I - 1	(大膳2区OG+0～G包含層)	I - 1	前期I-1	(原山) (三田谷I) (矢野V層)
	夜臼I		突堤文2期					
	夜臼II							
	板付Ia							
遺物量 多	板付Ib	綾羅木I	五丁C・D区 SR05上層	I - 2	イセSB2 古屋敷8区SKY09	I - 2	前期I-2古相	矢野SD2626 北講武氏元 東区中・下層
	板付IIa-1		古屋敷8区SKY09					
遺物量 小	板付IIa-2	綾羅木II	I - 3	I - 3	(古屋敷8区SKY02) 古屋敷8区AKY05	I - 3	前期I-2新相	(西川津鶴場 地区SD10)
	板付IIb		I - 4					
遺物量 中	板付IIc	綾羅木III A	羽場2A区SX1	I - 4	前期II-1	前期II-2	西川津鶴場 地区SD06+13	
遺物量 多		綾羅木III B						

ともに、基本層序3・4層の比較的高い位置から出土していることから、新しい段階の氾濫堆積や再堆積に伴って広い範囲に流れてきた可能性が想像される。

2. 分布傾向からみた4区の位置づけ

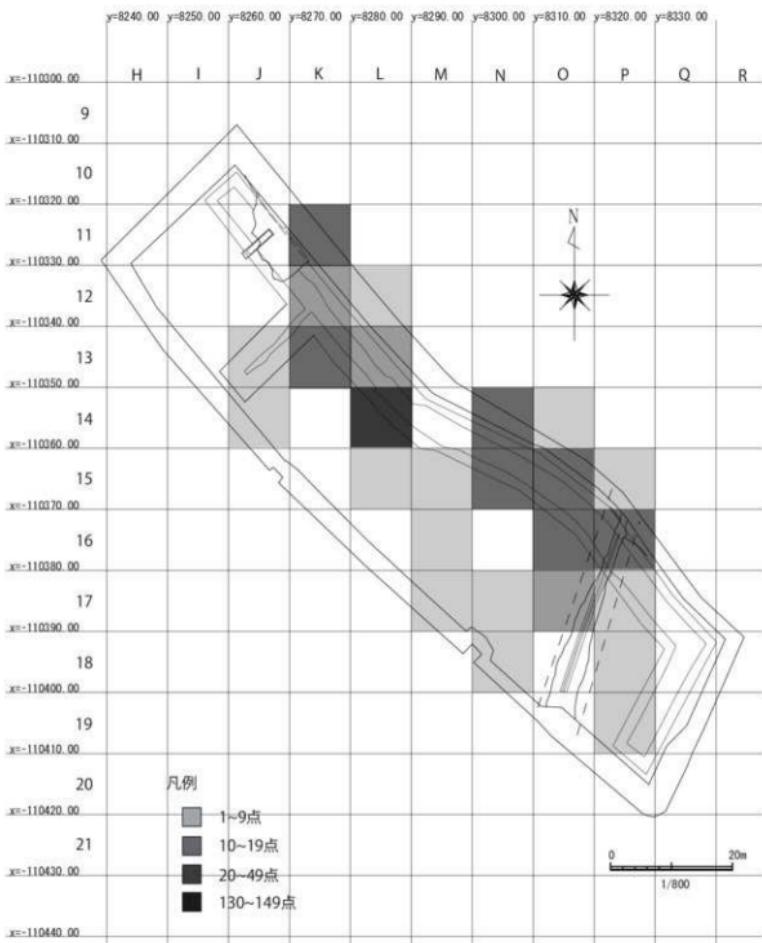
各時期の遺物の分布傾向から、中・近世を除けば、出土する遺物は4区北側のグリッドに集中する。このことは、4区の南側に江の川が流れていることと関係するものと思われる。各時期の遺跡の中心は、江の川から離れた調査区の北側に広がっていたものと考えられる。その中で、弥生時代



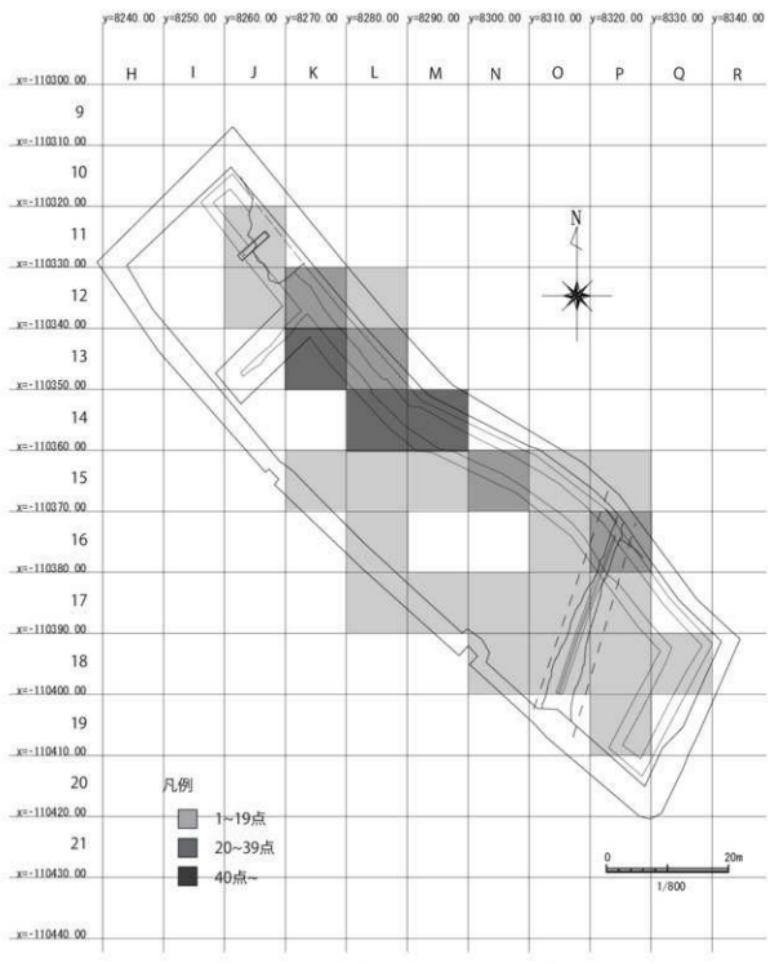
第57図 縄文土器（中～後・晩期）

前期は4区北側に遺跡の中心があった可能性があり、逆に古墳時代中期後半～後期は4区北側で遺跡が希薄であった可能性が考えられる。

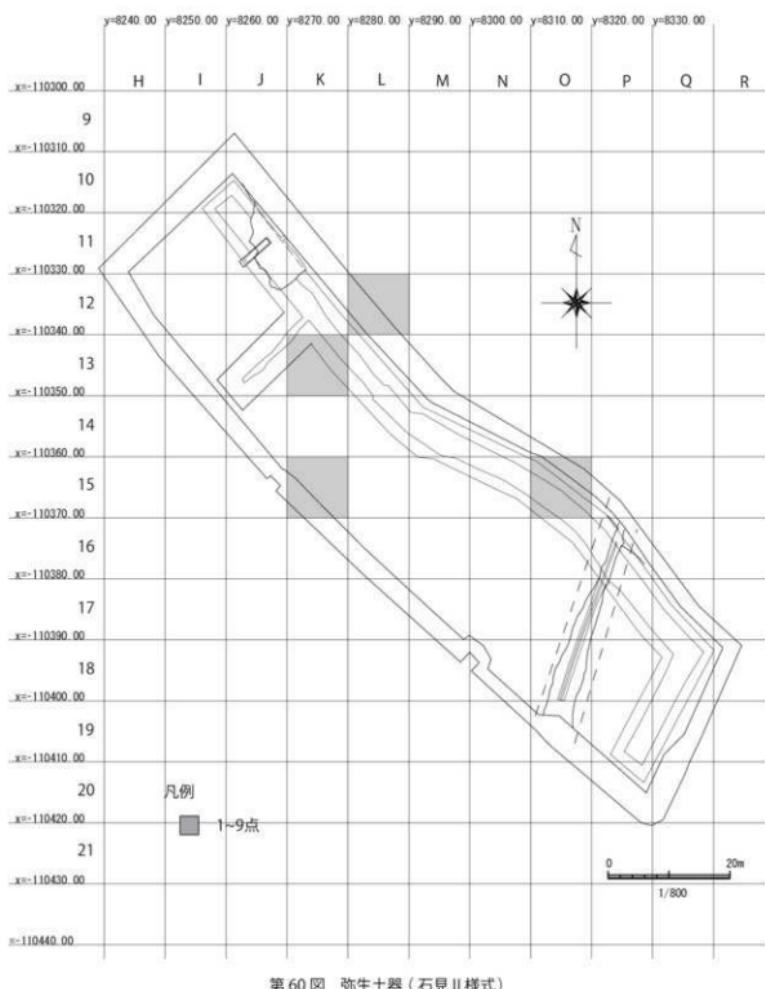
4区の出土遺物は基本層序3・4層からの出土が大半を占めるため、遺構から遊離した資料群である。そのため、本来的には出土位置自体に意味がないのかもしれない。しかし、1～3区の調査成果と森原神田川遺跡の調査成果を照らし合わせることによって、参考的に各時期の遺跡の中心地が八神地区で移動・分散していた可能性を示すことが出来たと思う。



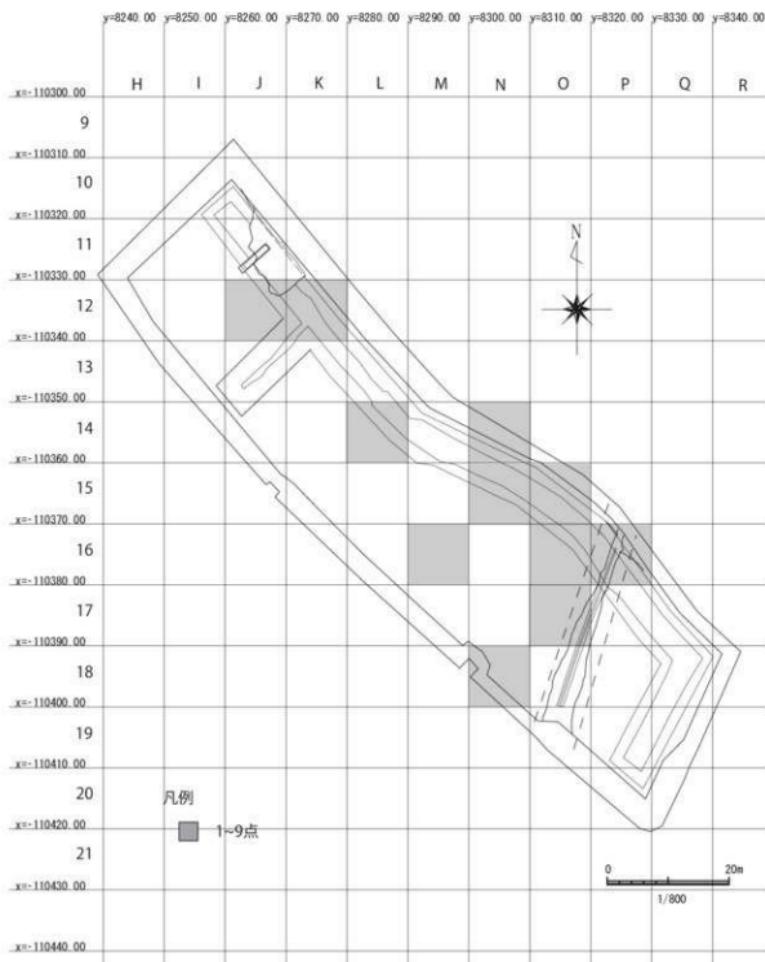
第58図 弥生土器（石見I-3様式）



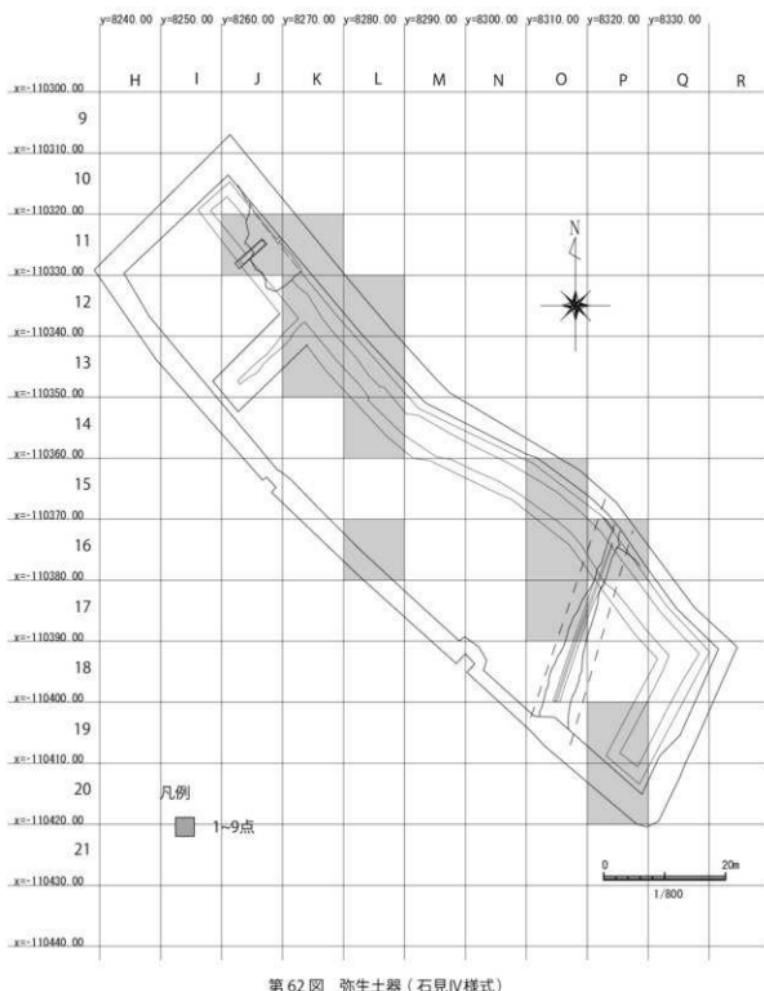
第 59 図 弥生土器（石見 I - 3 様式壺・壺底部）



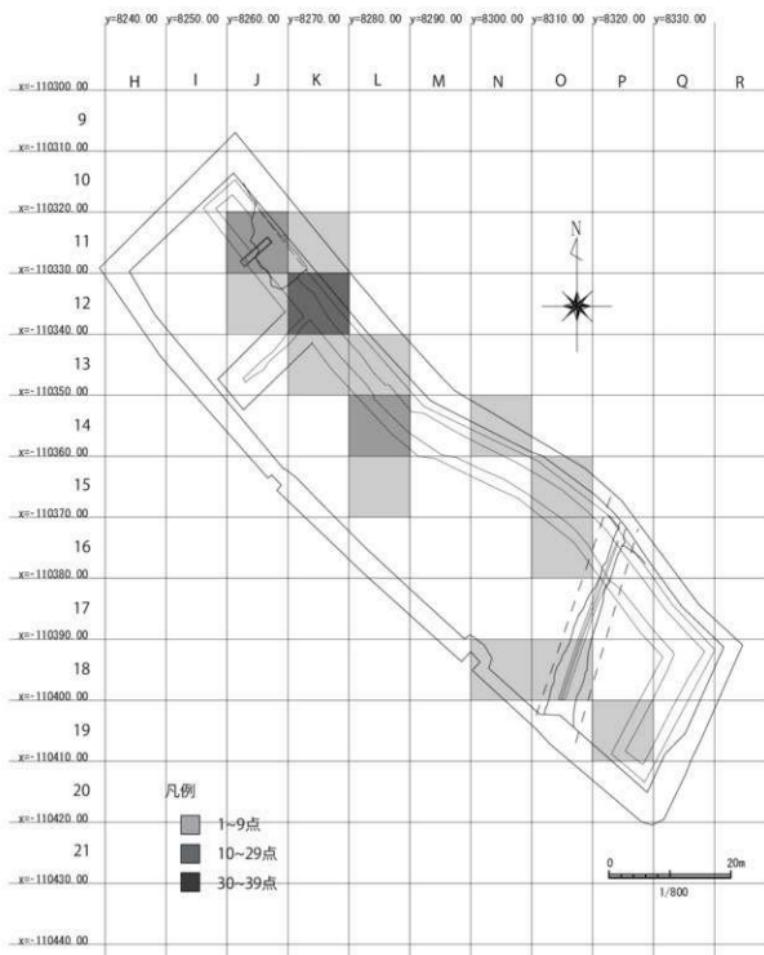
第60図 弥生土器(石見II様式)



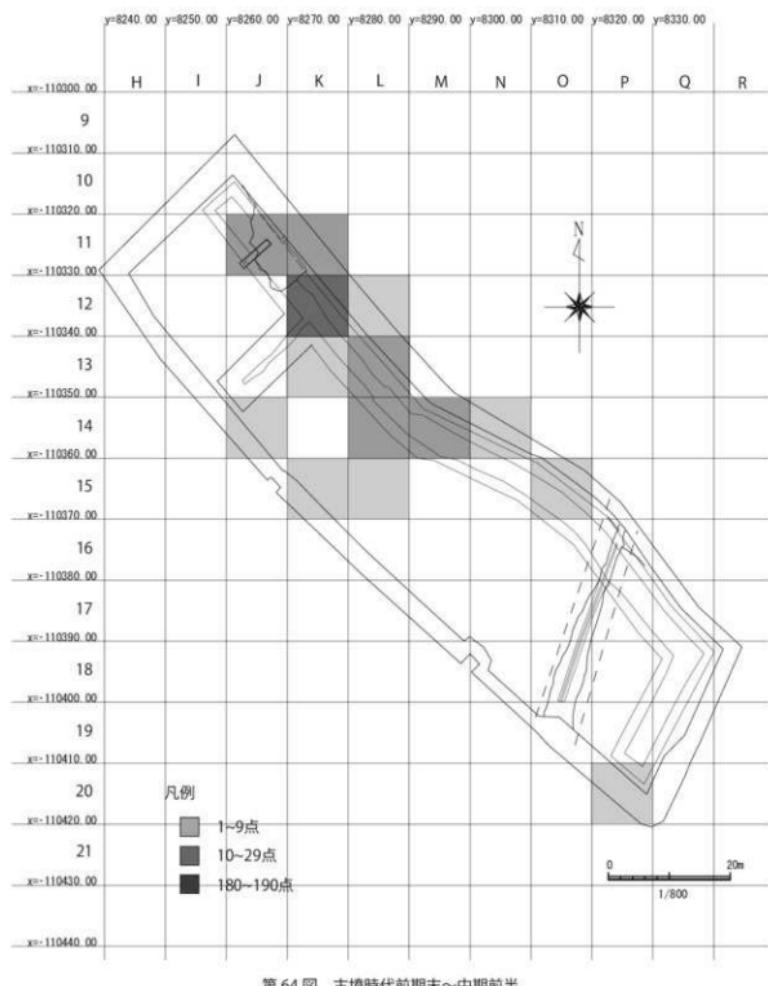
第61図 弥生土器（石見III様式）



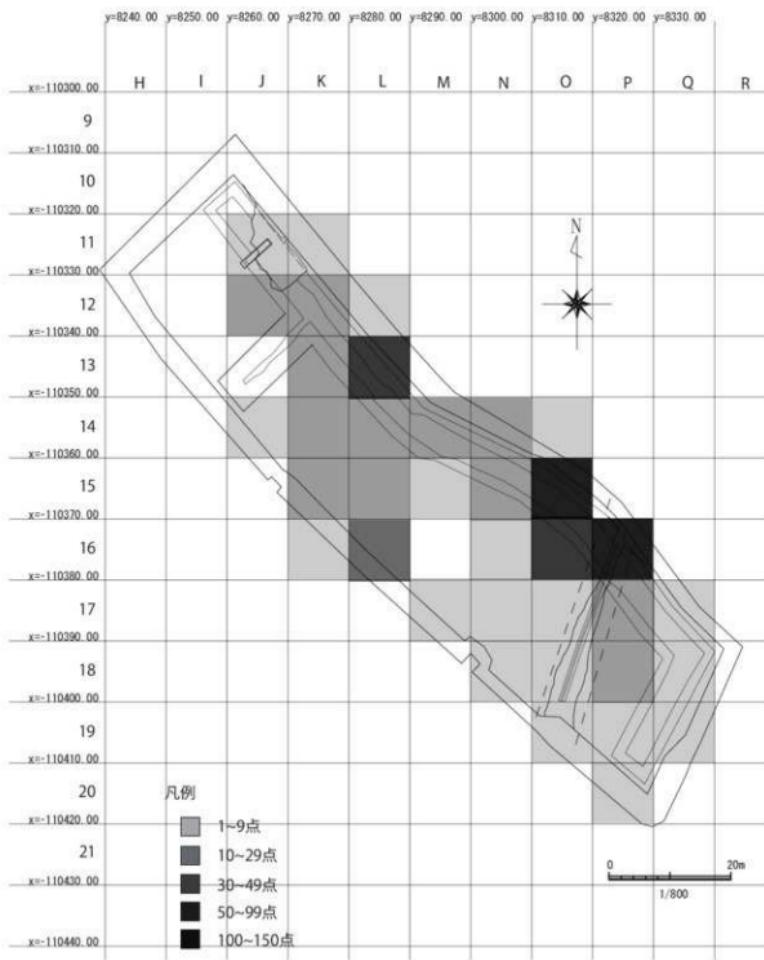
第62図 弥生土器(石見IV様式)



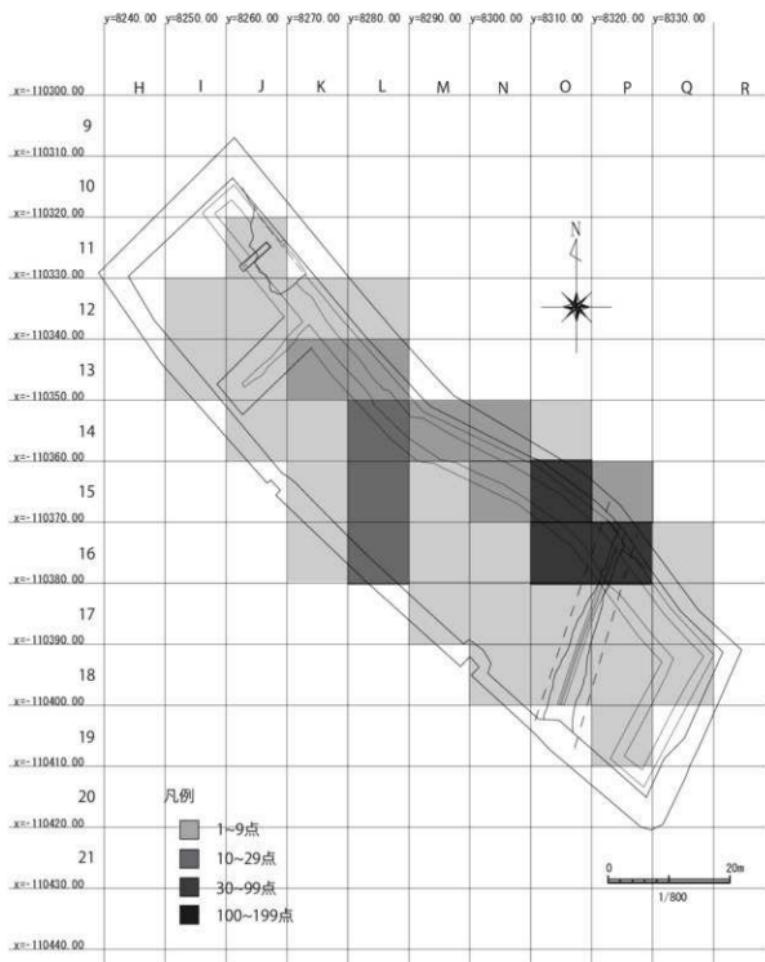
第63図 弥生土器（石見V-1～3様式）



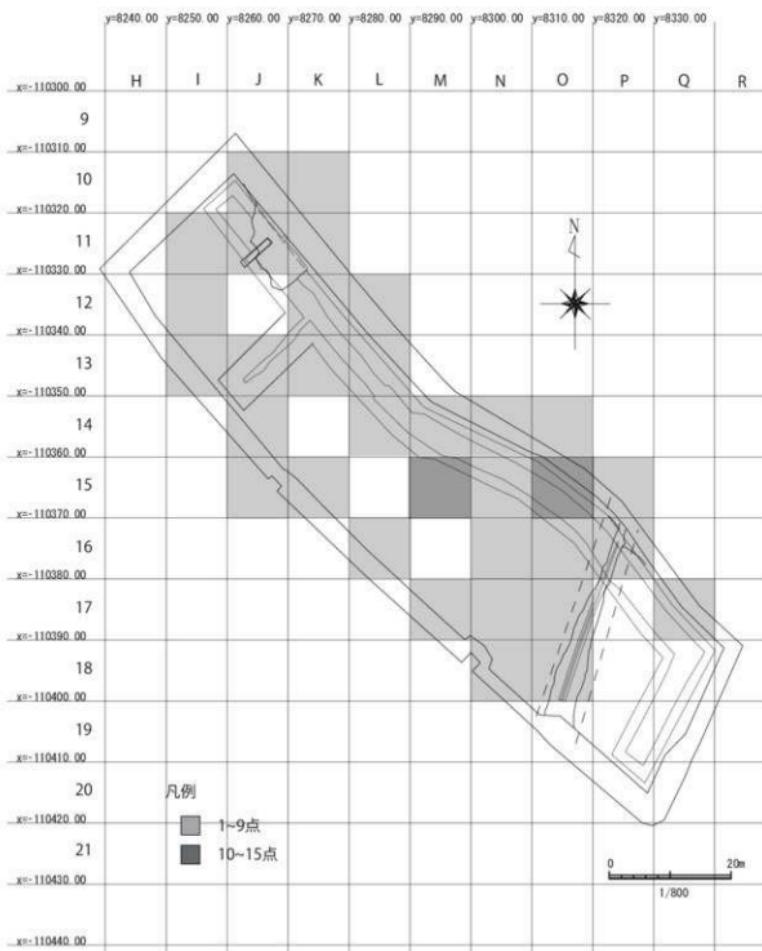
第64図 古墳時代前期末～中期前半



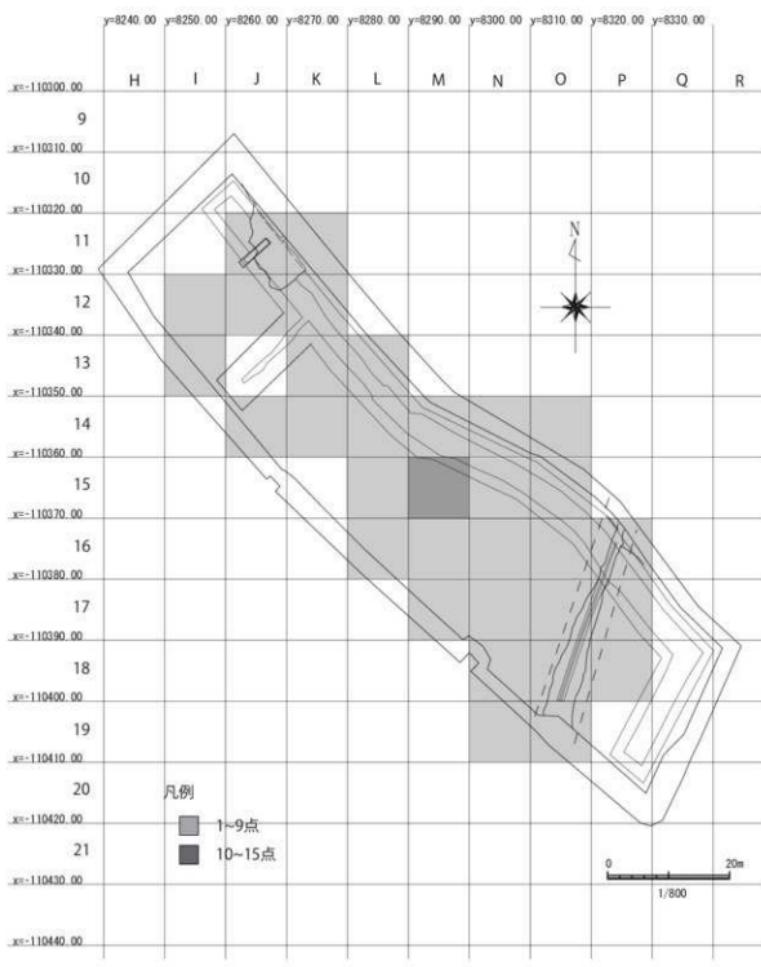
第65図 須恵器壺・壺口縁部片（古代）



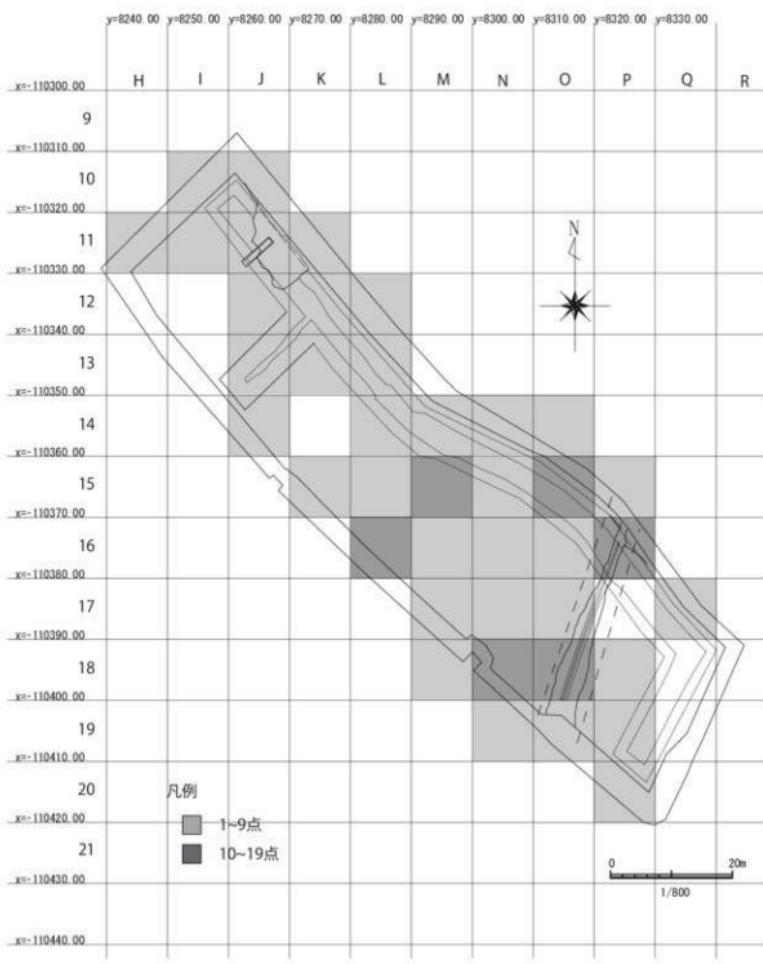
第66図 土師器甕口縁部片（古代）



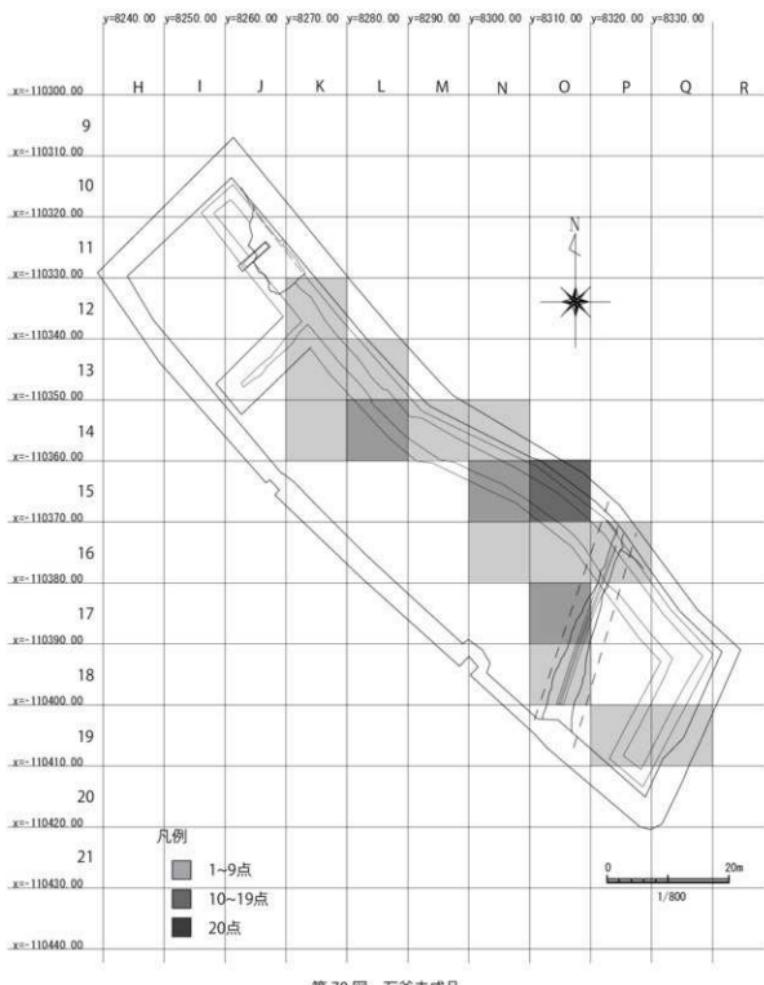
第 67 図 中世前半 (11世紀後半～12世紀後半)



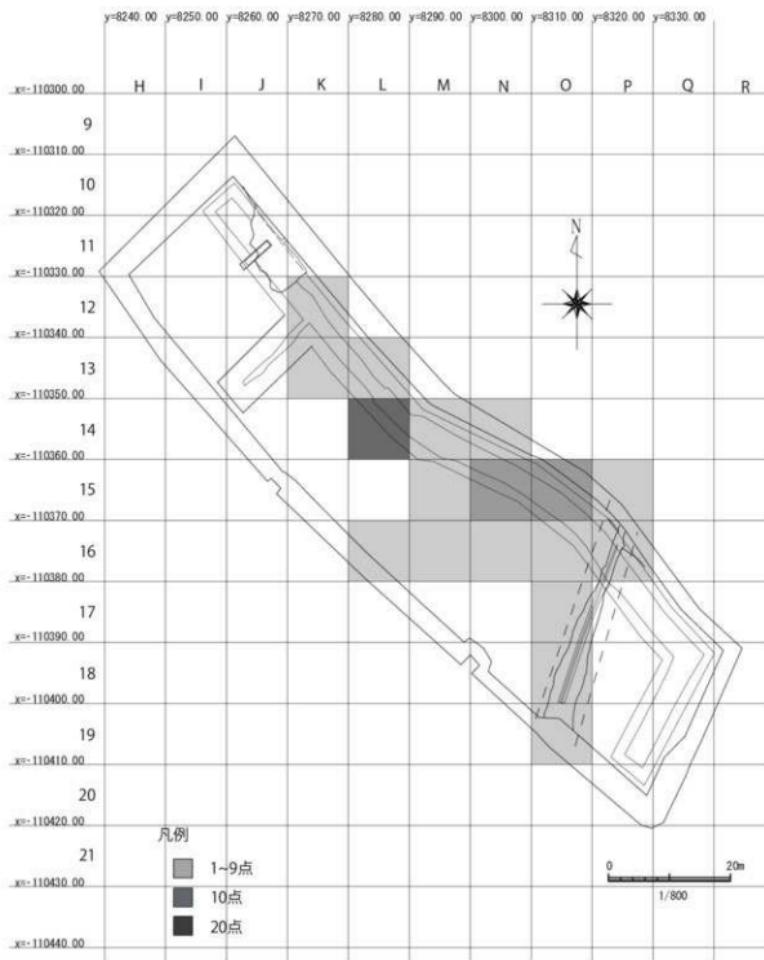
第68図 中世後半(15世紀後半～16世紀後半)



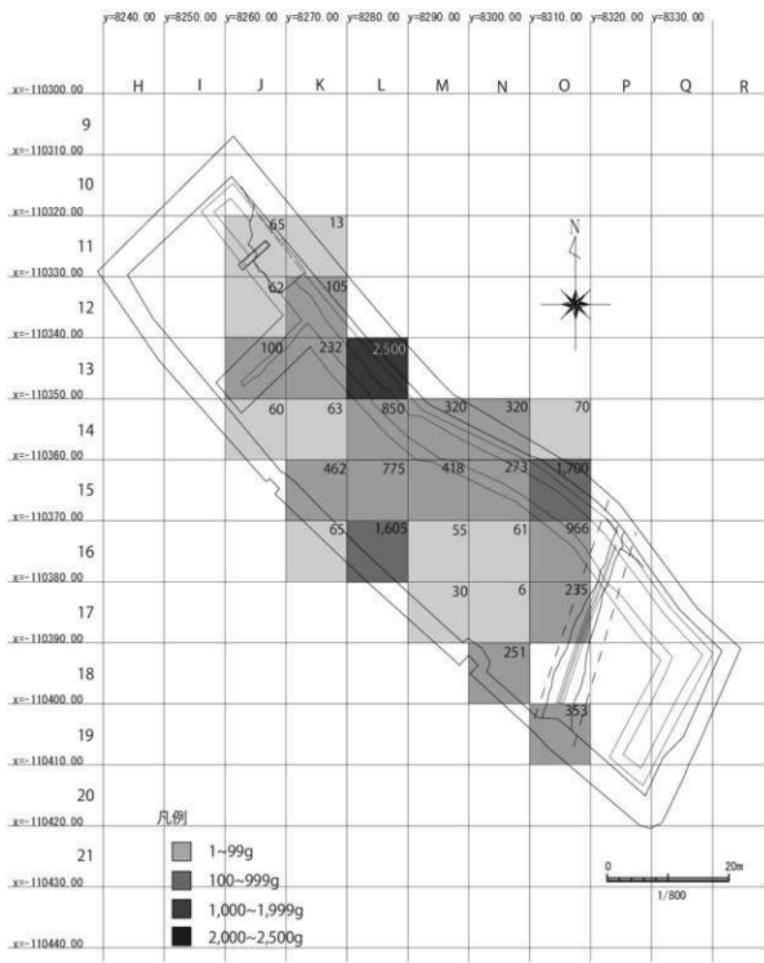
第69図 近世



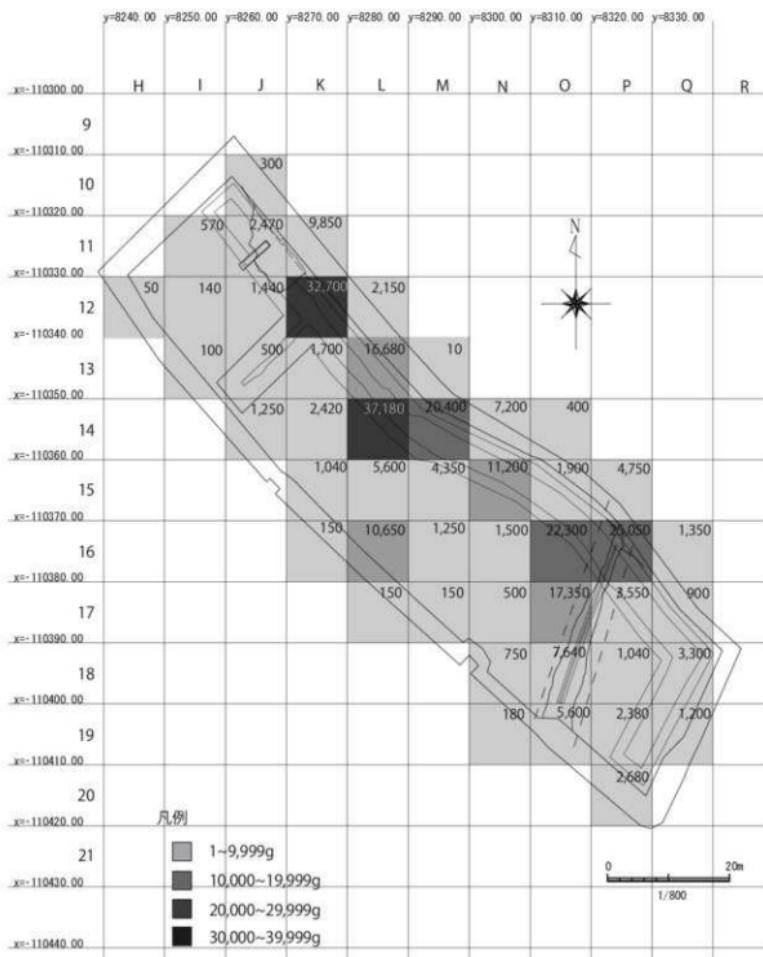
第70図 石斧未成品



第71図 その他の石器



第72図 非掲載・須恵器細片の総重量



第73図 非掲載・土師器細片（弥生土器細片含む）の総重量

第2節 出土遺物からみる中世期の様相

森原下ノ原遺跡4区は江津市松川町八神地区に位置し、森原神田川遺跡大津地区、同遺跡下ノ原地区、森原下ノ原遺跡1～3区に連続した遺跡である。本遺跡は江の川氾濫原に位置し、各層位に縄文から近世までの遺物が混在しており、層位的に出土状況を把握できる状況ではなかった。以下、本遺跡をふくむ周辺遺跡と関連する中世遺跡とを比較し検討をおこなった。

1. 出土遺物の概要

本遺跡から中世期に比定される陶磁器221点が出土し、内訳は輸入陶磁器が182点、国産陶器が39点である。とくに完形の黒褐釉碗（図41－13）がみつかったことが注目され、県内では報告例が少ない広東省奇石窯の褐釉印花壺（図41－14）も確認されている。産地別にみると中国産が73.8%、備前焼が16.3%、朝鮮産が8.6%であり、輸入陶磁器の大半は中国産であるが、朝鮮産も一定量出土している。年代的には11世紀後半から16世紀末までのものがみられる。

また本遺跡から出土した大宰府C期（11世紀後半～12世紀前半、以下、大宰府略）の白磁のうち広東産の比率が83.7%と高い数値を示している。県内遺跡におけるC期の広東産白磁を比較すると、浜田市古市遺跡26%、横路遺跡（土師土地区）32.8%、松江市出雲國府I・II 65.4%である¹。浜田市域では福建産の比率が高く、この比率は古市遺跡は博多や大宰府に近い組成とされるので²、本遺跡における広東産白磁は選択されて持ち込まれた可能性が考えられる³。

2. 関連遺跡との比較

本遺跡をふくむ八神地区4遺跡（以下、八神地区遺跡群⁴）と、江の川左岸の田渕遺跡および県内の中世遺跡との比較を行った。

第3表－3は中国磁器の出土割合を時期別に示したもので、益田市の港湾遺跡である沖手遺跡と中須遺跡のグラフに重ねたものである⁵。沖手遺跡ではD期をピークとしてそれ以降は減少し、中須遺跡はE期以降に増加する傾向を示している。この時期に港湾機能の移転が行われたようである。また、高津川流域や益田川流域では古代以来続く中心的な集落が、南北朝時代を境に衰退ないし廃絶する傾向が指摘される⁶。同様な傾向は石見府中域に比定される浜田市域でも指摘されており、14世紀代から中世後期にかけて府中域の遺物は減少するとされる⁷。

八神地区遺跡群から出土した中国磁器は652点であり、時期別の割合はC期18.5%、D期（12世紀中頃～後半）11.4%、E期（13世紀初頭～前半）2.2%、F期（13世紀中頃～14世紀初頭前後）2.1%、G期（14世紀初頭～14世紀中頃）1.7%、H期（14世紀後半～15世紀前半）28.3%、I期（15世紀中頃～15世紀後半）13.4%、J期（15世紀末～16世紀前半・中頃）12.0%、K期（16世紀中頃・後半～17世紀前半）10.4%である。この遺物量が急増するH期には、琉球貿易の典型とされるピロースク（森原神田川遺跡下ノ原地区15－1、21－7）、邵武窯白磁（森田D類）、徳化窯白磁（森原神田川遺跡下ノ原地区29－10）、龍泉窯青磁（上田B-II類、D-II類、C-II類）、黒褐釉碗（図41－13）がみられる。日宋貿易が行われた院政期は一定量が出土しており、博多の機能が低下した鎌倉時代から南北朝時代にかけて減少し、琉球貿易が盛んになると急増して後の南蛮貿易に続いている。H期に中国磁器が急増するパターンは、中須遺跡の動向に似ている。

上流の田渕遺跡の場合、沖手遺跡と同様なパターンを示しており、C期とD期を合わせると約75%となり、それ以降は減少傾向のまま推移している。

江の川流域でも南北朝時代を転機とする集落の再編が起きた可能性があり、田渕遺跡は院政期をピークとして停滞し、八神地区遺跡群は南北朝時代の終りから室町時代前半にかけて伸展している。

第3表-4は遺跡の産地別の組成比をグラフ化したものである。森原下ノ原遺跡1～3区は層位的に組成が分かれることから細分化した。このグラフをもとに国産陶器の検討をおこなった。

本遺跡の組成は隣接する森原下ノ原遺跡1～3区や森原神田川遺跡下ノ原地区の組成に近似しており、隣接する遺跡から流れ出た土砂が堆積したことを見ている。森原下ノ原遺跡1～3区の4～3/4～5層は13世紀～14世紀とされるが、この層では白磁を中心とした中国産磁器の比率が高く、国産陶器を含んでいない。国産陶器は4～2/2～2層より出現し、上位層にかけて比率が高くなる。この国産陶器が少ない傾向は型式学的にみられ、東播系鉢（森原神田川遺跡下ノ原地区26～26、22～4・5）などが少量報告される程度である⁸。同時期の松江市石台遺跡や天満谷遺跡では中世須恵器を中心国産陶器が約半分を占めている。天満谷遺跡では東海地方の常滑焼も9.3%になるが、同時期の江の川流域における流通量は少なかったようである。

八神地区遺跡群で国産陶器が増加するのは14世紀中頃以降であり、そのなかには常滑窯（森原下ノ原遺跡1～3区56-5）や備前窯（同56-4）といった大型製品が含まれる。これ以降は15世紀中葉の備前窯（図42-11）や17世紀前半代の唐津窯（図43-13）といった大型製品の搬入が継続的に認められる。国産陶器のなかでは備前焼が60.7%と最も多く、器種の多くは擂鉢である。瀬戸・美濃は10.4%であり、器種は卸皿や小皿といった灰釉製品がみられる。他には信楽焼（森原遺跡下ノ原地区1～3区）や越前焼（森原神田川遺跡下ノ原地区）が認められる。同様な傾向として、益田市中須西原遺跡において備前焼が14世紀前半から14世紀後半にかけて急増することが指摘される⁹。

中国陶磁器のピークと国産陶器が増加する時期が重なることから、14世紀中頃の遺跡地周辺において大型製品を作り大量輸送を可能にした流通網の整備があったことが推測される。

3. 東福寺の進出と千本崎地蔵堂層塔

本遺跡が所在する八神地区は江の川河口から約5km上流に位置し、付近は古代山陰道の「江東駅」推定地のひとつにあげられ、柿本人麻呂が江の川を渡ったとする「人麻呂渡し」の伝承が残る¹⁰。また上流域は中世期における河上郷の推定範囲とされ、この「かわのほり」の名称は貞応二年（1222）が初出とされる。江の川における水運は、この記述により鎌倉時代前半には成立していたと考えられており¹¹、本遺跡は石見国を東西につなぐ陸上交通と南北につなぐ江の川水運との結節点に位置している。

文献史学では中世の流通経済について「西日本海水運」という考え方が示されている。江の川水運については『海東諸国記』に「石見州北江津太守藤原吉久（応仁2・1468）」と「石見州桜井津土屋修理太夫朝臣賢宗（文明2・1470）」が朝鮮へ使者を遣わした記述があり、江の川が海洋から連続する「内海水運的性格」をもっていたことが指摘される¹²。『海東諸国記』の記載内容は必ずしも事実に即したものではないが¹³、石見国から名前があげられる5名のうち2名までが江の川流域の領主であったことは、この時期における江の川水運の盛況を反映しているものと思われる。

暦応二年（1339）に江の川下流域の都野郷が京都五山のひとつである東福寺に寄進され¹⁴、江田には東福寺鑑翁昭（1360年没）を開山とする觀音寺が建立される。その後、石見国一帯に東福寺派を中心とする禪宗寺院が展開し、江津市域には河上清泰寺、敬川靈泉寺、有福靈泉寺が相次いで建てられる¹⁵。東福寺は新安沈没船（1323年）から寺名を記した木簡が見つかり¹⁶、海外貿易に携わっていたことが知られている。

本遺跡から680m離れた堤防上に千本崎地蔵堂層塔が現存する。現高3mの花崗岩製で七重分が残存しており、年代は鎌倉時代後期から南北朝時代と推定される¹⁷。この層塔は江の川水運によって運び込まれたものと思われるが、甕などの大型製品が出現した時期（14世紀中頃）とも重なっている。一般に層塔は供養塔として伽藍から離れた位置に建てられるとされるので¹⁸、付近には寺院の存在が推測される。近世成立の『角郭經石見八重律』には古寺として「神福寺（中略）[古へ上の原の沖]」とあり¹⁹、八神地区の先端に神福寺という寺が存在した伝承を記している²⁰。

同様な花崗岩でつくられた層塔として益田市中須の十三重塔が知られる。福王寺境内の中世石造物の年代から14世紀後半代頃の年代観が推定される²¹。この層塔は港湾遺跡である中須遺跡に隣接しており、福王寺は日本海交易に関わる寺院と考えられている。中須遺跡と八神地区遺跡群はH期に中国磁器が急増する傾向を示しているが、水辺の要衝に位置した立地環境や、国産陶器の出土状況、近くに花崗岩製の層塔を伴う寺院が存在していたことなど符合する点も多い。

4. 黒褐釉碗について

八神地区遺跡群からは14世紀末から15世紀代にかけての優品が出土しており、龍泉窯青磁盤（森原神田川遺跡下ノ原地区15-7、70-27・28、図40-20）、龍泉窯青磁瓶（図75-1、104-4改変）、黒褐釉碗（図41-13）があげられる。なかでも龍泉窯青磁瓶は伝世品における天龍寺手に類するもので²²、小振りではあるが品質は良好であり、当時の舶来趣向を反映している。

また本遺跡から出土した黒褐釉碗（図41-13）は形態的な特徴から森本VII類に分類され、やや器高が高くなる傾向から14世紀末から15世紀初頭頃に比定される。こうした黒褐釉碗は中国では「盞」とよばれ、点茶に用いる碗として生産された²³。日本では浙江省の天目山より禪僧が盞を持ち帰ったことにより、こうした点茶にもちいる黒褐釉碗を「天目」と称するようになる。12世紀末に榮西によって葉茶を用いた点茶法が伝えられ、その後、13世紀後半～14世紀前半にかけて貴族や上級武家の間に普及し、舶来物を珍重する唐物數寄の風潮が生まれる。15世紀後半には足利義政によって唐物荘嚴の書院茶法が整えられ、『君代観左右帳記』²⁴では図41-13の黒褐釉碗などを「灰被天目」に分類する。八神地区遺跡群からは茶臼（森原神田川遺跡下ノ原地区76-2）が出土していることからも、点茶法が受容されたことが確かめられる。

消費地遺跡における黒褐釉碗の出土状況は、博多では12世紀より出土しており、これは中国商人の使用品も含まれるものと思われる²⁵。鎌倉では13世紀中頃から出現しており、寺院内における出土例が多いことから、禪宗寺院を中心に広まったことが指摘される²⁶。京都では共伴する土師器皿の年代をもとに12世紀代から出現し、13世紀後半～14世紀前半と15世紀代の二時期にピークがあったとされる²⁷。京都においても寺院跡からの出土例が多く²⁸、寺院における飲茶や供茶に黒褐釉碗が用いられた様子が窺える。島根県内では碎片をふくめると200点以上の中国産黒褐釉碗の出土が報告されている。本遺跡からは図41-13以外に碎片4点が出土しており、いずれも森

本分類IV-V類に分類され12世紀後半～13世紀代の年代観が推定される²⁹。

図41-13は江の川氾濫原の砂中にあったことが幸いして原型をとどめているが、器表面は砂により摩耗している。見込み付近の釉剥げはこうした摩耗とは異質であり、内底部で砂が激しくローリングしたか、もしくは使用痕の可能性が考えられる。14世紀中頃の江の川下流域には東福寺が進出しており、京都や鎌倉における出土例から、この地域における点茶の受容も禪宗寺院を触媒にして広まった可能性が考えられる。

5. 小結

本遺跡から出土した中世陶磁器は11世紀後半から16世紀末までのものがみられ、産地別にみると中国産が7割を越える。11世紀後半から12世紀前半の白磁において、広東産が大半を占めるのが特徴である。

本遺跡をふくめた八神地区遺跡群からは、琉球貿易でもたらされた中国陶磁器が数多く見つかっており、また同時期の国内陶器も増加して大型製品も出現するようになる。南北朝時代から室町時代前半にかけて、江の川流域における集落の再編と流通網の整備が行われたようである³⁰。

江の川下流域には東福寺が進出しており、また遺跡地の近くには層塔を伴う寺院の存在が推測される。遺跡からは青磁の優品や黒褐釉碗が出土しているが、禪宗をはじめとする寺院が江の川流域に唐物数寄や点茶といった文化の波及に影響を与えた可能性が考えられる。

第3節まとめ—森原下ノ原遺跡の変遷と位置づけ—

ここでは、1区～3区の調査成果（島根県2021・2022）に、4区の調査成果を加えて遺跡の変遷をまとめ（第74・75図）、遺跡の評価と位置づけを行う。

1. 繩文時代

森原下ノ原遺跡とこれが位置する八神地区内の他遺跡（森原神田川遺跡）において、明確な人の活動が認められるようになるのは縄文時代中期である。それ以前は1～3区の13・14層にみえるよう江の川によって形成された自然堤防が広がっていた。14層には約1万9千年前に噴火した三瓶山の浮布軽石の粒状片を大量に含んでいた。東西方向の土層堆積をみると、13・14層は調査区長軸の中心線にあたる部分がもっとも高くなっている、そこから東（山側）に向かって低く傾斜している。それに従って縄文時代の包含層である1～3区の11・12層も傾斜をもって堆積しており、遺構の基盤となる地形も傾斜していた。遺構は概ね後期が多く、住居状硬化面や土坑、焼土面など、集落遺跡として理解できる。包含層出土遺物は12層が中期、11～3層が中期末、11～1・2層が後期と比較的明瞭に分かれしており、それぞれ当地域の基準ともなりえる土器様相を把握することができた。他地域系の土器も多く、周辺地域でも中心的な集落であった可能性が高い。また、11層を中心に大量の磨製石斧未成品が出土し、石斧製作遺跡であったことも明らかとなった。なお、4区でも未成品を含んだ磨製石斧がまとめて出土しているが、氾濫堆積層からの出土で、法量・形態的観察から明確に縄文時代後・晚期と弥生時代前期の帰属を決することはできなかった。

縄文時代後期中頃から晩期にかけて、一時的に人の活動の痕跡が見られなくなる。遺跡には遺物量の極端に少ないシルト層（8～10層）が堆積しており、長期間にわたって湿地状の環境が広がつ

第3表 中世期陶磁器組成表と関連表

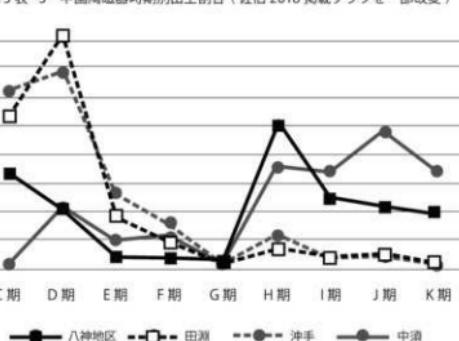
第3表-1 森原下／原遺跡A区遺物組成表

材質	产地	器形	種類	分類 / 年代	備註
福建閩清青白玉	福建閩清	白	螭	螭IV	5
		白	螭	螭V	2
		白	螭	螭III - b	6
		白	螭	螭V - 2 a	5
		白	螭	螭V - 9	9
		水注		宋代	2
福建邵武窯	福建邵武	白	螭	螭森D	4
江西景德鎮	江西景德鎮	白	螭	森森E	5
福建建安青白玉	福建建安	青白	螭	不明	5
福建	福建	青白	螭	青安I - 3	3
中國 輸入	浙江嘉興青白玉	螭	螭	龍首螭I - 1	1
				龍首螭I - 2	2
				龍首螭II - 2	2
				龍首螭III - 2	2
				螭耳B - II	1
				螭耳B - III	3
				螭耳B - IV	3
				螭文C - II	3
				五線D - I	10
				五線D - II	9
日本 輸出	江西景德鎮	青花	螭	直口E	1
				15C.	1
				直口 宋代	3
				直口 环	3
				龍首环IV	1
				不明	13
				螭 E	2
				螭 B1	4
				螭 C	2
				螭 E	2
英國 輸入	福建青白玉	螭	螭	小环F	1
				直口 G	1
				直口 H	1
				直口 I	1
				直口 J	1
				直口 K	1
				直口 L	1
				直口 M	1
				直口 N	4
				直口 V - IV	1
美國 輸入	福建青白玉	螭	螭	直口 O	1
				直口 P	1
				直口 Q	1
				直口 R	1
				直口 S	1
				直口 T	1
				直口 U	1
				直口 V	1
				直口 W	1
				直口 X	1
法國 輸入	福建青白玉	螭	螭	直口 Y	1
				直口 Z	1
				直口 A	1
				直口 B	1
				直口 C	1
				直口 D	1
				直口 E	1
				直口 F	1
				直口 G	1
				直口 H	1
西班牙 輸入	福建青白玉	螭	螭	直口 I	1
				直口 J	1
				直口 K	1
				直口 L	1
				直口 M	1
				直口 N	1
				直口 O	1
				直口 P	1
				直口 Q	1
				直口 R	1
德國 輸入	福建青白玉	螭	螭	直口 S	1
				直口 T	1
				直口 U	1
				直口 V	1
				直口 W	1
				直口 X	1
				直口 Y	1
				直口 Z	1
				直口 A	1
				直口 B	1

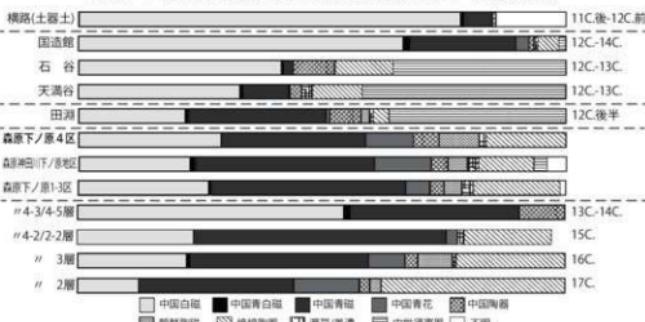
第3表-2 產地別出土数

遺跡	機関	沖縄本島										
		土石遺跡	石室	天井石	石室	天井石	石室	天井石	石室	天井石	石室	
中古	白壁	26	26	26	56	1	65	59	10	41	20	36
	相浦	4	3	1	4	2	-	3	2	1	-	-
	西原	41	40	57	78	3	65	95	10	26	43	59
	杏花	6	6	2	2	4	22	30	24	2	2	16
	向原	4	2	20	19	17	11	11	9	7	-	4
	白瀬	-	-	-	-	-	1	7	4	-	-	-
	野原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	那比	2	19	2	3	6	10	10	-	1	1	-
	常滑	3	7	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	鏡前	7	2	-	4	1	36	28	46	9	10	14
後期	信儀	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	15
	越前	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
	森原系	-	2	7	6	4	-	1	11	-	6	2
	中臣御縣	-	3	79	36	89	-	3	-	-	-	-
東漢	東張	-	8	7	-	-	4	-	-	-	-	-
	不明	0	0	-	-	-	-	-	10	4	-	2

第3表-3 中国陶磁器時期別出土割合（佐伯 2018 掲載グラフを一部改変）



第3表-4 出土陶磁組成比グラフ（廣江 2021 提載グラフを一部改変 計30）



ていたものと考えられる。

2. 弥生時代

1～3区の8～10層の上面ではいくつか遺構を検出したが、それらは7層とした氾濫堆積層に覆われ、次に人の活動が活発化するのは弥生時代前期である。6層では弥生時代前期前半の遺物が多く出土し、突帯文土器を少量ともなう。また、11層と同じ石材を使用した磨製石斧未成品が大量に出土し、再び石斧製作遺跡として機能したことが明らかとなった。石見地域で初となる土笛が出土したことでも注目される。遺構は土坑やピット、土器窓などを検出したのみで、集落の本体は調査区外にあるものと考えられる。

1～3区では、弥生時代前期後半から中期前半は遺物自体がほとんどなく、様相は不明瞭であったが、4区から弥生時代前期後半（石見I～3様式）の土器がまとまって出土している。中期後半は石見IV様式を中心とする土器が一定量出土し、江の川を跨った備後北部地域の塩町式土器から影響を受けた土器とともに石見地域では稀少な分銅形土製品も出土した。一方、この時期の遺構は不明瞭で、再び遺構が増えるのは弥生時代後期からである。後期前半と後半の2棟の竪穴建物を検出し、その他土坑やピットも多く検出した。鉄器やガラス玉も保有しており、江津市内はもとより、江の川流域においても規模の大きな集落遺跡と考えられる（第4表参照）。

3. 古墳時代

古墳時代初頭には1～3区で長門・周防系、布留系の土器が出土した竪穴建物が検出され、移住を含めた人の移動が想定される。その後、古墳時代中期にかけて断続的に竪穴建物が検出され、集落が継続していたと考えられる。前期には絵画土器や粘土に覆われた合わせ口土器、中期には合わせ口土器上層の土器窓、小型壺・ミニチュア土器の大量出土など、祭祀行為が想定できる遺物が多

第4表－1 江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落

遺跡	所在地	立地	遺跡の消長												古墳			
			弥生初期			弥生中期			古墳初期			古墳中期			古墳後期			
			前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	前葉	中葉	後葉	
森原下ノ原遺跡	松川町	後高地	遺構															
森原神山ノ原遺跡	松川町	後高地	遺構															
八戸上ノ原遺跡	松川町	丘陵根	遺構															
八戸上ノ原II遺跡	松川町	後高地	遺構															
高津遺跡	郡治町	丘陵根	遺構															
堀廻遺跡	郡治町	丘陵根	遺構															
若菜浜遺跡	後地町	砂丘	遺構															
平田川西遺跡	二宮町	丘陵根	遺構															
宮前遺跡	二宮町	丘陵根	遺構															
二宮C遺跡	二宮町	丘陵根	遺構															
梅田C遺跡	二宮町	丘陵	遺構															
古八幡村近遺跡	飯田町	丘陵地	遺構															
横田古墓	飯田町	丘陵	遺構															
笠置遺跡	邑智町	後高地	遺構															
(参考)	邑智町	後高地	遺構															

小遺跡：■は同時期が明確、■は同時期が不明瞭。
遺物：■は量が豊富、■は量が少ない。量の多寡は各遺跡内における相対的な量。

く確認された。また、島根県2例目となる石劍も出土し、弥生時代から引きつづき拠点的な性格をもった集落遺跡であった可能性が考えられる。

古墳時代後期になると遺物量が激減し、遺構も確認できなくなる。その代わりに遺跡北側に隣接する森原神田川遺跡下ノ原地区で後期を中心とする祭祀跡が検出されていることから(島根県2021)、活動の中心が移動した可能性が考えられる。

4. 古代

古代も古墳時代後期に引きつづき明確な遺構はほとんど検出されなかった。しかし、7～8世紀にかけての須恵器が一定量出土し、4区では同時期の土師器もまとめて出土しているほか、石帶や北陸に故地があると考えられる煮炊具も出土している。このことから、一般的な集落とは異なる施設が存在した可能性も考えられる。本遺跡が所在する太田地区、隣接する八神地区では『延喜式』以前の山陰道や江東駅の存在が想定されている(関2015)。また、古代山陰道の推定ルートや江東駅の比定地については、森原下ノ原遺跡の下流にある渡津付近が比定され、古代の須恵器が多数出土している長田遺跡の重要性も指摘されている(神2010)。今後は、江の川渡河(渡し)や古代交通の拠点施設(江東駅)を射程に入れた森原下ノ原遺跡(森原神田川遺跡を含む)とその周辺に関する地域研究が期待される。なお、森原下ノ原遺跡の約200m北には8世紀初頭に石見国国司に赴任した柿本人麻呂が江の川を渡った場所とされる通称「入麻呂渡し」が存在する。この伝承の元となる歴史的根拠等は明らかではないが、森原下ノ原遺跡の考古学的知見に、何らかの示唆を与えてくれよう。

ところで、平安時代頃に本遺跡は一つの両期を迎える。江の川の河川活動(大規模な洪水や流路の変更など)により調査区(1～4区)の西側が大きく浸食され、西低東高の地形が形成されている。本地域では万寿3年(1026)に大津波が襲ったという伝承があり(石見地方未刊資料刊行会1999)、この真偽は不明だが実際に地形が浸食された痕跡が確認された事例として重要である。

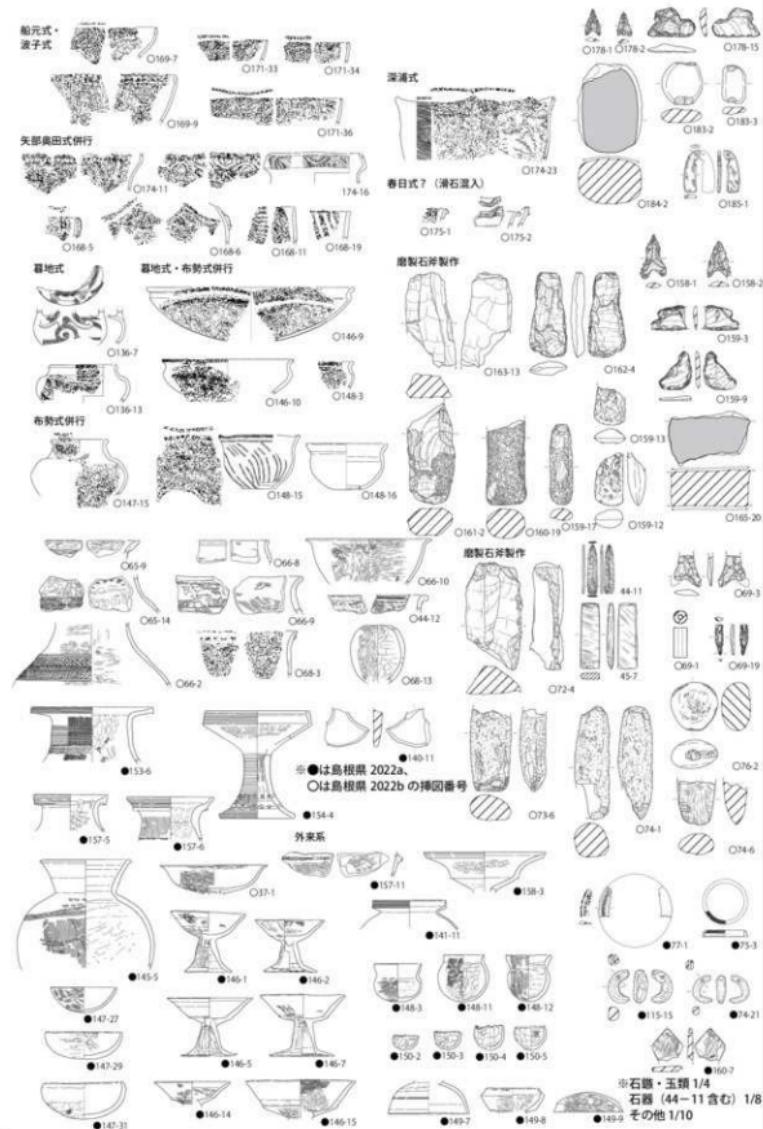
第4表-2 江津市および江の川下流域の弥生～古墳時代の集落

主な遺構・遺物			
居住関係	生産関係	埋葬関係	祭祀関係
壁穴建物・土坑 石井・鉢形?・ 土壙?	土器組?	土器組?	土瓶、多量の石井組成品、分鏡形土製品、弥生ガラス玉、弥生貝殻、 弥生玉器、陶漢鏡、石針・吉備船底土器、土製口五、滑石製造品、外系系土器 (伝玉等)、薄内系型鏡・埴輪、黑石系?・西部造印内系、九州系、布留系・吉備製鏡
		土器組	石井組成品
壁穴建物			
			外系系土器(堀町・九郎系)
壁穴建物	水塚・大溝	水塚、弥生貝殻・古墳時代土器、石製鉢形・土製口五、 外系系土器(堀町・九郎系)、布留系、黑帽子(土製口五層・須志郡藤原土師器)	
墓			
	粘石墓	弥生葬器、弥生鉢形	
圓柱建物・溝		古墳時代経土器、滑石製鏡造品	
壁穴建物			
壁穴建物			
壁塗・壁穴建物・ 圓柱建物・溝	水田	横穴式石室	分鏡形土製品、弥生～古墳玉器、外系系土器(堀町・統一折羅土器)
壁穴建物?・ 圓柱建物			
墓			
壁穴建物	石器製作 漆器製作	配石墓	多量の石井組成品、弥生葬器、弥生玉器、外系系土器(布留系)

時期	層位	環境・概要	遺構	主な出土遺物
縄文時代中期	14層	・自然堤防の形成 ・約 19,000 年前に噴火した三瓶浮布 軽石の粒状片を含む ・遺物なし		鹿島式 O173-17
	13層	・安定・土壤化 ・船元式・波子式を中心とした包含層 ・遺構はない		船元式・波子式 O170-4 O170-15
	12層			O170-16 O170-21
縄文時代後期初頭・前葉	11-3層	・矢部奥田式併行を中心とした包含層 ・2区にのみ堆積		墓地式 O135-1 O135-2 O173-18 O173-19 O173-29 O173-32
	11-1-2層	・硬化面・石材集積、燒土混などを探出 ・圓点集落か		
縄文時代後期中葉	8～10層	・墓地式・布式併行の包含層		布式併行 O138-4 O138-5 O144-16
	7層	・厚いシルト層堆積 ・湿地のような環境 ・遺物が極端に減少 ・氾濫堆積		
弥生時代前期前半	6層	・弥生時代前期前半の包含層 ・遺構は少ない ・土坑・ピットなど ・塩基性片岩製の磨製石斧製作		O63-1 O63-4 O63-11 O64
弥生時代中期				
弥生時代後期		・安定・土壤化 ・弥生時代中期から古墳時代中期を中心とした包含層		●52-2 ●156-1 ●156-8 ●156-10 ●157-3 ●157-7 ●156-5
古墳時代前期	5層	・複数の竪穴建物、土器窓などを探出		●141-1 ●141-5 ●142-4 ●142-3 ●142-9 ●143-1
古墳時代中期		・継続的な集落形成祭祀の痕跡あり		●142-11 ●142-9 ●144-1 ●144-6
		●1/250 集石 1/60		

第74図-1 森原下ノ原遺跡1~4区総括図(縄文~古墳時代)

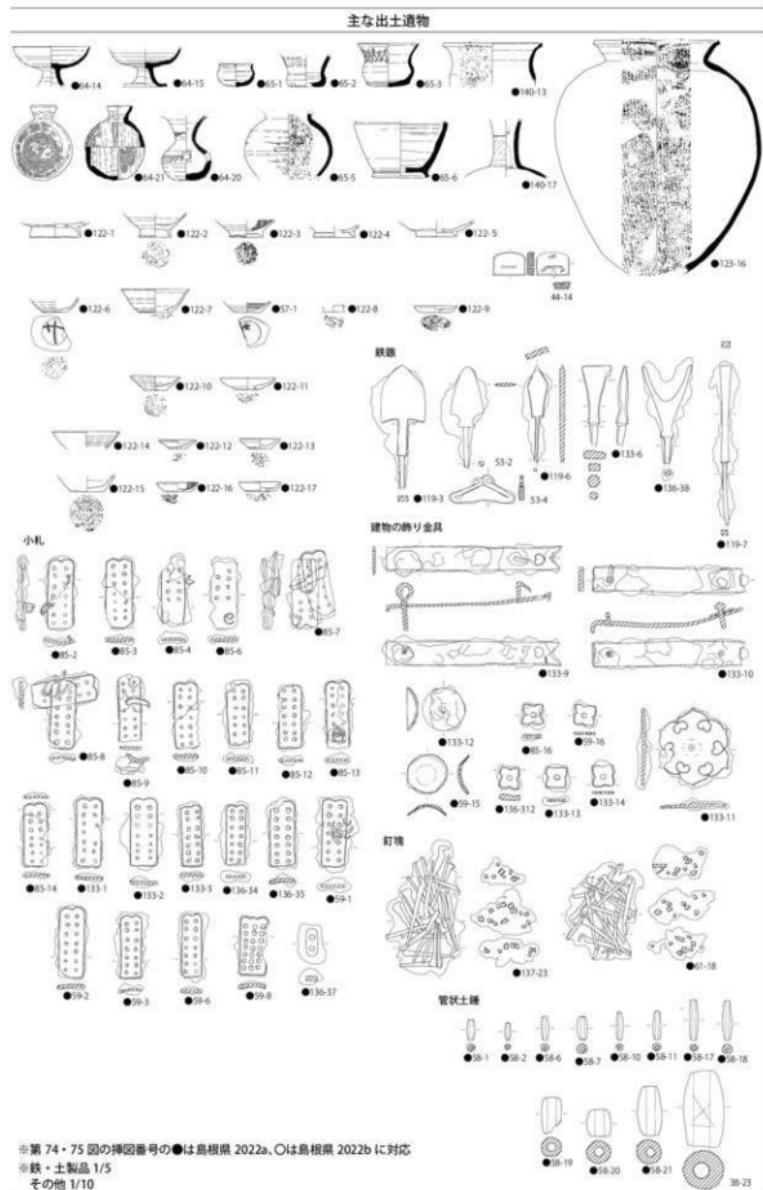
主な出土遺物



第74図-2 森原下／原遺跡1～4区総括表（縄文～古墳時代）

時期	層位	環境・概要	遺構	主な遺物
古代		<ul style="list-style-type: none"> ・遺構ほとんどなし ・7～8世紀の須恵器が一定量出土 		
中世前半	4-10～4-3層	<p>⇒西低東高の地形に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸食部分が耕作や小規模な氾濫によって徐々に埋没 		
中世後半	4-1-2層	<p>⇒室町時代頃にはほぼ浸食前の地形に戻る</p> <p>⇒室町～戦国時代にかけての建物・鍛冶炉を中心とする遺構面の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掘立柱建物から礎石建物への変化 ・希少な陶磁器、甲冑品（小札・笠ヶ利）、建物の飾り金具、大量の釘、棒状鉄製品の出土 		
近世	3-4～3-1層	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作と鍛冶作業の場、複数回の氾濫を受ける 		
	2層	<ul style="list-style-type: none"> ・現代まで耕作の場、宅地として利用 		

第75図-1 森原下ノ原遺跡1~4区総括図(古代~近世)



第75図-2 森原下ノ原遺跡1~4区総括図(古代~近世)

※第 74・75 図の捕獲番号の●は島根県 2022a、○は島根県 2022b に対応

• 第 14 • 73 頁

銀・土製品
その他の 1/10

5. 中世前半

2区では小規模な耕作活動が継続していたことが、畠の検出によりわかっている。この畠は弥生時代の竪穴建物よりも約2.5m低いレベルで検出しており、河川浸食によって形成された西低東高の地形が維持されたまま人の活動が再開されたことが明らかとなった。中世前半はこうした耕作や小規模な氾濫により徐々に地形が埋没していき、概ね15世紀頃に浸食前の状態に近い地形に戻ったと考えられる。

6. 中世後半

15～16世紀の建物、鍛冶炉、集石などの遺構面を形成しており、遺構はもともと河川浸食の影響が少なかった1区部分に集中する。鉄製の飾り金具をともなう比較的整った建物が複数棟立ち並び、掘立柱建物から礎石建物への変化を追うことができた。また、建物には甲冑修復用の小札や鉄釘が保管され、建物の周辺では脱炭作業や鍛錬鍛冶をおこなっていたことも明らかとなった。出土した貿易陶磁器には希少品も含まれており、これらから推測できる遺跡の性格は、一般的な集落ではなく、いわゆる館もしくは川湊の一角ではないかと考えられる。すなわち、本章第2節に詳述するように、森原下ノ原遺跡を含めた八神地区遺跡群は、江の川河口部における中世期水運の隆盛を示すものと理解される。

7. 近世以降

近世では畠と鍛冶炉を検出し、耕作と鍛冶作業の場として利用されたことが明らかとなった。調査区北側の森原神田川遺跡では、近世の畠や水田、水路が検出されており、幕府直轄地である石見銀山御料に属する当地においておこなわれた新田開発に関わる遺構と考えられている（島根県2020・2021）。森原下ノ原遺跡で検出された遺構もこれらと同様の性格が考えられる。また、4区では近代の石樋が検出されており、周辺が新田開発以降も耕作地として利用され続けたことが明らかとなった。

以上のように、森原下ノ原遺跡1～4区では縄文時代中期から現代まで、5,000年以上にわたって連綿と続いてきた人の活動痕跡が明らかとなった。こうした人の活動は遺跡のすぐ側を流れる江の川と不可分の関係にあり、まさに江の川とともに生きた人々の歴史の一端が明らかになったといえる。江の川は歴史上非常に重要な役割を担ってきた河川でありながら、県内における流域の調査例は少なく、今回の調査は地域の歴史を知る上で非常に重要な成果であり、今後の調査・研究に向けた基礎資料を提示できたと考える。

【註】

- 1 山本信夫・山本麻里子 2007「山陰の出土貿易陶磁と傾向～集落における消費形態及び北部九州と日本海流通に関する基礎的検討～」『下関文化財調査報告書 25 波原遺跡 森広遺跡 片山遺跡－国営農地再編整備事業に伴う波原、角島地区埋蔵文化財発掘調査報告書－』土居ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
- 2 森原博英 2018「石見府中城の歴史的景観」『島根県古代文化センター研究論集第 18 集 石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター
- 3 田中克子 2016 「『日宋貿易期における博多遺跡群出土中国陶磁器の変遷と流通－博多に残されたものから国内流通を考える－』『中近世陶磁器の考古学 第3巻』雄山閣）掲載表の博多I期A群の白磁は広東産が54.2%である。しかし、田中氏によるとこれはサブタイトルにあるように博多に残されたものであり、より輸入時期に近い一括廃棄土坑では福建産の割合が非常に高くなる傾向を指摘された。
- 4 八神地区遺跡群（森原神田川遺跡大津地区、森原神田川遺跡下ノ原地区、森原下ノ原遺跡 1～3 区、森原下ノ原遺跡 4 区）は、本節でのみ使用する便宜的な名称である。なお、江津市教育委員会が調査した森原上ノ原遺跡は、森原下ノ原遺跡 1～3 区の 4～5 層に該当する層位以下を未調査の状態で保全されていることから、今回の集計には含めていない。
- 5 佐伯昌俊 2018「高津川・益田川河口部の港湾遺跡の様相－中須東原・西原遺跡を中心にして－」『島根県古代文化センター研究論集第 18 集 石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界』島根県古代文化センター、中須東原遺跡と中須西原遺跡は地番によって分かれるが、本来は一続きの遺跡として中須（遺跡）としてグラフ化されるので、本文はこの記載に従っている。
- 6 村木二郎 2019「陶磁器からみた中世益田」『第 112 回 歴史フォーラム 中世益田の世界』国立歴史民俗博物館
- 7 前掲註 2
- 8 他に 12 世紀代の筑前系の瓦器碗（図 43－1）が見つかっている。田調遺跡では東播系をはじめとする中世須恵器が 34.3% を占める。
- 9 前掲註 5
- 10 『シリーズしまねの遺跡 発掘調査パンフレット 12 森原下ノ原遺跡 江の川下流の交通拠点』島根県教育厅埋蔵文化財調査センター 2022
- 11 西田友広 2012「石見益田氏の系譜と地域社会」『列島の鎌倉時代』高志書院
平凡社 1995「河上郷」『日本歴史地名体系第三三巻 島根の地名』
- 12 井上寛司 1984「中世山陰における水運と都市の発達－戰国期の出雲・石見地域を中心として－」『戰国期權力と地域社会』吉川弘文館
- 13 荒木和憲 2019「益田と対馬をつなぐ海上交通路」『第 112 回 歴史フォーラム 中世益田の世界』国立歴史民俗博物館
- 14 前掲註 11 西田 2012
- 15 井上寛司 1987「中世の江津と都野氏」『山陰地域研究（伝統文化）第 3 号』島根大学山陰地域研究総合センター
- 16 尹武炳 1983「新安海底遺物の引き揚げとその水中考古学的成果」『新安海底引揚げ文物』東京国立博物館／中日新聞社
- 17 間野大丞 2012「千本崎地蔵堂層塔」『日本石造物辞典』吉川弘文館
- 18 辻富美雄 2012「層塔」『日本石造物辞典』吉川弘文館
- 19 石見地方未刊資料刊行会 1991「角障壁石見八重疊」
- 20 「角障壁石見八重疊」を執事した石田春律が住した太田地区では、現在でも森原地区一帯の岸辺を「上ノ原」と呼んでいる。また「沖」については先端を意味する使い方がなされている。
- 21 前掲註 5
- 22 同様な青磁の優品は首里城宮の内跡や相国寺境内などで報告されている。
沖縄県立埋蔵文化財センター 2010「重要文化財公開 首里城宮の内跡出土品展 大型青磁が彩る緑の空間～海を渡った焼物～」
永野智子 2017「足利将軍家塔所・相国寺出土の輸入陶器碗」『中近世陶磁器の考古学 第5巻』雄山閣 根津美術館
1995「北山・東山文化の華」
- 23 栗建安 1994「福建省の建窯系黒釉碗」『特別展 唐物天目－福建省建窯出土天目と日本伝世の天目－』福建省博物館／茶道資料室 茶洋窯における黒釉碗の生産は南宋晚期から元代とされる。
- 24 「日本思想体系 古代中世藝術論 23」「君台觀左右帳記」岩波書店 1973
- 25 森本朝子 1994「博多遺跡群出土の天目」『特別展 唐物天目－福建省建窯出土天目と日本伝世の天目－』福建省博物館／茶道資料室
- 26 手塚直樹 1994「鎌倉の天目茶碗」『特別展 唐物天目－福建省建窯出土天目と日本伝世の天目－』福建省博物館／茶道資料室

- 27 陳彦如 2020 「中世における輸入と国産の天目碗」『第39回 中世土器研究「輸入陶磁器と国産土器・陶磁器—類似と模倣—」』日本中世土器研究会
- 28 前掲、陳彦如 2020 掲載表に寺院名のある遺跡数は 57.4%である。
- 29 田淵遺跡からは釉薺を二重掛けした黒褐釉碗（田淵図版 23－64）が見つかっており、森本分類Ⅲ類に分類される。
- 30 廣江耕史 2021 「陶磁器の流通と港湾施設の観点から—山陰地域の状況を中心に—」『古代交通研究会 第21回大会資料 古代・中世移行期の交通と祭祀—北陸道・山陰道の水上交通・陸上交通を中心に—』古代交通研究会

【引用・参考文献】

- 石田由紀子『中津式・福田 K II 式土器』『總覽 繩文土器』アム・プロモーション 2008
- 泉 拓良『鷹島式・船元式・里木II式土器』『總覽 繩文土器』アム・プロモーション 2008
- 出雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』1997
- 出雲市教育委員会『下古志遺跡』2001
- 出雲市教育委員会『矢野遺跡 遺構編（第1分冊）』出雲市の文化財 10 2010
- 出雲市教育委員会『杉沢遺跡・杉沢II遺跡・杉沢横穴墓群』2016
- 出雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』2018
- 稲田陽介『山陰地方の縄文土器—地域性からみた土器編年の再編—』『初期縄文土器群の成立と展開』中四国縄文研究会愛媛大会実行委員会 2012
- 石見地方未刊資料刊行会 1999『角舟軽石見八重疊』
- 岩本真実 2021 「出雲地域平野部における弥生時代前半期の土器様相」「山陰弥生文化の形成過程」島根県古代文化センター研究論集第25集 島根県古代文化センター
- 邑南町教育委員会 2001『沖太遺跡』
- 大阪府立弥生文化博物館『弥生両幅—弥生人が描いた世界—』大阪府立弥生文化博物館図録 33 2006
- 大阪府立弥生文化博物館『偽人がみた龍 龍の絵とかたち』大阪府立弥生文化博物館図録 40 2009
- 邑南町教育委員会『沖丈遺跡』2001
- 長田友也『磨製石斧—製作技術の変遷と流通—』『季刊考古学』第119号 雄山閣 2012
- 小都 隆『波子式土器』『日本土器事典』雄山閣 1996
- 鹿島町教育委員会『南講武地区分布調査報告1』1987
- 柏原孝俊『弥生時代前期の土器づくり—の口遺跡出土の燒土塊をめぐって—』『みずほ』第23号 大和弥生文化の会 1997
- 幸泉満夫『四國』『西日本の縄文土器 後期』真陽社 2010
- 江津市教育委員会『高津遺跡』2005
- 是田 敦『島根県主要縄文時代遺跡の石器集成表』『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 島根県古代文化センター 2014
- 神原博英 1999 「島根県躰石遺跡出土の大陸系磨製石器類について」『地域に根ざして』田中義昭先生退官記念事業会
- 神原博英 2005 「浜田市躰石遺跡出土遺物—弥生前期土器を中心に—」『古代文化研究』第13号 島根県古代文化センター
- 佐藤由紀男 2017 「石材の比重からみた弥生系磨製石斧の生産・流通」『岩手大学文化論叢』第9輯 岩手大学
- 佐藤由紀男「弥生開始期の生業・交流」『北陸と世界の考古学』日本考古学会 2021 年度金沢大会資料集 2021
- 島根県教育委員会『中国縱貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1980
- 島根県教育委員会『森遺跡・板屋I遺跡・森脇山城跡・阿丹谷辻堂跡』1994
- 島根県教育委員会『荒船古墳群・荒船遺跡・本庄川流域条里遺跡（2）』1998
- 島根県教育委員会『門生黒谷I遺跡・門生黒谷II遺跡・門生黒谷III遺跡』1998
- 島根県教育委員会『姫原西遺跡』1999
- 島根県教育委員会『上野II遺跡—弥生後期集落及び鍛冶関連遺跡の調査—』2001
- 島根県教育委員会『下山遺跡（2）—縄文時代遺構の調査—』2002
- 島根県教育委員会『島根県遺跡地図1（出雲・隠岐編）』2003
- 島根県教育委員会『原田遺跡（2）—2区の調査—』2006
- 島根県教育委員会『家の後II遺跡2 北原本郷遺跡2』2007a
- 島根県教育委員会『林原遺跡』2007b
- 島根県教育委員会 2007『南外2号墳・勝負遺跡』
- 島根県教育委員会 2009『五丁遺跡 寺庵遺跡 於才遺跡』

- 島根県教育委員会 2010『道休烟道路』
- 島根県教育委員会 2012『山林遺跡 Vol.8 (6, 7区)』
- 島根県教育委員会 2013『西川津遺跡・古屋敷II遺跡』
- 島根県教委員会 2014『庵寺古墳群II・大迫ツリ遺跡・小釜野遺跡』
- 島根県教育委員会 2017a『古屋敷遺跡 (C・F・H・I区)』
- 島根県教育委員会 2017b『古屋敷遺跡 (D区)』
- 島根県教育委員会 2018『大国地頭所遺跡』
- 島根県教育委員会 2019『陣堂谷遺跡 諸友大師山横穴IV群1号穴』
- 島根県教育委員会 2020『森原神田川遺跡大津地区』
- 島根県教育委員会 2021『森原神田川遺跡下ノ原地区』
- 島根県教育委員会 2022a『森原下ノ原遺跡1~3区1. 古代~近世編』
- 島根県教育委員会 2022b『森原下ノ原遺跡1~3区2. 繩文~古墳時代編』
- 島根県教育委員会・島根県古代文化センター 2003『弥生時代の磨製石器』島根県古代文化センター調査研究報告書 13
神 英雄 2010『柿本人麻呂の石見』自照社出版
- 間 和彦 2015『古代石見の誘い道 人麻呂と神々と道』今井出版
- 竹広文明『沖丈遺跡出土石器をめぐって』『沖丈遺跡』邑智町教育委員会 2001
- 田崎博之 2002『焼成失敗品からみた弥生土器の生産と供給』『環瀬戸内海の考古学』古代吉備研究会
- 田中義昭 2011『弥生時代集落址の研究』新泉社
- 田畠直彦 2015『山陰西瀬(山口県)』『前期古墳編年を再考するⅡ-古墳出土土器をめぐって-』中国四国前方後円墳研究会
- 田畠直彦 2021『山陰地方における綾羅木・高櫻系土器』『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第25集 島根県古代文化センター
- 千葉 豊『縄帶文土器』総覧、縄文土器 アム・プロモーション 2008
- 千葉 豊『縄文後期土器研究の現状と課題』山陰地方の前半期を中心にー』『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集 古代文化センター 2014
- 土谷崇夫『磨製石斧の供給』『ものづくり一道具製作の技術と組織ー』縄文時代の考古学6 同成社 2007
- 仁摩町教育委員会 1993『川向遺跡発掘調査報告書(1)』
- 仁摩町教育委員会 1999『五丁地区遺跡群発掘調査報告書』
- 春成秀爾『弥生時代の龍』『祭りと呪術の考古学』塙書房 2011
- 松本岩雄 1992a『出雲・隱岐地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社
- 松本岩雄 1992b『石見地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社
- 松山智弘 2021『島根県』『中期古墳研究の現状と課題V~古墳時代中期の土師器・須恵器をめぐって~』中国四国前方後円墳研究会
- 宮島了誠・桑門晋紀編『季刊考古学 石器生産と流通にみる弥生文化』第111号 雄山閣 2010
- 柳浦俊一『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣 2017
- 柳浦俊一『山陰地方を中心とした中国地方における縄文土器型式の分布』『隱岐産黒曜石の獲得と利用の研究』島根県古代文化センター研究論集第19集 島根県古代文化センター 2018
- 柳浦俊一 2021『島根県中・東部の突帯文土器』『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第25集 島根県古代文化センター
- 山崎聰人・岩本真実・原田敏昭 2021『山陰における無文土器系土器ー出雲地域を中心としてー』『山陰弥生文化の形成過程』島根県古代文化センター研究論集第25集 島根県古代文化センター 2021
- 山本 清『西山陰の縄文式文化ー土器を中心としてー』『山陰文化研究所紀要』第1号 島根大学 1961
- 吉田町地域振興事業団『郡山大通院谷遺跡(西地点編)』吉田町地域振興事業団調査報告書第9集 2003
- 米子市教育委員会『陰田』 1984
- 米子市教育委員会『日久美遺跡』 1986

第5表 遺物観察表(縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品)

補足番号	遺物 番号	文書 番号	Gr	層位	種手	西種	分類	法面(内側面) (cm)	地土	色調	文跡・調整その他	備考
26	1	13	M15	3-4層	縄文	深鉢	中期 (波字、船字 式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：にじり裏側 10YR7/4 内：にじり裏側 10YR7/3	外：縄文風、沈線 内：三方手	
26	2	13	N16	3-4層	縄文	深鉢	後期 (波字式)	直径：9.0	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：褐色 10YR6/2 内：灰褐色 10YR6/2	外：縄文 LR 内：ナデ	
26	3	13	P17	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：褐色 5YR4/1 内：灰褐色 10YR3/1	外：三方手風、縄文 LR, 内：三方手	26-5と同一個体
26	4	13	P17	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：黒 5Y2/1 内：黒褐色 7.5Y3/3	外：口部部と外表面 縄文 LR、沈線、三方手 内：三方手	
26	5	13	P17	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：褐色 5YR4/1 内：灰褐色 10YR3/1	外：口部部と外表面 縄文 LR、沈線、三方手 内：三方手	26-3と同一個体
26	6	13	N16	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：灰褐色 5YR5/2 内：灰褐色 5YR5/2	外：口部部と外表面 縄文 LR、沈線、三方手 内：三方手	
26	7	13	L16	3-4層	縄文	深鉢か?	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：灰褐色 5YR4/2 内：にじり裏側 10YR7/3	外：縄文風、ナデ、三方手 内：三方手	
26	8	13	P1	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：灰褐色 7.5YR5/2 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：縄文風、沈線、三方手 内：三方手	
26	9	13	M16	3-4層	縄文	深鉢か?	後期 (墓地式)	—	1mm以下の砂 粒を少し含む	外：浅褐色 10YR8/3 内：にじり裏側 10YR7/4	外：口部部に沈文風、と沈線 外表面に三方手の 沈線、三方手 内：三方手	外側：深村手
26	10	14	M14	3-4層	縄文	深鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：灰褐色 7.5YR6/2 内：にじり裏側 5YR7/4	外：二枚貝基盤 内：ナデ	
26	11	14	M16	2層	縄文	浅鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	2mm以下の砂 粒を多少含む	外：灰褐色 10YR6/2 内：灰褐色 10YR6/2	外：二枚貝基盤 内：二枚貝基盤	
26	12	14	N16	3-4層	縄文	深鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	2mm以下の砂 粒を多く含む	外：浅褐色 7.5YR6/3 内：浅褐色 7.5YR6/3	外：二枚貝基盤 内：二枚貝基盤	
26	13	14	P19	3-4層	縄文	小鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	1mm以下の砂 粒を僅かに含む	外：褐色 7.5YR5/1 内：灰褐色 7.5YR5/2	外：三方手 内：三方手	
26	14	14	M14	3-4層	縄文	深鉢	後期 (墓地式～布 製式併行)	—	3mm以下の砂 粒を多く含む	外：にじり裏側 10YR6/3 内：にじり裏側 10YR6/3	外：二枚貝基盤 内：二枚貝基盤	
26	15	14	I11	3-4層	縄文	浅鉢	後期 (舟底式以 降)	—	2mm以下の砂 粒を多く含む	外：褐色 10YR4/1 内：褐色 10YR4/1	外：舟底、ナデ 内：ナデ	
26	16	14	Q20	3-4層	縄文	深鉢	後期無文	—	2mm以下の砂 粒を多く含む	外：明赤褐色 2.5YR5/6 内：にじり裏側 5YR7/4	外：赤堀 内：赤堀	
26	17	14	P19	3-4層	縄文	深鉢	後期 (縦+轟1式)	—	1mm以下の砂 粒を多く含む	外：にじり裏側 5YR7/3 内：黒褐色 10YR3/1	外：入り組み文 内：三方手	

掲出番号	遺物番号	写真番号	Gr	層位	種別	種類	分類	法面 (内復元) (cm)	出土	色調	文様・調査その他	備考
27	1	14	M14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(9.5)	3mm以下の部分 底を少し含む	外: 黄褐色 2.5Y4/1 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ヨコナナデ、キサツ 汎用、竹管文。ナデ 内: ヨコナナデ	
27	2	14	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(7.1)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 黄褐色 10YR7/3 内: にい黄褐色 10YR7/4	外: ハラダ系直線文 内: ヨコナナデ、ナデ	
27	3	14	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式		3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/2 内: にい黄褐色 10YR7/2	外: ヨコナナデ、ハラ 内: ヨコナナデ、ナデ	内面: 黒色の付着物
27	4	14	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(9.8)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 黄褐色 10YR7/2 内: にい黄褐色 10YR7/2	外: ヨコナナデ、キサツ 内: ハラダ系直線文 内: ヨコナナデ	
27	5	15	L13 L14	3-4層	弥生土器	小型甕	I-3種式	口径:(12.2) 底径:12.0	2mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 5.5YR7/4 内: 深褐色 10YR8/4	外: ヨコナナデ、ハラ 汎用、竹管文 内: ヨコナナデ、ナデ	外面: 一部擦付着
27	6	14	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(15.0)	3mm以下の部分 底を少し含む	外: 深褐色 7.5YR8/3 内: 褐色 5YR7/6	外: ヨコナナデ、ナデ 内: ナデ	
27	7	14	O16	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(19.9)	2mm以下の部分 底を少し含む	外: 褐色 5YR6/6 内: にい黄褐色 10YR7/2	外: ヨコナナデ、ナデ 内: キサツ、織目工具 外: ハラダ系直線文 内: ヨコナナデ、ハラ	
27	8	14	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(20.1)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 7.5YR7/4 内: にい黄褐色 7.5YR7/4	外: ヨコナナデ、キサツ、対角 内: ナデ	
27	9	14	K13	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(19.0)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 7.5YR6/2	外: ハラ、ナデ	
27	10	15	P16 O16	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(22.0)	4mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 7.5YR8/3 内: 深褐色 10YR8/1	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ハラ系直線文	
27	11	15	O15	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(23.8)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 10YR6/2 内: 深褐色 10YR5/1	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ハラ系直線文	
27	12	15	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(22.8)	2mm以下の部分 底を少し含む	外: 深褐色 10YR6/2 内: にい黄褐色 10YR6/2	外: ハラ、ヨコナナデ、汎用 内: ヨコナナデ、ハラ	一部黒褐色の変色
27	13	15	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(24.2)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/2 内: にい黄褐色 10YR7/2	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ヨコナナデ、ミキモ	
27	14	15	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(26.8)	2.5mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR6/3 内: にい黄褐色 10YR6/3	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ヨコナナデ、ナデ	
27	15	15	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(25.2)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/2 内: 褐色 10YR7/2	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ハラ系直線文	
27	16	15	P15	—	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(29.6)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 明治灰 5YR7/2 内: 褐色 7.5YR6/2	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ヨコナナデ、ナデ	
27	17	15	M14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(29.0)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 7.5YR6/1 内: 褐色 7.5YR6/1	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ナデ、ミクモガタ	
27	18	15	M14	—	弥生土器	甕	I-3種式	口径:22.5	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 明治灰 2.5YR5/6 内: 明治灰 2.5YR5/6	外: ナデ、ミクモガタ 内: ハラ、ナデ	
28	1	16	K13	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(28.7)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 10YR6/2 内: 褐白 10YR6/2	外: ハラ、ヨコナナデ 内: ヨコナナデ、ミキモ	
28	2	16	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(26.0)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 7.5YR8/3 内: 深褐色 7.5YR8/3	外: ハラ系直線文 内: ハラ、ナデ、油なし、ハラ 内: ハラ、ナデ、油なし 内: ヨコナナデ	
28	3	16	K13	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(25.6)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 10YR6/4 内: にい黄褐色 7.5YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ヨコナナデ、ハラ	
28	4	16	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式		3mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 7.5YR6/2 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ナデ、ミクモガタ	
28	5	16	M14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(28.0)	3mm以下の部分 底を少し含む	外: 褐色 7.5YR6/2 内: 深褐色 5YR6/4	外: ハラ系直線文 内: ハラ、ナデ	
28	6	16	L13 L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(26.4)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 白色 7.5YR6/2 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ハラ、ヨコナナデ	外面: 一部擦付着
28	7	16	L13	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(17.4)	4mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 10YR6/2 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ハラ、ヨコナナデ	
28	8	18	M14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(27.6)	4mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 10YR6/3 内: 深褐色 10YR6/3	外: ハラ系直線文 内: ナデ、ヨコナナデ	
28	9	16	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(23.4)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 10YR6/1 内: 深褐色 10YR6/2	外: ハラ系直線文 内: ヨコナナデ、ハラ	
28	10	16	N15	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(34.0)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: 褐色 7.5YR6/2 内: 褐色 7.5YR6/2	外: ハラ系直線文 内: ハラ、ヨコナナデ	
28	11	16	L13 L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(33.2)	4mm以下の部分 底を多く含む	外: 深褐色 10YR6/3 内: 深褐色 10YR6/3	外: ハラ系直線文、竹管文 内: ハラ系直線文	口縁部にキザ三目
28	12	16	O15 O16	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(23.4)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/3 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ヨコナナデ、ナデ	
28	13	16	D5	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(36.6)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/3 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ハラ系直線文 内: ヨコナナデ、ナデ	
28	14	16	N15	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(25.2)	2mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR6/4 内: にい黄褐色 10YR6/4	外: ヨコナナデ、ハラ 内: ヨコナナデ、ナデ	
29	1	17	L14	3-4層	弥生土器	甕	I-3種式	口径:(9.7)	3mm以下の部分 底を多く含む	外: にい黄褐色 10YR7/3 内: にい黄褐色 10YR7/3	外: ヨコナナデ、ハラ 内: ヨコナナデ、ナデ	
29	2	18	K12	3-4層	弥生土器	甕						

29	3	18	K13	3-4層 生物土器	壺	I-3様式	口径:(9.0)	3mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根7.5YR8/3 内：深葉根7.5YR8/3	外：前田、直美文、 ミガキ、ナデ 内：ナデ
29	4	17	L14	3-4層 生物土器	壺	I-2様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：灰白10YR6/2 内：浅葉根10YR8/3	外：ミカキ、ヘラ、安藤 内：サクラ、羽文、 (質屋根縁)
29	5	16	O18	3-4層 生物土器	壺		口径:(10.8)	2mm以下の89 粒を多く含む	外：明赤根2.5YR5/6 内：にじいろ7.5YR6/4	外：ヨコカド、ハケ、 ミガキ 内：ヨコカド、ハケ
29	6	19	K13	3-4層 生物土器	小瓶壺		口径:6.0 底径:4.8	2mm以下の89 粒を多く含む	外：暗赤根7.5YR6/6 内：にじいろ7.5YR6/6	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ
29	7	19	M14	3-4層 生物土器	壺		口径:(7.6) 底径:6.4	2mm以下の89 粒を多く含む	外：明赤根7.5YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/4	外：ヨコカド、ハケ、 ミガキ 内：ヨコカド、ハケ
29	8	19	P16	3-4層 生物土器	壺		口径:(19.8)	3mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根10YR8/3 内：浅葉根10YR8/3	外：ヨコカド、ミガキ、 ヘンボウ根 内：ヨコナナ、ミガキ
29	9	17	L14	3-4層 生物土器	壺	I様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：灰白10YR6/2 内：灰7.5YR6/6	外：ヨコカド、ミガキ、 ヘンボウ根 内：ヨコナナ、ミガキ
29	10	19	L14	3-4層 生物土器	壺	I様式	口径:(19.25)	4mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/2 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ミガキ、頭縁 内：(ヘラ)、羽文状 武(質屋)
29	11	17	K13	3-4層 生物土器	広口壺	I-4様式	口径:(29.4)	2mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR6/6 内：灰7.5YR6/6	外：ナデ、ミガキ 内：ナデ、ミガキ
29	12	17	K13	3-4層 生物土器	広口壺	I-3様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：灰白10YR8/1 内：灰7.5YR8/1	外：ヨコカド、ミガキ、 ヘンボウ根 内：ヨコナナ、ミガキ
29	13	19	L14	3-4層 生物土器	壺	I様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根10YR8/3 内：にじいろ7.5YR7/4	外：ヨコカド、ミガキ、 ヘンボウ根 内：ヨコナナ、ミガキ
29	14	17	L14	3-4層 生物土器	広口壺	I-3様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR6/6 内：暗2.5YR6/6	外：ヘンボウ根 内：ナデ、頭縁著しい
29	15	17	P20 Q20	3-4層 土製品	土糞円錐		長径:4.2 幅:4.1 厚さ:2.0 重量:15.6g	3mm以下の89 粒を多く含む	外：法赤根2.5YR7/4 内：にじいろ7.5YR7/4	外：ナデ(摩滅著しい) 内：ナデ
29	16	17	O14	3-4層 土製品	土糞円錐		長径:4.3 幅:4.3 厚さ:0.6 重量:13.6g	4mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/2 内：にじいろ7.5YR7/2	外：ナデ 内：ナデ
30	1	17	O16	3-4層 生物土器	壺	I-3様式		3mm以下の89 粒を少しある	外：灰葉根10YR5/1 内：暗2.5YR6/6	外：安藤、キザニ、有輪 内：羽文、質屋文 内：質屋縁による施文
30	2	17	K13	3-4層 生物土器	壺	I-3様式		4mm以下の89 粒を少しある	外：暗2.5YR1/1 内：灰葉根10YR6/2	外：ミガキ、北端 内：(質屋)、山形文
30	3	17	P16	3-4層 生物土器	壺	I-3様式		2mm以下の89 粒を少しある	外：にじいろ7.5YR7/2 内：にじいろ7.5YR7/3	外：質屋縁による施文
30	4	19	L14	3-4層 生物土器	広脚壺	I-3様式	口径:17.7	3mm以下の89 粒を少しある	外：暗2.5YR6/6 内：にじいろ7.5YR7/4	外：ナデ、ミガキ、北端 内：ミガキ
30	5	17	J11	3-4層 生物土器	高杯	N/様式	底径:(14.1)	1mm以下の89 粒を少しある	外：にじいろ7.5YR7/4 内：灰2.5YR1/1	外：9号の沈量、直通して いい匂い 内：ナデ、キズリ
30	6	17	L15	3-4層 生物土器	壺	II-1様式		3mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根10YR8/3 内：にじいろ7.5YR7/4	外：斜葉文、ハケ 内：ヨコナナ
30	7	17	O16	3-4層 生物土器	壺	II-1様式	口径:(21.4)	1mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/2 内：黑暗2.5YR1/1	外：ナデ、キザニ、キザニ 内：ヨコカド、ハケ
30	8	17	J12	3-4層 生物土器	壺	IV-1様式	口径:(27.0)	2mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根10YR8/3 内：暗2.5YR7/2	外：ヨコナナ、ハケ、四 脚、斜葉、斜葉 内：ヨコカド
30	9	19	L14	3-4層 生物土器	壺	I-3様式	口径:(11.2) 器径:(5.6)	4mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/2 内：にじいろ7.5YR7/2	外：ヨコナナ、ミガキ、 麻丸 内：ヨコナナ、ハケ 頂部に複数の突起
30	10	19	K13	—	生物土器	甕		4mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/4 内：にじいろ7.5YR7/6	外：ナデ、ヨコナナ 内：(ナデ)、ナデ 外：表面斜削
30	11	20	M14	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	つまみ縁:(5.4)	2mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR8/4 内：暗2.5YR8/3	外：ナデ、ナデ
30	12	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(7.2)	3mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/4 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ
30	13	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(6.7)	3mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/4 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ
30	14	18	M14	3-4層 生物土器	甕・壺	I-3様式	底径:6.4	4mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根7.5YR8/2 内：灰7.5YR6/2	外：ナデ、ナデ 内：赤色斜削(代番 (B10R5-6))、赤色か?
30	15	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(8.6)	1.5mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ
30	16	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:8.5	3mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ
30	17	20	M14	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:8.0	3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR6/6 内：にじいろ7.5YR7/0	外：ナデ、ミガキ、 内：ナデ
30	18	18	P16	3-4層 生物土器	甕・壺	I-3様式	底径:(9.6)	3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR7/0 内：灰2.5YR6/2	外：ナデ、ナデ
30	19	18	P16	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:6.4	3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗葉根7.5YR7/2 内：灰7.5YR6/2	外：ナデ、ナデ 内：(ナデ)、ナデ 外：表面斜削
30	20	20	M14	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:10.0	3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗葉根7.5YR7/2 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ
30	21	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(9.7)	5mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR7/1 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ミガキ、ナデ、 内：ミガキ、ナデ 底部磨滅著しい
30	22	18	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(9.0)	4mm以下の89 粒を多く含む	外：浅葉根7.5YR8/3 内：浅葉根7.5YR8/3	外：ナデ、ユビナ 内：ナデ、ナデ
30	23	20	M14	3-4層 生物土器	甕・壺	I-3様式	底径:6.5	3mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR6/4 内：灰2.5YR6/4	外：ナデ、ナデ
30	24	20	P16	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:6.0	2mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR7/2 内：ヨコカド	外：ナデ、ナデ
30	25	20	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:9.0	3mm以下の89 粒を多く含む	外：暗2.5YR7/1 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ、 内：ナデ、ナデ 底部磨滅
30	26	20	K13	3-4層 生物土器	甕	I-3様式	底径:(9.2)	4mm以下の89 粒を多く含む	外：にじいろ7.5YR7/3 内：にじいろ7.5YR7/3	外：ナデ、ナデ

31	1	21	N15	3~4層	弥生土器	窓	H様式	口径：(24.6)	4mm以下の細 縫を少し含む	外：ヨコナギ、キヤ 内：明治縫5/9/8 内：明治縫5/9/8
31	2	21	O17	3~4層	弥生土器	窓	H様式	口径：(17.6)	4mm以下の細 縫を多く含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/6 内：にじ・黄 7.5/9/7/6
31	3	21	J11	8~9層	弥生土器	広口窓	H様式		2mm以下の細 縫を多く含む	外：ハサ、斜め文、 波状文 内：カケ縫テク、ケズリ 内：ヨコナギ、三ツ手
31	4	21	L13	~	弥生土器	広口窓	H-I-1様式		2mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 5/9/8/4 内：にじ・黄 10/9/6/4 内：瀬戸縫 10/9/6/4
31	5	21	N14	3~4層	弥生土器	広口窓	H様式	口径：(24.0)	1mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/8/1 内：波状 7.5/9/8/2
31	6	21	N14	3~4層	弥生土器	窓	H-I-1様式	口径：(11.6)	2mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/3 内：にじ・黄 7.5/9/7/3
31	7	21	J12	3~4層	弥生土器	広口窓	H-I-2様式	口径：(16.0)	4mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/4 内：にじ・黄 7.5/9/7/4
31	8	21	P17	3~4層	弥生土器	広口窓	H-I-1様式	口径：(25.0)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：瀬戸縫 5/9/4/1 内：にじ・黄 7.5/9/7/4
31	9	21	P19	3~4層	弥生土器	長縫窓	H-I-1様式	口径：(20.0)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：波状 7.5/9/5/2 内：波状 7.5/9/5/2
31	10	21	N14	3~4層	弥生土器	窓	H-I-1様式	口径：(38.0)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：波状 7.5/9/8/1 内：波状 10/9/8/1
31	11	21	N16	3~4層	弥生土器	窓	H-I-1様式	口径：(26.0)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：瀬戸縫 10/9/8/1 内：瀬戸縫 10/9/8/1
31	12	21	K12	3~4層	弥生土器	窓	H-I-1様式	口径：(14.4)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/4 内：瀬戸縫 7.5/9/8/4
31	13	21	L14	3~4層	弥生土器	糸	H-I-1様式	口径：(9.5)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/8/1 内：波状 10/9/8/1
31	14	21	K12	3~4層	弥生土器	窓	H-I-2様式	口径：(30.0)	3mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/8/1 内：波状 7.5/9/8/2
31	15	21	L14	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(16.8)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/2 内：波状 10/9/8/2
31	16	21	K12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(23.3)	2.5mm以下の細 縫を多く含む	外：瀬戸縫 7.5/9/8/3 内：瀬戸縫 7.5/9/8/3
31	17	21	K12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(21.7)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/8/2 内：波状 7.5/9/8/2
31	18	22	K12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(24.0)	3mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 10/9/7/3 内：にじ・黄 10/9/7/3
31	19	22	K12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(16.0)	2mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 10/9/7/3 内：波状 10/9/7/3
31	20	22	K12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(16.0)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/8/2 内：波状 7.5/9/8/2
31	21	22	P19	3~4層	弥生土器	窓	V-I-1様式	口径：(17.6)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：瀬戸縫 5/9/8/3 内：瀬戸縫 5/9/8/3
31	22	22	L13	3~4層	弥生土器	窓	V-I-2様式	口径：(16.9)	1.5mm以下の 細縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：にじ・黄 10/9/7/2
31	23	22	K13	3~4層	弥生土器	窓	V様式		3mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
31	24	22	J12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-3様式	口径：(27.0)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
31	25	22	J12	3~4層	弥生土器	窓	V-I-3様式	口径：(20.0)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：にじ・黄 10/9/7/3 内：にじ・黄 10/9/7/3
31	26	22	P20 Q20	3~4層	弥生土器	窓	V-I-3様式	口径：(14.0)	1mm以下の 細縫を少し含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：にじ・黄 10/9/7/2
31	27	20	K12	3~4層	弥生土器	窓	—	口径：(20.5)	3mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
32	1	22	P19	3~4層	弥生土器	窓	V-I-3様式	口径：(31.0)	1mm以下の細 縫を少し含む	外：にじ・黄 10/9/7/3 内：明治縫5/9/5/9
32	2	22	N19	—	弥生土器	窓	V-I-3様式	口径：(25.6)	2mm以下の細 縫を少し含む	外：瀬戸縫 10/9/8/3 内：にじ・黄 10/9/7/3
32	3	23	K12	3~4層	土師器	窓	口径：(27.7)	1mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ	
33	1	23	K12	3~4層	土師器	窓(透)		1mm以下の細 縫を多く含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/4 内：にじ・黄 7.5/9/7/4	
33	2	23	J10 J11	3~4層	土師器	窓(透)		1mm以下の細 縫を多く含む	外：にじ・黄 7.5/9/7/4 内：にじ・黄 7.5/9/7/4	
33	3	24	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~2式	口径：(15.25)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	4	23	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~2式	口径：(20.2)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	5	23	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~3式	口径：(11.4)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	6	23	K12	3~4層	土師器	窓	中束1~4式	口径：(12.0)	1.5mm以下の 細縫を多く含む	外：にじ・黄 10/9/7/3 内：波状 10/9/7/3
33	7	23	K12	3~4層	土師器	窓	中束1~4式	口径：(14.4)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：波状 7.5/9/6/6 内：波状 7.5/9/6/6
33	8	24	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~3式	口径：(15.5)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	9	23	K12	3~4層	土師器	窓	中束1~4式	口径：(16.9)	3mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	10	24	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~3式	口径：(16.8)	2mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ナガ、ケズリ
33	11	24	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~3式	口径：(18.0)	1mm以下の細 縫を多く含む	外：ナガ、ケズリ
33	12	25	K12	3~4層	土師器	窓	大束1~3式	口径：(14.6)	1mm以下の細 縫を多く含む	外：ヨコナギ、四瓣文 内：ヨコナギ、ケズリ

33	13	23	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(14.0)	3mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
33	14	23	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(16.0)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ、ナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
33	15	24	K12	3-4層	土師器	窓	小窓 1～4	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
33	16	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(16.0)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
33	17	24	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(20.0)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ハク、ヨナナデ、ケズリ	
33	18	24	L14	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(17.3)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ハク、ヨナナデ、ケズリ	
33	19	24	L14	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式	2.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ハク、ヨナナデ、ケズリ	
33	20	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(19.8)	4mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ、ナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
33	21	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(20.0)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ、ハケ 内：ヨナナデ、ケズリ	
34	1	27	L14	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(12.4)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ハケ 内：ハク、ヨナナデ、ミガキ	
34	2	27	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(15.15)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ、ハケ 内：ヨナナデ、ケズリ	
34	3	27	M14	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(14.6)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ケズリ 内：ナデ、ハケ	
34	4	25	J12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(17.0)	1.2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：田代ナデ 内：ハク、ヨナナデ、ケズリ、ナデ	
34	5	27	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(14.5)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ケズリ、ハケ 内：田代ナデあり 外：「田代」ナデ、ナデ タヂツアリ	
34	6	24	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(20.1)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ハク、ヨナナデ	
34	7	27	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：15.4	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ケズリ、ハケ 内：ハク、ヨナナデ	
34	8	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(17.35)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：一ノケヅリ、ハク、ナデ 内：ケズリ、ハク 壁面調査用のミガキ不規則	
34	9	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式口徑：(16.7)	3mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：ケズリ、ハク	
34	10	25	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：9.0	1.5mm 山下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：「窓枠」ナデ 内：ハク、ヨナナデ	
34	11	26	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：(10.3)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：（壁部）ナデ	
34	12	26	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：10.65	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：（壁部）ナデ	
34	13	26	L14	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：(10.3)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ハケ 内：ナデ、ハケ 細部外面はタハケ後 に3条程度のナデ	
34	14	26	M14	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：9.4	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ケズリ 外表面減滅しい	
34	15	26	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：(9.8)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ナデ 内：指さえ、ケズリ 杏森あり	
34	16	26	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～2式道徑：9.3	2.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：（壁部のみ）ミガキ 内：ハク、ケズリ	
34	17	26	K12	3-4層	土師器	低窓	大葉1～3式口徑：(10.0)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、指さえ、ナデ 内：ナデ	
34	18	26	J+K11	3-4層	土師器	低窓	大葉1～3式口徑：10.4	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ナデ 内：ナデ	
34	19	28	O16	3-4層	土師器	低窓	大葉1～3式道徑：7.8	1mm 以下の砂粒を多く含む 程を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：指さえ 内：三ガホカ?	難燃しい
34	20	28	K12	3-4層	土師器	小窓	大葉3～4式口徑：(11.6)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ 内：ナデ	
34	21	28	L14	3-4層	土師器	小窓	大葉3～4式口徑：(9.6)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ 内：ヨナナデ、ケズリ	
34	22	28	K12	3-4層	土師器	小窓	大葉3～4式口徑：10.35	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク、ヨナナデ 内：（壁部）ケズリ	
34	23	28	K12	3-4層	土師器	小窓	大葉1～2式口徑：11.4	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ハク 内：ハク、指さえ、ケズリ	
34	24	28	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(6.2)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ケズリ、ハク 内：（壁部のみ）ナデ ミニチュア土器	
34	25	28	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ハケ 内：ナデ ミニチュア土器	
34	26	24	L14	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(8.5)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ 内：ナデ ミニチュア土器	
34	27	28	P19	3-4層	土師器	小窓	大葉1～3式口徑：9.4	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ 内：ナデ ミニチュア土器	
34	28	27	K12	3-4層	土師器	小窓	大葉3～4式口徑：(8.4)	2mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ヨナナデ 内：ヨナナデ、ミガキ	
34	29	27	L13	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(4.7)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：（壁部）ヨナナデ 内：（壁部）ヨナナデ→ナデ	
34	30	27	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(6.0)	1.5mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ 内：ナデ ミニチュア土器	
34	31	24	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(10.4)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ケズリ 内：（壁部）ヨナナデ、ハケ 内：ハク、指さえ	
34	32	27	K12	3-4層	土師器	窓	大葉1～3式口徑：(12.2)	1mm 以下の砂粒を多く含む 外：窓 75YR7/6 内：窓 75YR7/6	外：ナデ、ケズリ 内：（壁部）ヨナナデ、ハケ 内：ハク、指さえ	

34	33	27	K12	3~4層	土耕器	坪	大葉1~3式口徑：(86)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：根7.5YR6/8 内：根7.5YR6/8	外：ナチュラル、ハイ （口縁のみ）ヨコナデ 内：ナチュラル （口縁のみ）ヨコナデ
34	34	24	K12	3~4層	土耕器	坪	大葉1~3式口徑：(14.8)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：根7.5YR7/4 内：根7.5YR7/4	外：ナチュラル 内：ナチュラル
34	35	24	K12	3~4層	土耕器	坪	大葉1~3式口徑：(12.3)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：根7.5YR7/6 内：根7.5YR7/6	外：ナチュラル 内：ナチュラル
34	36	27	M14	3~4層	土耕器	坪	大葉1~3式口徑：(13.0)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：根7.5YR6/3 内：根7.5YR6/3	外：ナチュラル 内：ナチュラル
35	1	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	—	0.5mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、ソリエスタイル 内：田舎ナチュラル、不定方向 カッティング
35	2	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(14.4)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル、不定方向 カッティング
35	3	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	—	1mm以下の砂 粒を少し含む 内：底2.5YR6/2 砂粒を少し含む 内：底2.5YR6/2	外：不明 内：田舎ナチュラル、ナチュラル
35	4	29	O15	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(16.6)	1mm以下の砂 粒を少し含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を少し含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、ナチュラル 内：田舎ナチュラル、ナチュラル
35	5	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(12.8)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR7/2 砂粒を多く含む 内：底2.5YR7/2	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル 宝瓶状つまみ ナチュラル
35	6	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	—	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR7/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR7/1	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル、不定方向 カッティング
35	7	29	P16	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(13.4)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR7/2 砂粒を多く含む 内：底2.5YR7/2	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル、不定方向 カッティング
35	8	29	N15	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(18.0)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル 内：田舎ナチュラル
35	9	29	P16	3~4層	浪漁器	坪	GHE：(9.5)	0.5mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：ヨコナデ 内：田舎ナチュラル
35	10	29	K12	3~4層	浪漁器	坪	—	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ヘタズリ 内：田舎ナチュラル
35	11	29	P16	3~4層	浪漁器	坪	GHE：(11.2)	0.5mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル
35	12	29	K12	3~4層	浪漁器	坪	最大径：14.4	—	外：区段6/1 内：底2.5YR6/1
35	13	29	L13	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(13.0)	0.5mm以下の砂 粒を少しあわせ 内：青SPS5/1 砂粒を少しあわせ 内：青SPS5/1	外：田舎ナチュラル、田舎ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル
35	14	29	L13	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(14.5)	0.5mm以下の砂 粒を少しあわせ 内：底2.5YR7/2 砂粒を少しあわせ 内：底2.5YR7/2	外：田舎ナチュラル、ヘタズリ 内：ヘタズリの文様 内：田舎ナチュラル
35	15	29	P16	3~4層	浪漁器	高台付坪	—	1mm以下の砂 粒を少しあわせ 内：底2.5YR6/1 砂粒を少しあわせ 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、高台ヘラ カッティング 内：田舎ナチュラル
35	16	29	P16	3~4層	浪漁器	高台付坪	道程：(9.9)	—	外：底白10YR8/2 内：底白10YR8/2
35	17	31	P16	3~4層	浪漁器	高台付坪	GHE：(13.8) 道程：10.4	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、ヘア切り 貼付け高台、ヨコナデ 内：田舎ナチュラル
35	18	29	K13	3~4層	浪漁器	高台付坪	道程：(11.9)	1.5mm以下の砂 粒を少しあわせ 内：底2.5YR6/1 砂粒を少しあわせ 内：底2.5YR6/1	外：田舎ユビコロ 内：田舎ユビコロ
35	19	30	K13	3~4層	浪漁器	高台付坪	道程：9.8	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ユビコロ 内：田舎ユビコロ
35	20	30	O15	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(14.0) 道程：9.6	5mmの砂粒 内：底2.5YR7/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR7/1	外：田舎ナチュラル、回転系切 一寸金目 内：田舎ナチュラル
35	21	30	O16	3~4層	浪漁器	坪	GHE：(10.0) 道程：6.4	—	外：底2.5YR6/1 内：底2.5YR6/1
35	22	30	O15	3~4層	浪漁器	高台付坪	GHE：(12.0) 道程：8.6	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、ナチュラル 内：田舎ナチュラル
35	23	30	K15	3~4層	浪漁器	坪	GHE：(12.2) 道程：5.4	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、田舎ヘタズリ 内：田舎ナチュラル
35	24	30	L14	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(12.5) 道程：10.9	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/2 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/2	外：田舎ユビコロ、 田舎ヘタズリ 内：田舎ユビコロ 内面：裏張が多くある。
35	25	30	K13	3~4層	浪漁器	坪	国際編第4 模式	5mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル 内：田舎ナチュラル 内：田舎ユビコロ 内：田舎ユビコロ
35	26	31	K13	3~4層	浪漁器	長銀唐	—	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、施脂 内：田舎ナチュラル
35	27	30	O15	3~4層	浪漁器	長銀唐	最大径：(11.6)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：ヨコナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヨコナデ
35	28	31	O15	3~4層	浪漁器	長銀唐	道程：(9.6)	—	外：田舎ナチュラル 内：田舎ナチュラル
35	29	31	P16	3~4層	浪漁器	長銀唐	道程：(9.6)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR7/2 砂粒を少しあわせ 内：底2.5YR7/2	外：田舎ナチュラル、ヘア切り カキ目 内：田舎ナチュラル 下部は一部不定方向 カッティング
35	30	30	P16	3~4層	浪漁器	広口唐	GHE：(27.0)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR7/2 砂粒を少しあわせ 内：底2.5YR7/2	外：田舎ナチュラル、タキキ 内：田舎ナチュラル
35	31	30	O15	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(20.0)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：田舎ナチュラル、タキキ 内：田舎ナチュラル
35	32	30	P15	3~4層	浪漁器	大型容器	GHE：(6.0)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：ナチュラル 内：施脂
35	33	30	K11	3~4層	浪漁器	裏	GHE：(4.6)	2mm以下の砂 粒を多く含む 内：オーバーカット7.5YR3 砂粒を多く含む 内：オーバーカット7.5YR3	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
35	34	30	C14	3~4層	浪漁器	不明	—	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR6/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR6/1	外：ナチュラル 内：手部分
36	1	30	O15	3~4層	浪漁器	高坪	GHE：(17.0)	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR2/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR2/1	外：田舎ナチュラル 内：田舎ナチュラル
36	2	30	P16	3~4層	浪漁器	高坪	—	1mm以下の砂 粒を多く含む 内：底2.5YR5/1 砂粒を多く含む 内：底2.5YR5/1	外：田舎ナチュラル 内：田舎ナチュラル

36	3	10	O15	3-4層	漆面鏡	高坪		1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 N6/ 内：灰 N6/	外：田中ナデ、カヌ日 比、透さし九 内：田中ナデ、しほり鹿
36	4	30	P16	3-4層	漆面鏡	高坪	口徑 : (15.8)	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：灰 2.5VR6/2 内：灰 2.5VR6/2	外：田中ナデ、不定方向 のナデ
36	5	31	P16	3-4層	漆面鏡	高坪	口徑 : 12.5	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：灰 2.5VR6/2 内：灰 2.5VR6/2	使用時に歪みが生じて いる
36	6	30	O15	3-4層	漆面鏡	高坪		1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：灰 2.5VR6/1 内：灰 2.5VR6/1	外：田中ナデ 内：田中ナデ、しほり鹿
36	7	30	O15	3-4層	漆面鏡	高坪		1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 3YR6/1 内：灰 2.5VR6/1	外：田中ナデ、田中ヒラ ケズリ、透さし九
37	1	32	O14	3-4層	土師器	坪	口徑 : (11.8)	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：灰 2.5VR6/6 内：灰 2.5VR6/6	外：田中ナデ、ミガキ糊 内：田中ナデ、ミガキ
37	2	32	O15	3-4層	土師器	壺	口徑 : (21.4)	2mm 以下下凹 粒を多く含む 外：にじい壺 7.5VR6/4 内：にじい壺 7.5VR6/4	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ケズリ
37	3	32	O16	3-4層	土師器	壺	口徑 : (21.0)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/6 内：灰 2.5VR6/6	外：ハケ、ナデ 内：ナデ、ケズリ
37	4	32	L13	3-4層	土師器	壺	口徑 : (24.4)	5mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/6 内：灰 2.5VR6/6	外：ハケ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ケズリ
37	5	32	O15	3-4層	土師器	壺	口徑 : (25.0)	2mm 以下下凹 粒を少し含む 外：灰 2.5VR6/8 内：灰 2.5VR6/8	外：ヨコナデ、ケズリ
37	6	32	N15	—	土師器	壺	口徑 : 19.5	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：にじい壺 5YR6/4 内：にじい壺 5YR6/4	外：ケズリ(後)コナデ、ナデ 内：ナデ、ケズリ
37	7	31	P16	3-4層	土師器	壺	直徑 : (18.0)	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：透黄漆 7.5VR6/4 内：透黄漆 7.5VR6/4	外：ナデ 内：ナデ
37	8	32	O15	3-4層	土師器	壺	口徑 : 22.0	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 5YR6/6 内：透黄漆 5YR6/6	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、テナ、ケズリ
37	9	31	O15	3-4層	土製品	土製支撐	長さ : 12.0 高さ : (12.0)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/2 内：ナデ	外：ケズリ、指標痕
37	10	31	J13	3-4層	土師質土器	盆	口徑 : 8.1 直徑 : 4.5	1mm 以下下凹 粒を少し含む 外：透黄漆 5YR6/4 内：透黄漆 5YR6/4	外：田中ナデ、田和布切痕 内：ナデ
37	11	31	O15	3-4層	土師質土器	灯明皿	直徑 : 5.6	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/1 内：灰 2.5VR6/1	外：田中ナデ、田和布切痕 内：田中ナデ
37	12	31	L16	3-4層	土師質土器	高台付耳皿	直徑 : (5.8)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 7.5VR6/3 内：透黄漆 7.5VR6/3	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ 貼り印7.5cm 内：ヨコナデ、ナデ
38	1	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (45.3cm 幅 : 1.9cm 厚さ : 1.9cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/2 内：ナデ	外：にじい(後) 10YR6/4 外側：ナデ
38	2	33	L15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (45.3cm 幅 : 1.5cm 厚さ : 0.9cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/2 内：ナデ	外：明治漆 2.5VR5/6
38	3	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (52.1cm 幅 : 1.4cm 厚さ : 1.5cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：灰 2.5VR6/2 内：ナデ	外：にじい(後) 10YR6/3 外側：ナデ
38	4	33	O15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (56.1cm 幅 : 1.6cm 厚さ : 1.5cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/4 内：ナデ	外：にじい(後) 10YR6/4 外側：ナデ
38	5	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (58.3cm 幅 : 2.0cm 厚さ : 1.2cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/3 内：ナデ	外：明治漆 10YR6/3 外側：ナデ
38	6	33	K12	3-4層	土製品	土雞	長さ : (58.3cm 幅 : 1.7cm 厚さ : 1.6cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/4 内：ナデ	外：にじい(後) 10YR6/4 外側：ナデ
38	7	33	P15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (55.1cm 幅 : 1.4cm 厚さ : 1.5cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/3 内：ナデ	外：透黄漆 10YR6/3 外側：ナデ
38	8	33	K15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (44.1cm 幅 : 1.3cm 厚さ : 1.4cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/4 内：ナデ	外：透黄漆 10YR6/4 外側：ナデ
38	9	33	K15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (52.3cm 幅 : 1.3cm 厚さ : 1.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/3 内：ナデ	外：透黄漆 10YR6/6 外側：ナデ
38	10	33	L15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (56.0cm 幅 : 1.4cm 厚さ : 1.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 10YR6/3 内：ナデ	外：透黄漆 10YR6/3 外側：ナデ
38	11	33	K15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (56.1cm 幅 : 2.6cm 厚さ : 2.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/3 内：ナデ	外：透黄漆 2.5VR6/3 外側：ナデ
38	12	33	O15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (56.0cm 幅 : 2.2cm 厚さ : 2.5cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/4 外側：ナデ
38	13	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (42.0cm 幅 : 2.3cm 厚さ : 1.6cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/4 外側：ナデ
38	14	33	P16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (41.0cm 幅 : 1.8cm 厚さ : 0.9cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/3 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/3 外側：ナデ
38	15	33	K15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (40.0cm 幅 : 1.7cm 厚さ : 1.5cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/4 外側：ナデ
38	16	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (43.0cm 幅 : 1.5cm 厚さ : 1.1cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/6 内：ナデ	外：透黄漆 2.5VR6/6 外側：ナデ
38	17	33	N15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (42.0cm 幅 : 1.3cm 厚さ : 1.2cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/6 内：ナデ	外：にじい(後) 10YR6/2 外側：ナデ
38	18	33	P15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (42.0cm 幅 : 1.4cm 厚さ : 1.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/3 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/3 外側：ナデ
38	19	33	K14	3-4層	土製品	土雞	長さ : (42.0cm 幅 : 1.2cm 厚さ : 1.2cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/4 外側：ナデ
38	20	33	K12	3-4層	土製品	匂玉	長さ : (39cm 幅 : 0.9cm 厚さ : 0.7cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/2 外側：ナデ
38	21	33	P15	3-4層	土製品	土雞	長さ : (38.2cm 幅 : 3.3cm 厚さ : 2.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/3 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/3 外側：ナデ
38	22	33	P15	—	土製品	土雞	長さ : (38.2cm 幅 : 3.5cm 厚さ : 2.0cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/4 内：ナデ	外：にじい壺 7.5VR6/4 外側：ナデ
38	23	33	L16	3-4層	土製品	土雞	長さ : (39cm 幅 : 4.2cm 厚さ : 3.95cm)	1mm 以下下凹 粒を多く含む 外：透黄漆 2.5VR6/3 内：ナデ	外：透黄漆 2.5VR6/3 外側：ナデ

第6表 遺物觀察表(中・近世陶器)

博物館番号	遺物番号	実質	Gr	層位	種別	器種	分類	法線(内)幅 元幅(cm)	胎土	施華	文様・調整その物	備考
39	1	34	M15		磁器	白磁器	大型の白磁 碗(内縁有り類)		白色	透明釉	福建閩清窯	11c 後半～12c 前半
39	2	34	J10 K11		磁器	白磁器	大型の白磁 碗(内縁有り類)		灰白色	透明釉	福建閩清窯	11c 後半～12c 前半
39	3	34	O15		磁器	白磁器 (洗形)	大型の白磁 碗(外縁有り類)		灰白色	透明釉	福建閩清窯	11c 後半～12c 前半
39	4	34	I12		磁器	白磁器	大型の白磁 碗V-4型	口径:(13.0)	白色	透明釉	缠枝花卉文、團綠、 刻花、福建閩清窯	12世紀中頃～後半
39	5	34	J14		磁器	白磁器 (洗形)	大型の白磁碗 X系-1b	口径:(14.2)	灰白色	透明釉	花卉文、刻花文、福建閩清 窯	11c 第4回～12c 第 1四半
39	6	34	K12		磁器	白磁器 (針絞)		口径:(22.4)	白色	透明釉	福建閩清窯	11c 後半～12c 前半
39	7	34	M15		磁器	白磁器 (玉緑)	大型の白磁 碗(外縁有り類)		灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	8	34	L3G		磁器	白磁器	大型の白磁 碗(外縁有り類)		白～薄褐色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	9	34	L13		磁器	白磁器	大型の白磁 碗(外縁有り類)	底径:(6.2)	灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	10	34	L13		磁器	白磁器	大型の白磁 碗(外縁有り類)	底径:(6.0)	灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	11	34	J14		磁器	白磁器	大型の白磁碗 X系-1a		灰色	透明釉	笠押織紋、広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	12	34	J10 K11		磁器	白磁器	大型の白磁碗 X系-1b	口径:(25.2)	灰白色	透明釉	缠枝花卉文、広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	13	34	H11		磁器	白磁器	大型の白磁碗 X系-1b	口径:(25.6)	灰白色	透明釉	缠枝花卉文、広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	14	34	K11		磁器	白磁器	大型の白磁碗 X系-1b	口径:(6.8)	灰白色	透明釉	缠枝花卉文、広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	15	34	K11		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型		灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 第1四半
39	16	34	I12		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型		白色	透明釉	缠枝花卉文、刻花文、広東瀋 州窯	11c 後半～12c 第1四半
39	17	34	M17		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型		白色	透明釉	缠枝花卉文、刻花文、広東瀋 州窯	11c 後半～12c 第1四半
39	18	34	L14		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型	底径:(3.2)	灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	19	34	O16		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型	底径:(3.4)	灰白色	透明釉	広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	20	34	K13		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型	底径:(3.8)	白色	透明釉	团刻文、被雲紋、広東瀋州 窯	11c 第4回～12c 第 1四半
39	21	34	K12		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V-Ja型	底径:(3.8)	白色	透明釉	团刻文、堆織、綠彩、広東 瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	22	34	I12		磁器	白磁器	大型の白磁碗 V型	底径:(4.4)	白色	透明釉	花文、刻花文、広東瀋州窯	11c 第3回～12c 第 1四半
39	23	34	K12		磁器	白磁水注			白色	透明釉	團綠、沈綠、広東瀋州窯	11c 後半～12c 前半
39	24	34			磁器	白磁水注			白色	透明釉	瓶綠、沈綠、広東瀋州窯、 39-23と同一固体体	11c 後半～12c 前半
39	25	34	N14		磁器	白磁器	森田O群	底径:(3.6)	白色	透明釉	福建邵武窯	14c 後半～15c 中頃
39	26	34	M15		磁器	白磁器	森田O群	底径:(4.0)	薄褐色	透明釉	福建邵武窯	14c 後半～15c 中頃
39	27	34	N17 N18		磁器	白磁器	森田O群	底径:(3.8)	乳白色	透明釉	福建邵武窯	14c 後半～15c 中頃
39	28	34	M16		磁器	白磁器 (碗)	森田O群(外縁 口)	口径:(12.5) 底径:(7.2)	白色	透明釉	江西景德鎮窯	16c 代中葉～後半
39	29	34	O17		磁器	白磁器 (碗)	森田O群(外縁 口)	口径:(14.0) (黑色粒子を含 む)	透明釉	江西景德鎮窯	16c 代中葉～後半	
39	30	34	O15		磁器	白磁器 (碗)	E-2b-3群	底径:(8.2)	白色	透明釉	江西景德鎮窯	16c 代中葉～後半
40	1	34	Q17		磁器	青磁器	大型の青磁 碗(内縁有り類)		灰色	青磁釉	標点波文、被絞、團綠、刻花、 福建刈安窯	12c 第4回～13c 第 1四半
40	2	34	L14		磁器	青磁器	大型の青磁 碗(内縁有り類)	底径:4.4	灰色	青磁釉	転用カ、福建刈安窯	12c 中～後半
40	3	34	L14		磁器	青磁器	大型の青磁 碗(内縁有り類)	口径:(9.4)	灰色	青磁釉	團綠、沈綠、浙江臨泉窯	12c 中～後半
40	4	34	L13		磁器	青磁器	大型の青磁 碗(内縁有り類)	底径:(5.7)	薄灰色	青磁釉	缠枝文、臨泉窯	13c 前半～前半
40	5	34	L14		磁器	青磁器	大型の青磁 碗(内縁有り類)		灰白色	青磁釉	缠枝文、臨泉窯	13c 前半～前半
40	6	34	O15		磁器	青磁器 (丸)	大型の青磁 碗(内縁有り類)		白色	青磁釉(青白)	缠枝文、臨泉窯	13c 中頃～14c 初頭前 半

40	7	34	N14	暗青	青磁罐	上田 D-I 帧	底径：(5.4)	灰白	青磁釉	印文、浙江越窑系	14c 中期
40	8	34	O18	暗青	青磁罐	上田 D-I 帧	底径：(6.8)	灰白	青磁釉	浙江越窑系	14c 中期
40	9	34	Q17	暗青	青磁罐	上田 D-II 帧	口径：(18.0)	灰白色	青磁釉	浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	10	34	O15	暗青	青磁罐	上田 D-II 帧	口径：(15.4)	灰白	青磁釉	浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	11	34	O17	暗青	青磁罐 (珠绿)	上田 D-II 帧	口径：(17.8)	灰白	青磁釉	浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	12	34		暗青	青磁罐	上田 C-II 帧		白色	青磁釉	印文、印划文、印花文、浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	13	34		暗青	青磁罐	上田 C-II 帧		薄褐色	青磁釉	印划文、印花文、米色青磁、浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	14	34	J13	暗青	青磁罐	上田 C-II 帧		灰白	青磁釉	印文、横划文样、浙江越窑系	14c 后半~15c 初期前半
40	15	34	O15	暗青	青磁罐	上田 B-II 帧	底径：(5.6)	灰白色	青磁釉	印划文、刻划文、浙江越窑系	15c 中期
40	16	34	P15	暗青	青磁罐	上田 B-IV 帧	底径：(7.6)	灰白色	青磁釉	印划文、浙江越窑系	15c 后半~16c 前半
40	17	34	J13	暗青	青磁罐	上田 B-II 帧	口径：(4.5)	灰白	青磁釉	浙江越窑系	15c 后半~16c 前半
40	18	34	O18	暗青	青磁罐	上田 B-IV 帧	口径：(14.0)	灰白	青磁釉	莲瓣文、蝶形、浙江越窑系	15c 后半~16c 前半
40	19	34	M14 M15 村店	暗青	青磁罐 (珠绿)	大窑的窑洞口 IV 帧	口径：(19.8)	深灰色	青磁釉	莲瓣文、蝶、浙江越窑系	14c 中期~后半
40	20	34	N18	暗青	青磁罐 (珠绿)			灰白色	青磁釉	印花、米黄色、浙江越窑系	15c
40	21	34	I3	青磁盘 (直)				灰色	青磁釉	浙江越窑系	宋代
40	22	34	M14	暗青盘			口径：(7.8)	灰白	青磁釉	浙江越窑系	宋代
41	1	35	J12	青花瓷	小野 E 群			白色 黑色粒子有 点状	透明釉、 青料	江西景德镇窑	14c 后半
41	2	35	O15	青花瓷	小野 E 群	底径：(6.0)	白色	透明釉、 青料	同上、江西景德镇窑	14c 后半	
41	3	35	N14	青花瓷 (施灰)	小野昌 B1 群	口径：(13.8)	白色	透明釉、 青料	划花草文、江西景德镇窑	15c 后半~16c 前半	
41	4	35	N15	青花瓷 (施灰)	小野昌 B1 群		白色	透明釉、 青料	五彩狮子、江西景德镇窑	15c 后半~16c 前半	
41	5	35	N15	青花瓷 (施灰)	小野昌 C 群	口径：(12.8)	白色	透明釉、 青料	划花文、江西景德镇窑	15c 后半~16c 前半	
41	6	35	O15	青花瓷 (暴灰)	小野昌 C 群	底径：(2.8)	灰白色	透明釉、 青料	芭蕉文、江西景德镇窑	15c 后半~16c 前半	
41	7	35	M14	青花瓷	小野昌 E 群	口径：(10.6)	白色	透明釉、 青料	同上、江西景德镇窑	14c 后半~17c 初期	
41	8	35	M15	青花瓷	小野昌 E 群	底径：(7.6)	白色	透明釉、 青料	江西景德镇窑、碗文	14c 后半~17c 初期	
41	9	35	N14	青花杯		口径：(3.0)	白色	透明釉、 青料	江西景德镇窑		
41	10	35	K11 K12	青花盘		口径：(13.4)	灰白色	透明釉、 青料	芭蕉文、福建漳州窑	14c 后半~17c 初期	
41	11	35	M15	青釉	黑褐釉罐	森本 IV-V 帧	灰色 黑色(黑色粒子 多)	黑褐釉	黑斑、福建	14c 后半~15c	
41	12	35	N14	青釉	黑褐釉罐	森本 IV-V 帧	灰色 黑色(黑色粒子 多)	黑褐釉	黑斑、福建	14c 后半~15c	
41	13	35	K13	青釉	黑褐釉罐	森本 IV 帧	口径：(12.1) 高度：(6.4) 底径：(4.7)	灰色	黑褐釉 黑褐釉	二重堆积、福建茶洋窑	14c 后半~15c 初期
41	14	35	K14	青釉	黑褐釉罐		口径：(11.0)	灰褐色(黑色粒 子含)	黑褐釉	花文、印花文、广德舒石窟	12c 前半
41	15	35	O17	青釉	灰青釉		口径：(15.0)	灰白	灰青釉	淮南道燕川窟	14c 后半~16c 前半
41	16	35	L13	青釉	灰青釉			灰白	白化粗土、灰釉	折沿目、淮南道燕川窟	14c 后半~16c 前半
41	17	35	L13	青釉	灰青釉		底径：(3.7)	灰白	董灰釉	淮南道燕川窟	15c 后半~16c 前半
41	18	35	N18	青釉	白釉盘		底径：(4.6)	白色 黑色(黑色 粒子含)	透明釉	青瓷、砂器、淮南道舒州窑	14c 后半
41	19	35	O14	青釉	白釉盘		底径：(6.0)	白色	透明釉	青瓷、砂器、淮南道舒州窑	14c 后半
41	20	36	N18	青釉	白釉盘		底径：(9.4)	白色~薄褐色	透明釉	青瓷	14c 后半
42	1	35	M14	青釉	灰釉盘	吉萨卢 B-V	口径：(11.2)	深褐色	灰釉	印文、印花文、碟、湖南·先秦	15c 第 2 四至中期
42	2	35	L16	青釉	灰釉盘	大家 2-3 群	底径：(6.2)	深褐色	灰釉	印文、印花文、碟、湖南·先秦	14c 后半

42	3	35	N14	陶器	灰胎面 (好拂)	大束 4 期	口径 : (11.4)	薄灰褐色	灰褐	花卉文、點、撇口・美濃	16c 末～17c 初頃
42	4	36	K12	陶器	鐵鉢	N' A-2	口径 : (30.0)	黃色		6 条单位、側前拂	14c 中葉～15c 中葉
42	5	36	L14	陶器	鐵鉢	N' B-1		灰褐色		9 条单位、側前拂	15c 後葉～後葉
42	6	36	N18 N19	陶器	鐵鉢	N' B-2	口径 : (29.4)	赤褐色		側前拂	15c 中葉～16c 初頃
42	7	36	J14	陶器	鐵鉢	N' B-3		赤褐色		側前拂	15c 後葉～16c 初頃
42	8	36	J14	陶器	鐵鉢	N' B-3		赤褐色		6 条单位、側前拂	15c 後葉～16c 初頃
42	9	36	K14	陶器	鐵鉢	N' B-3		赤褐色		7 条单位、側前拂	15c 後葉～16c 初頃
42	10	36	N14	陶器	青		口径 : (16.0)	薄赤褐色		側前拂	
42	11	36	M15	陶器	青	N' B		薄褐色		側前拂	15c 後半～16c 初頃
43	1	36	P16 O16	瓦器	圓 (鐵反)		口径 : (14.0)	灰白色		乳頭系	12c 代
43	2	36	J12	瓦質土器	鉢 (蓋付)			灰白色			
43	3	36	J10 K11	瓦質土器	鉢		口径 : (31.0)	灰褐色		西長門型、内面刷毛目	14c 後半～15c 前半
43	4	36	O15	瓦質土器	火鉢 (轆引)		口径 : (31.6)	灰色		格子目、箇足リ	
43	5	36	N18 O18	瓦質土器	火鉢 (轆引)		口径 : (28.4)	灰褐色			15c ～
43	6	36	O18	瓦質土器	火鉢 (深鉢形)			灰褐色		唐草文、點付文様	外腹：深付着
43	7	36	O18	瓦質土器	火鉢 (深鉢形)			褐色(砂粒を多 く含む)		唐草文、點付文様	外腹の表面が売れる
43	8	36	P16	磁器	白釉杯	九三・2	底径 : (3.0)	白色	透明釉	楕、肥前系	1610-40 年代
43	9	36	N15	磁器	染付皿	九三・2	口径 : (11.2)	白色	透明釉、直済	唐草文、染付、肥前系	17c 中葉
43	10	36	M14	磁器	染付皿	九三・2	口径 : (14.4)	灰白色	透明釉、直済	山水文、染付、肥前系	1610-40 年代
43	11	36	O15	磁器	染付皿	九三	底径 : (6.0)	白色	透明釉、直済	唐草文、染付、山花瓶型、 肥前系	1650-90 年代
43	12	36	N18	陶器	铁桶皿	九三		茶褐色	铁桶	稻田、肥前系	1610-50 年代
43	13	36	K15	陶器	铁桶皿		口径 : (40.0)	褐色	铁桶	鐵紋染草文、點付文、燒屋 4 号窯指標	17c 前半

第7表 遺物観察表(石器・石製品)

岡田 巣号	遺物 番号	写真 回数	Gr	層位	種別	器種	正面 () 通さ (内側元通) (cm)	重量 (g)	材質	備考
44	1	37	L14	3-4層	石器	石錐	長さ 2.55、幅 1.15、厚さ 0.45	1.4	安山岩	未成品の可能性
44	2	37	L14	3-4層	石器	石錐	長さ 2.8、幅 1.15、厚さ 0.4	1.23	安山岩	
44	3	37	L16	3-4層	石器	石錐	長さ 2.15、幅 1.15、厚さ 0.65	1.05	黒曜石	
44	4	37	O17	3-4層	石器	石錐	長さ 2.0、幅 1.15、厚さ 0.25	0.31	安山岩	凹面無茎錐
44	5	37	P15	3-4層	石器	石錐	長さ 1.7、幅 1.3、厚さ 0.3	0.47	安山岩	若干の凹面無茎錐
44	6	37	P16	3-4層	石器	石錐	長さ 1.65、幅 1.35、厚さ 0.35	0.64	安山岩	平基無茎錐
44	7	37	P16	3-4層	石器	石錐	長さ 1.75、幅 1.8、厚さ 0.3	0.44	安山岩	平基無茎錐
44	8	37	M14	3-4層	石器	石錐	長さ 1.35、幅 1.25、厚さ 0.3	0.37	安山岩	若干の凹面無茎錐
44	9	37	O15	3-4層	石器	楔形石錐	長さ (1.9)、幅 1.8、厚さ 0.6	2.71	黒曜石	
44	10	37	N15	3-4層	石器	楔形石錐	長さ 2.1、幅 1.5、厚さ 0.6	1.8		
44	11	37	M16	3-4層	石器	磨製石錐	長さ 8.0、幅 1.6、厚さ 0.45	6.38	粘板岩か	全面研磨
44	12	37	L14	3-4層	石製品	勾玉	長さ 2.7、幅 1.1、厚さ 0.8	4.29	滑石	片面穿孔
44	13	37	L14	3-4層	石製品	雙玉	長さ 2.7、幅 1.05、厚さ 1.05	4.09	碧玉	片面穿孔
44	14	37	L14	3-4層	石製品	石錐	長さ 2.4、幅 3.35、厚さ 0.7	10.61		
45	1	38	P22	3-4層	石器	打削石錐	長さ 15.7、幅 7.2、厚さ 3.4	326.0	安山岩か	
45	2	37	O17	3-4層	石器	石錐 (2種)	長さ (4.0)、幅 (5.3)、厚さ (0.6)	13.55		刃部に刃こぼれあり
45	3	37	P19	3-4層	石器	石錐 (2種)	長さ (7.2)、幅 (5.4)、厚さ (0.5)	30.2		
45	4	37	L14	3-4層	石器	石錐?	長さ (2.5)、幅 (3.8)、厚さ (0.65)	7.07		
45	5	37	K12	3-4層	石器	石錐	長さ (6.4)、幅 (9.2)、厚さ 1.0	75.6		刃部以外は研磨
45	6	37	O16	3-4層	石器	鋸形片刀	長さ 8.25、幅 2.05、厚さ 0.25	26.75		研磨・使用痕
45	7	37	L14	—	石器	鋸形片刀	長さ 10.8、幅 1.3、厚さ 1.1	82.04		研磨・使用痕
45	8	37	P18	2層	石器	不明	長さ (4.7)、幅 (1.5)、厚さ (0.5)	6.62		未完成品
45	9	37	M14	3-4層	石器	不明	長さ 6.3、幅 4.0、厚さ 0.95	30.6		未完成品
45	10	37	P16	3-4層	石器	不明	長さ (7.3)、幅 (1.9)、厚さ (1.1)	22.35		未完成品
45	11	37	O15	3-4層	石器	不明	長さ (8.0)、幅 (2.6)、厚さ 1.6	39.5		刃部削除
45	12	37	M15	3-4層	石器	不明	長さ 10.05、幅 3.05、厚さ 1.1	60.15		未完成品
45	13	37	P16	3-4層	石器	不明	長さ (11.3)、幅 (3.2)、厚さ 1.4	78.7		未完成品
45	14	37	N15	3-4層	石器	不明	長さ 14.15、幅 2.45、厚さ 1.5	85.9		未完成品
45	15	38	R18	3-4層	石器	小型石錐	長さ 8.3、幅 3.3、厚さ 0.3	134.0		男根状を呈する
45	16	38	M15	3-4層	石製品	不明	長さ 13.8、幅 1.0、厚さ 3.9	630.0	砂岩か	
45	17	38	L18	3-4層	石器	ハンマー式トーナー	長さ (12.3)、幅 6.6、厚さ 4.8	740.0		堆積性片岩か
46	1	38	L14	—	石器	鉢石	長さ (12.5)、幅 6.0、厚さ 4.8	615.0		
46	2	38	N14	3-4層	石器	鉢石	長さ (19.1)、幅 14.0、厚さ 5.8	1200.0		
46	3	38	O15	3-4層	石器	鉢石	長さ (6.2)、幅 (9.1)、厚さ 5.8	344.0		
46	4	38	O18	3-4層	石器	鉢石・前石	長さ (9.4)、幅 8.8、厚さ 4.5	610.0		
46	5	38	L14	3-4層	石器	鉢石・前石	長さ (7.2)、幅 10.4、厚さ 4.5	695.0		
47	1	38	M14	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (8.5)、幅 (5.5)、厚さ (3.9)	240.0	堆積性片岩	1類
47	2	38	O15	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (7.1)、幅 (5.1)、厚さ (3.6)	186.0	堆積性片岩	未完成品 1類
47	3	38	K13	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (5.5)、幅 (4.7)、厚さ (1.9)	67.16	堆積性片岩	1類
47	4	38	N12	2層	石器	磨製石錐	長さ (5.4)、幅 (4.4)、厚さ (1.8)	51.7	堆積性片岩	
47	5	39	P15	3層	石器	磨製石錐	長さ (16.7)、幅 6.45、厚さ (5.5)	905.0	堆積性片岩	未完成品 1a類
47	6	39	M19	3層	石器	磨製石錐	長さ (16.1)、幅 5.1、厚さ (5.05)	995.0	堆積性片岩	未完成品 1類
47	7	39	N15	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (18.0)、幅 4.4、厚さ 3.85	310.0	堆積性片岩	未完成品 1類
47	8	39	L13	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (15.3)、幅 7.4、厚さ 6.0	1130.0	堆積性片岩	未完成品 1b類
47	9	39	Q19	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (16.2)、幅 6.25、厚さ 5.15	640.0	堆積性片岩	未完成品 1b類
47	10	39	L14	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (15.3)、幅 (5.5)、厚さ 3.6	500.0	堆積性片岩	1 b1類
47	11	39	Q15	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (12.6)、幅 4.55、厚さ 4.05	378.0	堆積性片岩	1 b1類
49	1	39	O15	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (13.05)、幅 (5.7)、厚さ (3.45)	378.0	堆積性片岩	II 1類
49	2	39	O15 O16	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (12.65)、幅 5.1、厚さ 3.1	364.0	堆積性片岩	II a1類 方形に研磨なし
49	3	39	P17	3-4層	石器	磨製石錐	長さ 18.3、幅 5.8、厚さ 2.95	494.0	堆積性片岩	未完成品 II a1類 全体的に研磨なし
49	4	39	L14	3-4層	石器	磨製石錐	長さ 16.7、幅 6.4、厚さ 4.35	780.0	堆積性片岩	未完成品 II a1類
49	5	39	L14	3-4層	石器	磨製石錐	長さ 13.25、幅 4.75、厚さ 3.3	354.0	堆積性片岩	II b1類
49	6	39	P16	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (15.2)、幅 5.5、厚さ 2.4	322.0	堆積性片岩	未完成品 II b1類
49	7	39	L14	3-4層	石器	磨製石錐	長さ (14.9)、幅 6.6、厚さ 3.5	615.0	堆積性片岩	II b1類
50	1	40	N16	3-4層	石器	磨製石錐	長さ 19.2、幅 7.3、厚さ 5.4	880.0		未完成品

50	2	40	O16	3-4層	石器	磨製石斧	長さ20.6、幅7.4、厚さ4.7	1070.0		未成品
50	3	40	P16	3-4層	石器	磨製石斧	長さ21.1、幅6.1、厚さ5.5	1015.0		未成品
50	4	40	O16	3-4層	石器	磨製石斧	長さ21.1、幅7.6、厚さ4.7	1080.0		未成品
50	5	40	M14	3-4層	石器	磨製石斧	長さ21.6、幅8.9、厚さ6.4	1420.0		未成品
50	6	40	L14	3-4層	石器	磨製石斧	長さ14.0、幅6.5、厚さ2.55	306.0		未完成品 II b2類
50	7	40	O16	3層	石器	磨製石斧	長さ19.1、幅12.2、厚さ(2.7)	132.0		未完成品 II 1類
51	1	40	O16	3層	石器	磨製石斧	長さ16.2、幅6.5、厚さ3.4	560.0		未完成品 II b1類
51	2	40	M14	3層	石器	磨製石斧	長さ14.9、幅6.3、厚さ3.5	570.0		未完成品 II b1類
51	3	40	L14	3層	石器	磨製石斧	長さ15.6、幅6.5、厚さ4.15	450.0		未完成品 II b1類
51	4	40	O17	3層	石器	磨製石斧	長さ(7.7)、幅3.8、厚さ1.45	67.6		未完成品 II a類
51	5	40	K11	5-6層	石器	打製石斧	長さ2.8、幅5.7、厚さ1.5	85.14		刀部が平たい形の石斧
51	6	40	L13-14	5-6層	石器	打製石斧	長さ11.8、幅6.4、厚さ1.7	198.0		打製石斧と打制石器(直刃)
51	7	40	P16	3層	石器	磨状石斧	長さ(6.8)、幅(4.7)、厚さ(1.0)	56.83		未完成品?
51	8	41	P16	3層	石器	磨状石斧	長さ13.0、幅6.1、厚さ(2.5)	286.0		未完成品 半尖頭石器表面に凹凸した直刃
51	9	41	O15	3層	石器	打製石斧	長さ(20.2)、幅14.0、厚さ5.2	1550.0		大型
52	1	41	R12	河川12	石製品	石器	長さ(41)	231.32		
52	2	41	J14	河川12	石製品	石器	口径36.4、高さ14.95、底径19.8	1987.47		特別に裏面に変色

第8表 遺物観察表(金属製品)

被認 番号	遺物 番号	写真 番号	Gr	層位	種別	名稱	分類	法面(上)遺存 / 内復元幅(cm)	重量(g)	備考
53	1	41	M14, L14	3-4層	鉄製品	鍔か?	柳葉式	長さ(4.0)、幅(1.6)、厚さ0.6	12.78	
53	2	41	O15	3-4層	鉄製品	鍔	柳葉式	長さ(10.2)、幅3.4、厚さ1-	93.25	
53	3	41	K13	3-4層	鉄製品	鍔	丸頭式	長さ(6.6)、幅1.0、厚さ1.0	18.79	
53	4	41	N15	3-4層	鉄製品	火打金		長さ6.7、幅2.8、厚さ0.5	21.95	
53	5	41	-	3-4層	鉄製品	棒状器具		長さ7.1、幅0.5、厚さ0.5	3.6	
53	6	41	-	-	鉄製品	ヤス		長さ(7.5)、幅0.8、厚さ-	9.88	
53	7	41	O15	3-4層	鉄製品	カギ状跡		長さ8.0、幅0.9、厚さ-	21.73	
53	8	41	M14	3-4層	鉄製品	タガか?		長さ(12.0)、幅1.0、厚さ0.8	35.28	
53	9	41	I12	3-4層	鉄製品	釘		長さ(4.3)、幅(3.3)、厚さ(0.7)	10.47	
53	10	41	N14	3-4層	鉄製品	留か?		長さ(6.9)、幅(4.7)、厚さ0.2	32.33	裏面に布付着
53	11	41	K12	3-4層	鉄製品	釘		長さ21.3、幅2.2、厚さ2.0	228	
53	12	41	O15	3-4層	鉄製品	角釘		長さ16.5、幅1.6、厚さ(1.9)	136	
53	13	41	I11	3-4層	鉄製品	棒状器具		長さ12.2、幅1.9 厚さ1.2	97.63	
54	1	42	I12	3-4層	鉄製品	剣刀		長さ18.7、幅1.5、厚さ0.4	49.98	圓刃
54	2	42	O15	3-4層	鉄製品	刀子		長さ(8.5)、幅1.5、厚さ0.4	14.64	
54	3	42	P14	3-4層	鉄製品	刀子		長さ(18.3)、幅2.1、厚さ0.4	58.57	
54	4	42	L15	-	鉄製品	短刀		長さ(6.6)、幅(4.0)、厚さ(2.1)	22.31	逆刃
54	5	42	J14, K14	3-4層	鉄製品	短刀		長さ(20.0)、幅(2.6)、厚さ1.2	150	
54	6	42	I12	3-4層	鉄製品	火薬		長さ(17.8)、幅(0.9)、厚さ(0.7)	37.93	
54	7	42	M14	3-4層	鉄製品	火薬		長さ(25.0)、幅0.6、厚さ0.6	40.71	
54	8	42	O15	3-4層	鉄製品	鍔		長さ(11.6)、幅(3.4)、厚さ(0.3)	63.73	
54	9	42	M15	3-4層	鉄製品	鍔	鎌状鍔	長さ(9.8)、幅5.7、厚さ(3.0)	186	
55	1	42	O17	3-4層	鋼錠	古錠		長さ2.5、幅2.3 厚さ0.6	12.09	4枚重ね
55	2	42	O17	3-4層	鋼錠	古錠		長さ2.3、幅2.4 厚さ0.5	4.39	2枚重ね
55	3	42	O15	3-4層	鋼錠	古錠	開元通宝か?	長さ2.5、幅1.5 厚さ0.1	1.15	
55	4	42	K13	3-4層	鋼錠	古錠	元祐通宝	長さ2.5、幅2.4 厚さ0.1	3.02	
55	5	42	O17	3-4層	鋼錠	古錠	洪武通宝	長さ2.3、幅2.3 厚さ0.1	2.55	
55	6	42	-	-	銅錠	唐貨銘		長さ0.7、幅1.0 厚さ0.1	8.39	真鑑型
55	7	42	-	3-4層	銅錠	唐貨銘		長さ(5.0)、幅0.9 厚さ0.9	3.88	真鑑型
55	8	42	J12	3-4層	鉄錠	鉄錠		長さ12.6、幅1.2 厚さ1.2	94	

第9表 出土石器計測表(非揭露品)

番号	器種	Gr	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
S 1	石礫未成品	M16	2層	黒曜石	29.0	21.0	6.5	2.90	三角形を呈する
S 2	石礫未成品	L14	3・4層	安山岩	18.5	13.0	4.5	0.93	平基盤基盤として作成。表面右側に自然面有
S 3	石礫未成品	O18	2層	粘板岩?	25.0	21.0	3.5	1.94	平基盤基盤として作成
S 4	石礫未成品	N14	3・4層	安山岩	20.0	24.5	4.5	1.92	三角形を呈する
S 5	石礫未成品	M14	3・4層	安山岩	(21.0)	23.5	5.0	(2.67)	基部欠損
S 6	石礫未成品	L14	3・4層	安山岩	28.0	(18.0)	5.0	(1.69)	石礫欠損
S 7	石礫未成品	L14	3・4層	安山岩	(16.0)	19.0	3.5	(1.08)	円錐無葉巻として作成。先端部欠損
S 8	石礫未成品	LM-14	3・4層	安山岩	(17.0)	(12.0)	2.0	(0.44)	先端部欠損
S 9	棒状石器	O15	3・4層	虎石?	37.5	6.0	5.5	2.18	全体に研磨してある。両端部は發をもつ先端部をつくる
S 10	環状石斧未成品	K13	3・4層	粘板岩?	80.5	(47.0)	8.0	(30.00)	周縁加工。中央に穿孔の痕跡
S 11	石刮刀片	L14	3・4層	粘板岩?	(44.0)	(31.0)	3.5	(5.85)	
S 12	石刮刀片	O17	3・4層		(34.0)	(45.0)	5.0	(8.96)	
S 13	石刮刀片	M14	3・4層	粘板岩?	(21.0)	(24.5)	0.3	(1.79)	
S 14	圓形石器	N15	3・4層	黒曜石	27.0	18.0	11.5	5.53	上下縁辺部に叩き濡れ痕
S 15	圓形石器	L14	3・4層	黒曜石	30.0	12.0	9.0	3.78	上下縁辺部に叩き濡れ痕
S 16	圓形石器	N15	3・4層	黒曜石	18.5	21.0	7.5	2.96	上下縁辺部に叩き濡れ痕
S 17	圓形石器	N15	3・4層	黒曜石	18.0	30.5	7.5	2.82	上下左右縁辺部に叩き濡れ痕
S 18	圓形石器	N15	3・4層	安山岩	32.5	28.0	9.0	7.79	上部に瘤かく・剥離痕
S 19	圓形石器	O17	3・4層	安山岩	31.0	20.5	8.0	4.47	上部面に叩き濡れ痕
S 20	圓形石器	O15	3・4層	安山岩	16.0	14.0	5.0	1.15	上下縁辺部に叩き濡れ痕
S 21	UF	L14	3・4層	玉髓?	34.5	21.0	11.5	6.23	縁辺部に刃こぼれ
S 22	UF	O15	3・4層	玉髓	20.5	28.0	5.0	2.32	縁辺部に刃こぼれ
S 23	UF	N16	3・4層	玉髓	21.5	20.0	8.5	2.52	縁辺部に刃こぼれ
S 24	UF	L14	3・4層	玉髓?	30.0	17.0	5.0	2.31	縁辺部に刃こぼれ
S 25	UF	O15	3・4層	瑪瑙?	21.0	19.0	7.5	2.61	縁辺部に刃こぼれ
S 26	UF	M14	3・4層	黒曜石	37.0	38.0	9.5	11.11	縁辺部に刃こぼれ
S 27	UF	O16	3・4層	黒曜石	36.0	16.5	6.0	2.44	縁辺部に刃こぼれ
S 28	UF	L13	3・4層	黒曜石	32.0	14.5	9.0	2.97	縁辺部に刃こぼれ
S 29	UF	M14	3・4層	黒曜石	21.0	29.0	4.0	1.58	縁辺部に刃こぼれ
S 30	UF	N14	3・4層	黒曜石	26.0	12.5	5.5	1.60	縁辺部に刃こぼれ
S 31	UF	N14	3・4層	黒曜石	22.5	20.0	3.5	1.07	縁辺部に刃こぼれ
S 32	UF	N15	3・4層	黒曜石	26.0	15.0	6.0	1.35	縁辺部に刃こぼれ
S 33	UF	L14	3・4層	黒曜石	21.0	12.0	4.5	0.74	上部縁辺部に叩き濡れ痕。縁辺部に刃こぼれ
S 34	UF	K-11-12	3・4層	黒曜石	21.0	18.0	6.5	1.80	縁辺部に刃こぼれ。表面は陶化面
S 35	UF	L13	3・4層	黒曜石	13.5	22.0	4.0	0.83	縁辺部に刃こぼれ
S 36	UF	P15	3・4層	黒曜石	9.0	15.5	3.0	0.38	縁辺部に刃こぼれ。微痕
S 37	UF	O17	3・4層	黒曜石	14.5	8.5	3.0	0.33	縁辺部に刃こぼれ
S 38	UF	N14	3・4層	黒曜石	15.0	9.0	4.5	0.50	縁辺部に刃こぼれ。先端部に叩き濡れ痕
S 39	UF	L13	3・4層	安山岩	25.0	23.0	3.5	2.24	縁辺部に刃こぼれ
S 40	UF	Q19	3・4層	安山岩	21.5	16.0	5.5	2.38	縁辺部に刃こぼれ
S 41	UF	K12	3・4層	安山岩	26.0	11.0	6.0	1.15	縁辺部に刃こぼれ
S 42	UF	Q19	3・4層	安山岩	10.5	14.5	2.5	0.35	縁辺部に刃こぼれ
S 43	HF	M14	3・4層	玉髓	14.0	21.5	6.0	1.11	加工痕あり
S 44	HF	LM-14	3・4層	黒曜石	40.0	36.0	11.5	11.06	加工痕あり

S 45	研	L14	3・4層	黒曜石	29.0	19.5	5.0	326	加工面あり
S 46	研	L16	3・4層	黒曜石	22.0	17.5	8.0	260	加工面あり
S 47	研	O16	3・4層	黒曜石	19.5	18.5	5.5	135	加工面あり
S 48	研	P16	3・4層	黒曜石	22.0	14.0	7.0	198	加工面あり
S 49	研	L14	3・4層	黒曜石	12.5	20.0	3.0	663	加工面あり
S 50	研	O17	3・4層	黒曜石	14.5	25.0	5.0	136	加工面あり
S 51	研	O15	3・4層	黒曜石	25.5	15.0	8.5	157	加工面あり
S 52	研	O15	3・4層	黒曜石	10.5	14.5	2.5	632	加工面あり
S 53	研	L14	3・4層	安山岩	32.5	(22.5)	3.5	(382)	加工面あり
S 54	研	L14	3・4層	柘榴岩?	32.0	25.0	8.5	623	加工面あり
S 55	研	N15	3・4層	安山岩	43.0	21.0	5.0	3.02	加工面あり、一部施化處理
S 56	研	M14	3・4層	安山岩	17.0	26.0	4.0	218	加工面あり
S 57	研	L16	3・4層	安山岩	26.0	20.0	6.5	304	加工面あり
S 58	研	O17	3・4層	珪化?	19.5	30.0	4.0	186	加工面あり
S 59	研	N18	3・4層	安山岩	33.0	12.0	5.5	2.17	加工面あり
S 60	研	N15	3・4層	安山岩	27.0	8.0	8.5	1.68	加工面あり
S 61	研	Q19	3・4層	安山岩	15.5	24.5	2.5	1.14	加工面あり
S 62	研	L14	3・4層	安山岩	24.0	16.5	3.5	1.55	加工面あり
S 63	研	L13	3・4層	安山岩	22.5	20.0	4.0	2.40	加工面あり
S 64	研	M16	2層	安山岩	29.0	13.5	6.0	1.83	加工面あり
S 65	研	L13	3・4層	安山岩	21.0	12.0	4.5	0.92	加工面あり
S 66	研	N14	3・4層	安山岩	13.5	20.0	2.5	0.59	加工面あり
S 67	削片	O15	3・4層	玉髓	44.0	33.0	25.0	23.49	打面削片?
S 68	削片	L14	3・4層	瑪瑙?	38.0	22.0	14.0	10.03	打面調整削片?、下部面に自然面残
S 69	削片	M15	3・4層	黒曜石	59.0	69.5	13.5	51.90	打面調整削片?、表面に自然面残
S 70	削片	L13-14	3・4層	黒曜石	30.0	55.0	11.0	17.53	打面調整削片?、打面の一部に自然面残
S 71	削片	O15	3・4層	黒曜石	18.5	7.5	7.0	0.74	打面削片?
S 72	削片	P15	3・4層	黒曜石	14.5	13.5	4.0	0.58	調整削片?
S 73	削片	O15	3・4層	瑪瑙?	11.0	11.5	3.5	0.43	
S 74	削片	L14	3・4層	安山岩	76.5	53.0	6.0	23.58	表面の一部に自然面残
S 75	削片	O16	3・4層	安山岩	58.5	14.0	6.5	4.73	
S 76	削片	PQ-20	3・4層	安山岩	19.0	14.0	3.5	0.76	
S 77	削片	L14	3・4層	安山岩	22.0	9.0	4.0	0.44	一部に自然面残
S 78	削片	N16	3・4層	安山岩	15.5	18.0	2.5	0.48	
S 79	削片	N16	3・4層	安山岩	18.0	9.0	4.0	0.40	
S 80	石核	K13	3・4層	玉髓?	40.5	71.5	28.0	49.53	
S 81	石核	LM-14	3・4層	玉髓?	39.0	56.0	23.0	34.79	一部に自然面残
S 82	石核	O19-P18	3・4層	玉髓?	25.0	36.5	15.0	8.69	
S 83	石核	O19	3・4層	黒曜石	41.5	19.0	20.5	12.87	

第10表 3・4層出土須恵器・土師器の器種別点数（非掲載品）

【須恵器】

唇・窓口縁部片	环基片（古代）	环身片（古代）	环身片（古墳後期・終末期）	轟片（宝珠つまみ）	轟片（ボタン状つまみ）	轟片（輪状つまみ）
636	43	84	5	1	13	15

环片（へ少切）	环片（田輪角切）	轟台付环片	轟台付唇片	轟环（輪部）片	轟（波）紐唇片	轟片	轟脚片
3	47	71	4	18	4	1	3

【土師器】

窓口縁部片（古代）	环身片（古代）	环片（へ少切）	环片（田輪角切）	轟台付环片	轟（波）紐切片	轟片	移動式轟片	支脚片
797	13	2	22	5	2	49	3	55

写真図版



1 4区調査前（北東から）



2 4区調査前（南東から）

図版 2



1 4区北半完掘状況（写真上方が西）



2 4区南半完掘状況（写真下方が西）



1 4区北半8・9層検出状況(北から)



2 E-E'ライン土層断面(南から)



1 D-D' ライン土層断面（南東から）



2 A-A' ライン東壁北端の土層（南西から）



1 C-C' ライン土層断面西端(北東から)



2 C-C' ライン土層断面(北東から)



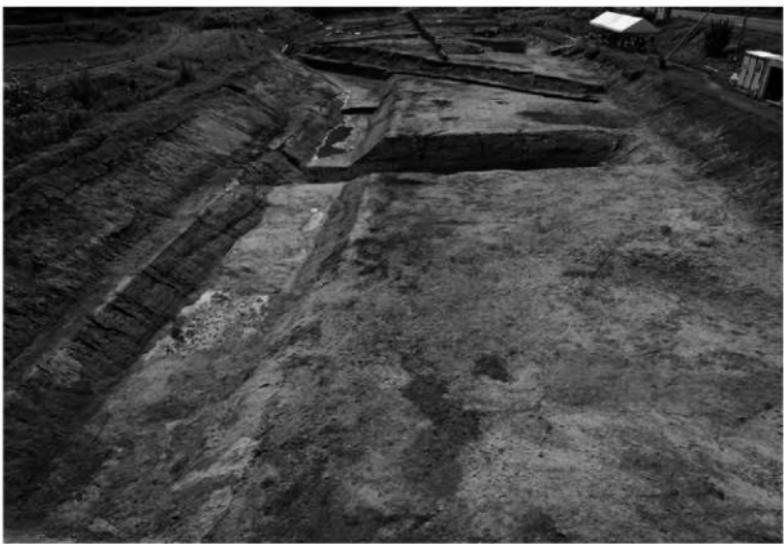
1 A-A' ライン東壁北半土層断面（北西から）



2 A-A' ライン東壁中央土層断面（北西から）



1 A-A' ライン東壁 4 区 TR4 付近の土層断面（北西から）



2 4 区北半完成状況（北から）



1 B-B' ライン南壁土層断面（北西から）



2 B-B' ライン南壁土層断面（北東から）



1 A-A' ライン東壁南半土層断面（北西から）



2 G-G' ライン東壁土層断面（東から）



1 石桶掘方検出状況(東から)



2 石桶閉塞側の A-A' ライン東壁土層断面(東から)



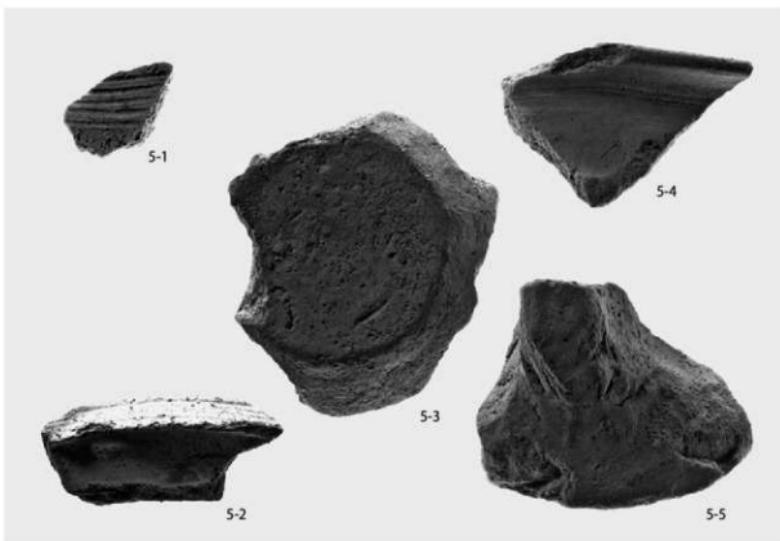
1 石堤完掘状況（東から）



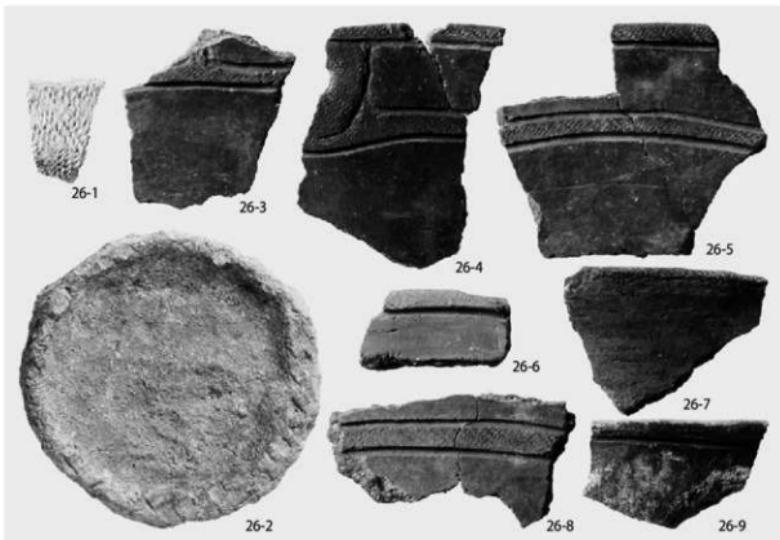
2 石堤完掘状況（西から）



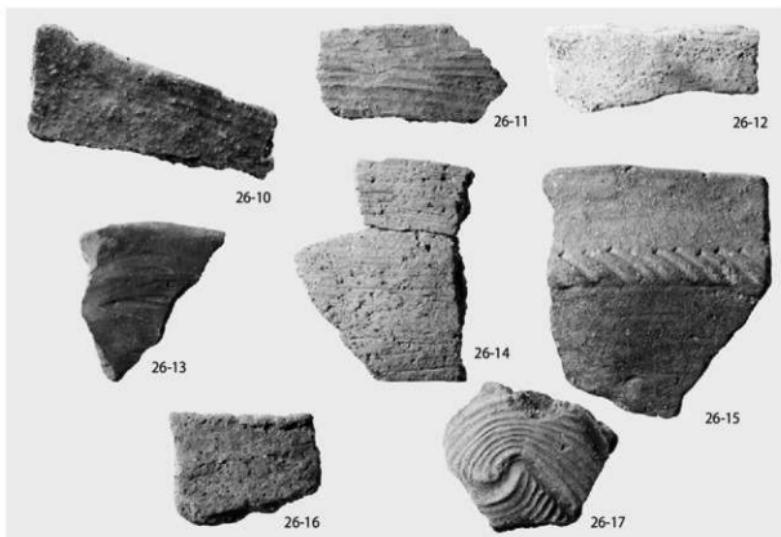
1 4区南半完掘状況(南から)



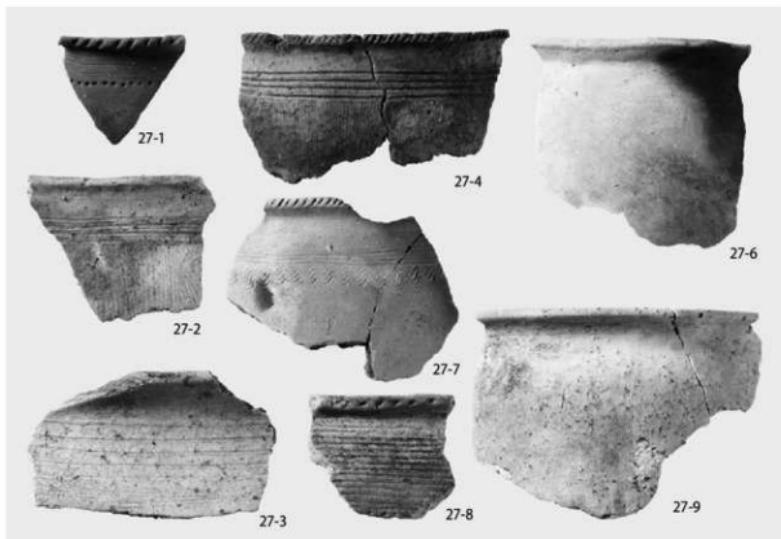
1 試掘遺物



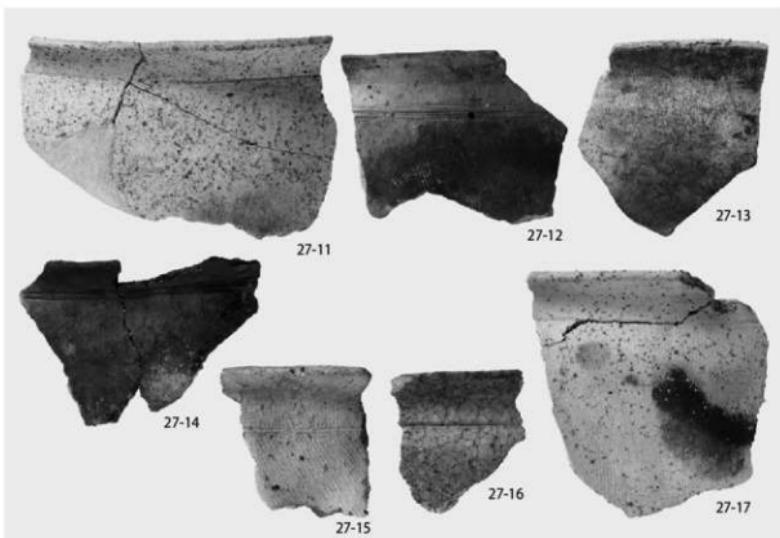
2 縄文土器 (1)



1 繩文土器 (2)



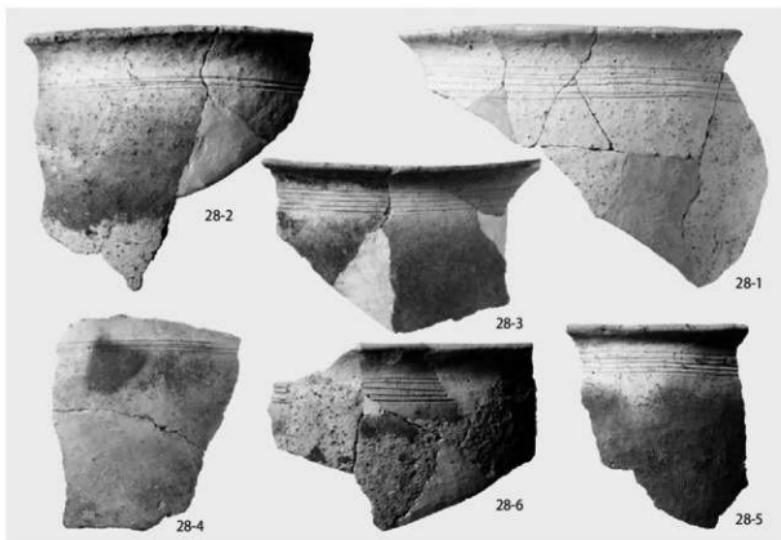
2 弥生土器 (1)



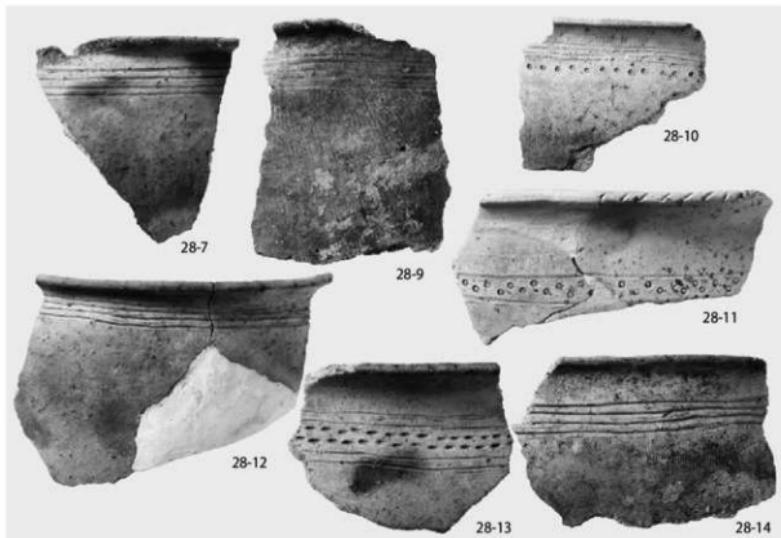
1 弥生土器 (2)



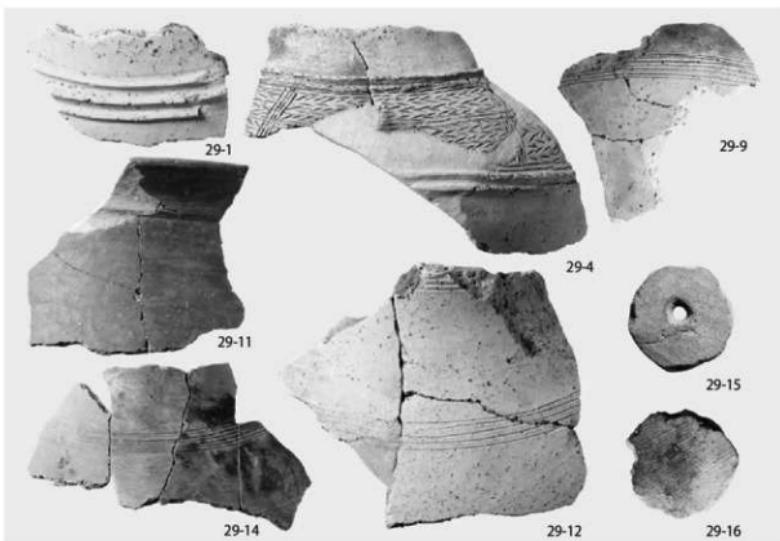
2 弥生土器 (3)



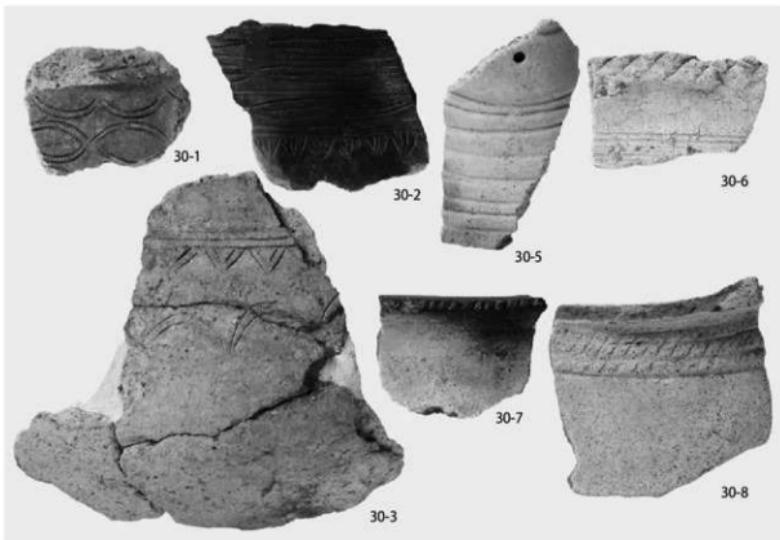
1 弥生土器 (4)



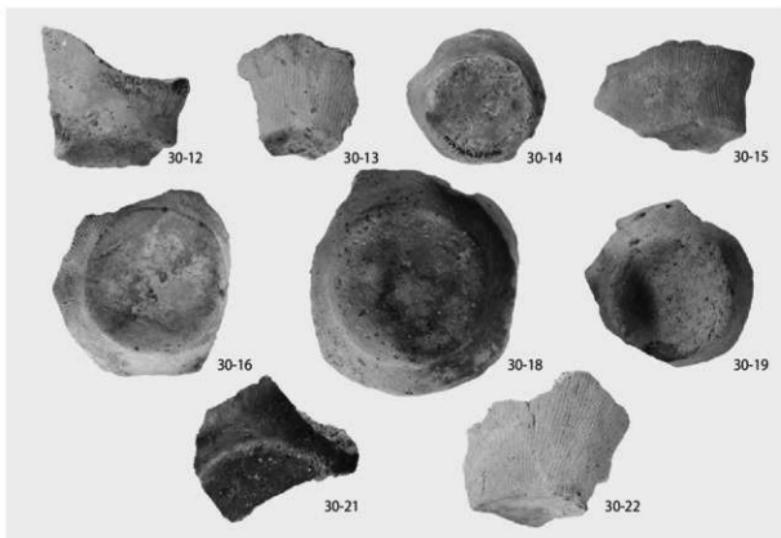
2 弥生土器 (5)



1 弥生土器 (6)



2 弥生土器 (7)



1 弥生土器 (8)



2 弥生土器 (9)



29-6



29-7



29-8



29-10

1 弥生土器 (10)



29-13



30-4



30-9



30-10

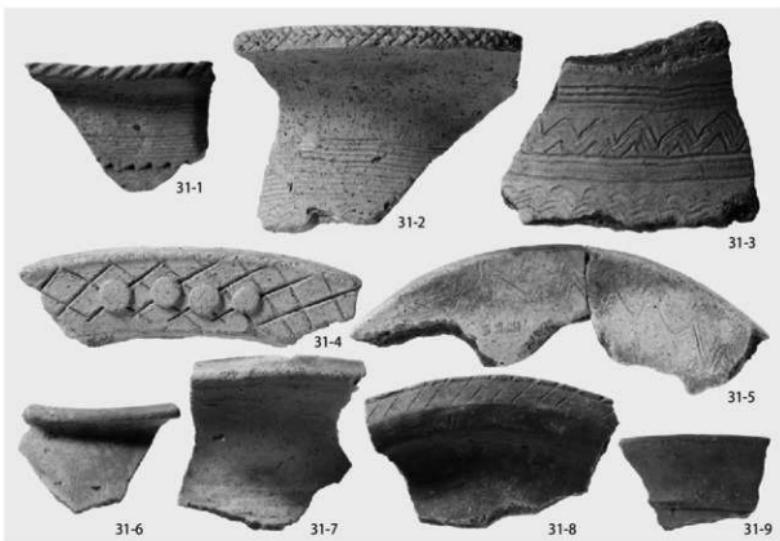
2 弥生土器 (11)



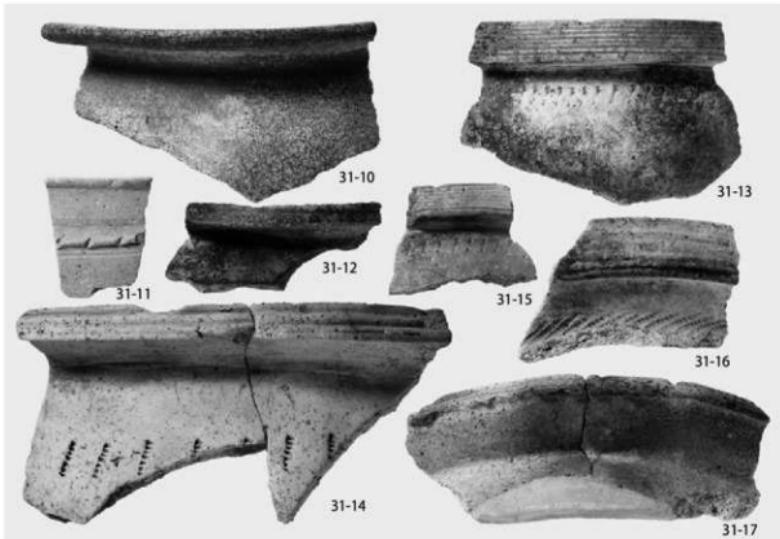
1 弥生土器 (12)



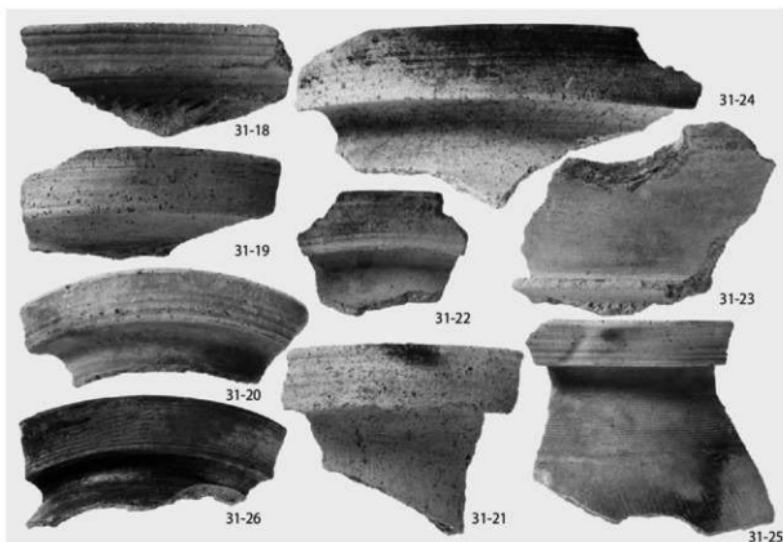
2 弥生土器 (13)



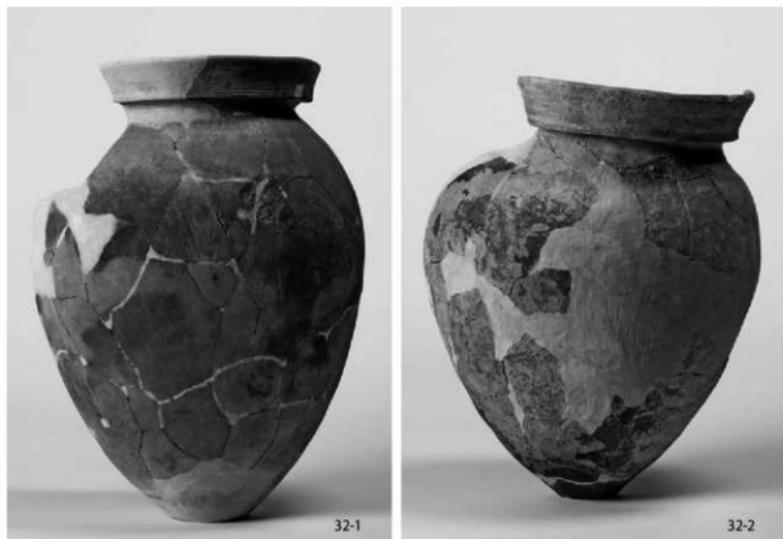
1 弥生土器 (14)



2 弥生土器 (15)



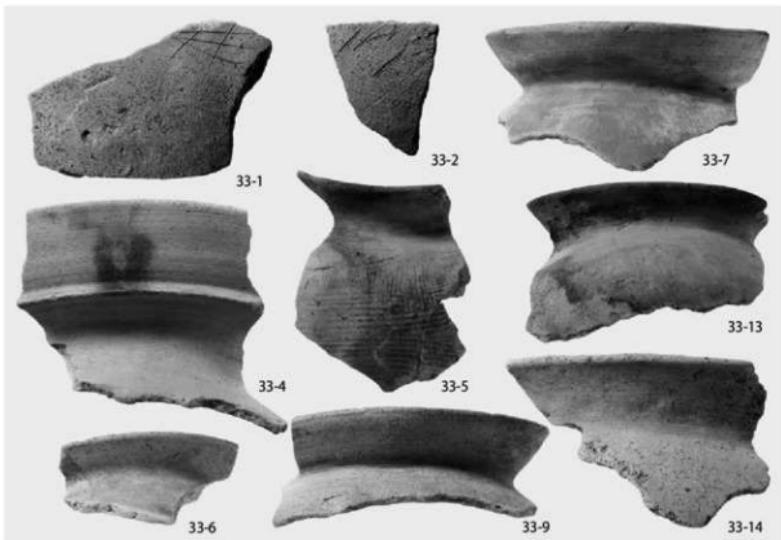
1 弥生土器 (16)



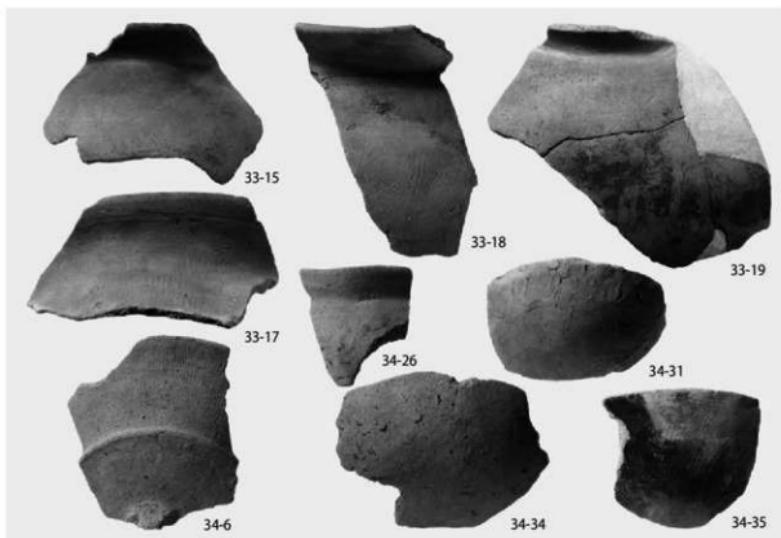
2 弥生土器 (17)



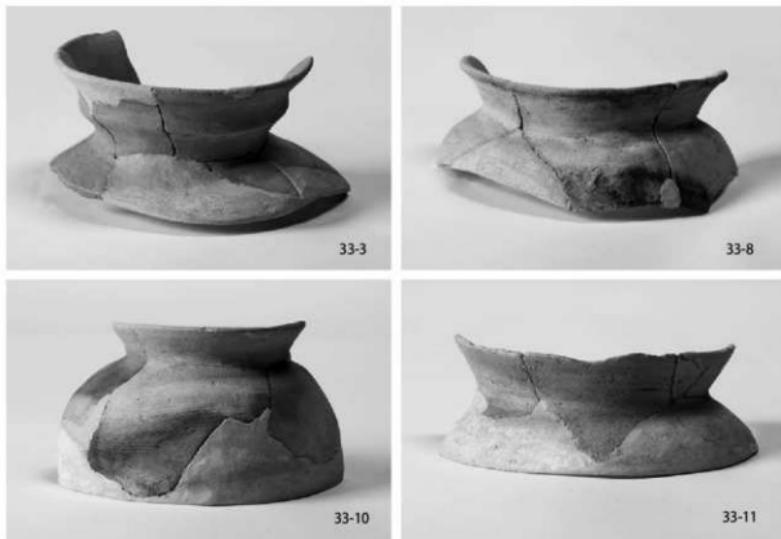
1 古墳時代土師器 (1)



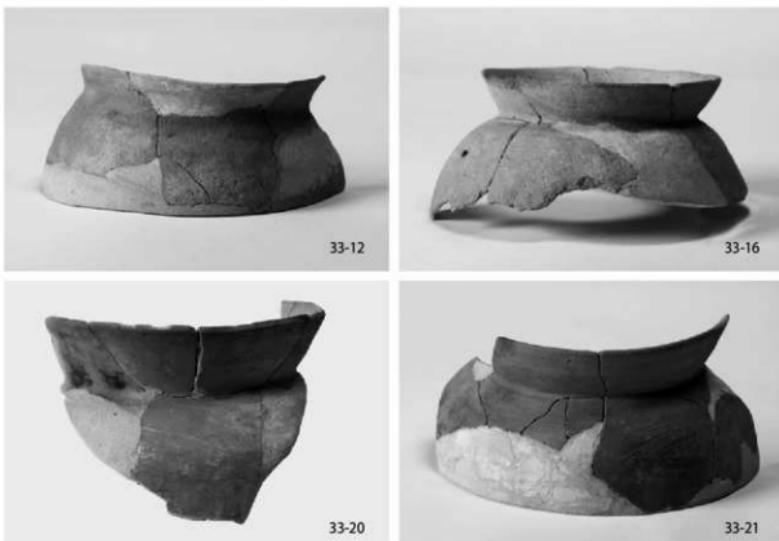
2 古墳時代土師器 (2)



1 古墳時代土師器 (3)



2 古墳時代土師器 (4)



1 古墳時代土師器 (5)



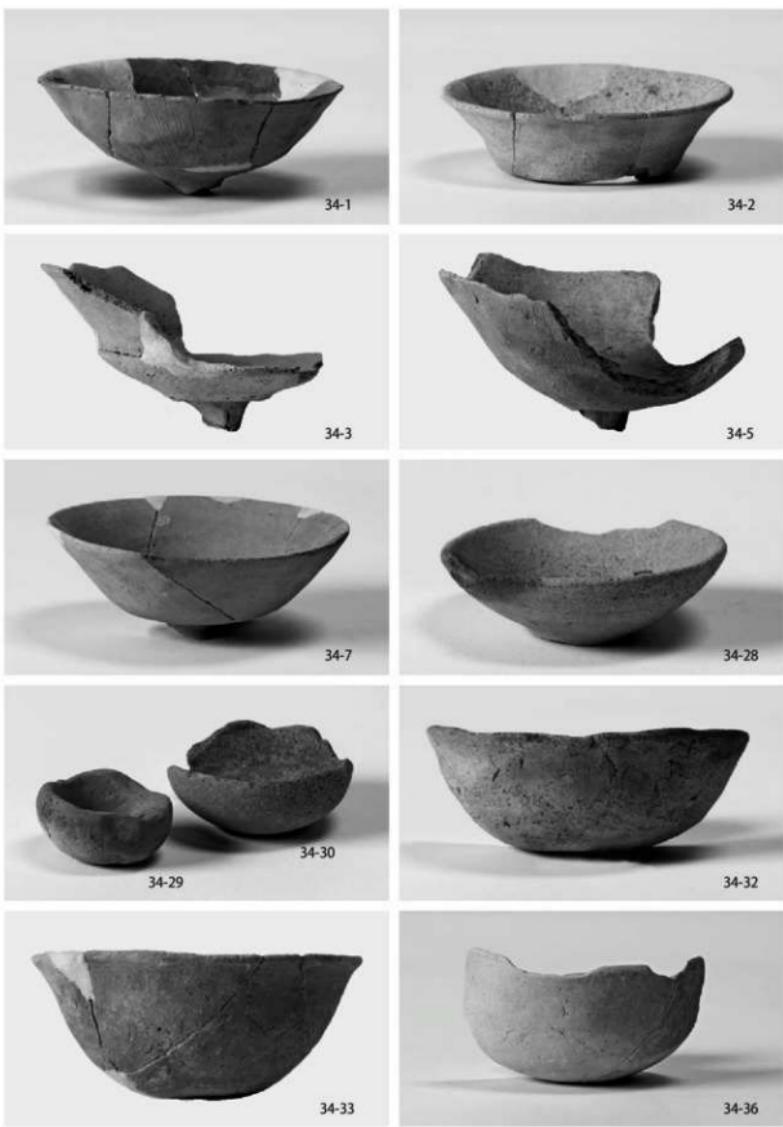
2 古墳時代土師器 (6)



1 古墳時代土師器 (7)



2 古墳時代土師器 (8)



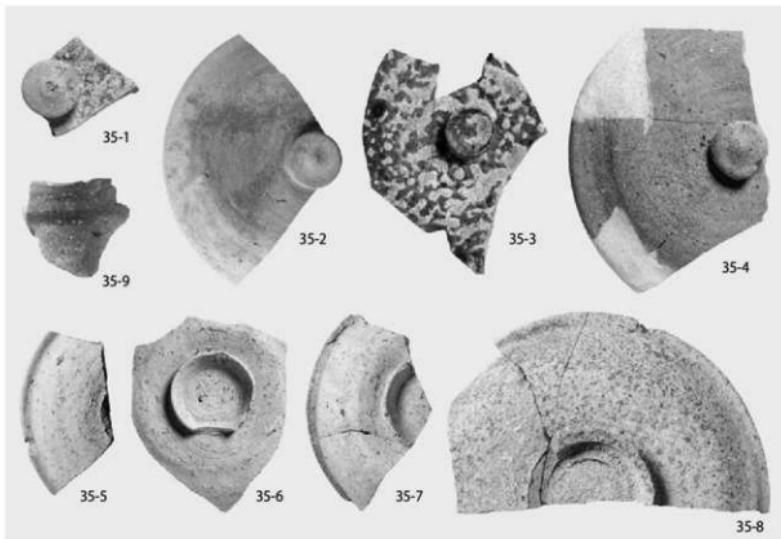
1 古墳時代土師器 (9)



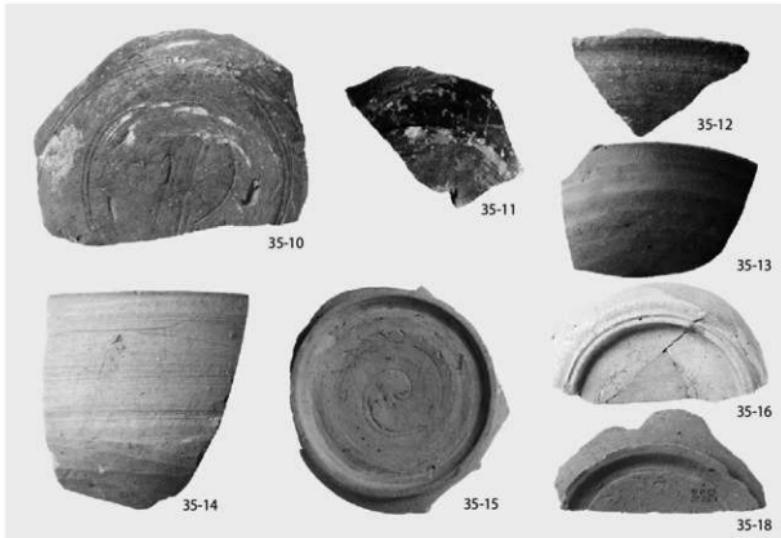
1 古墳時代土師器 (10)



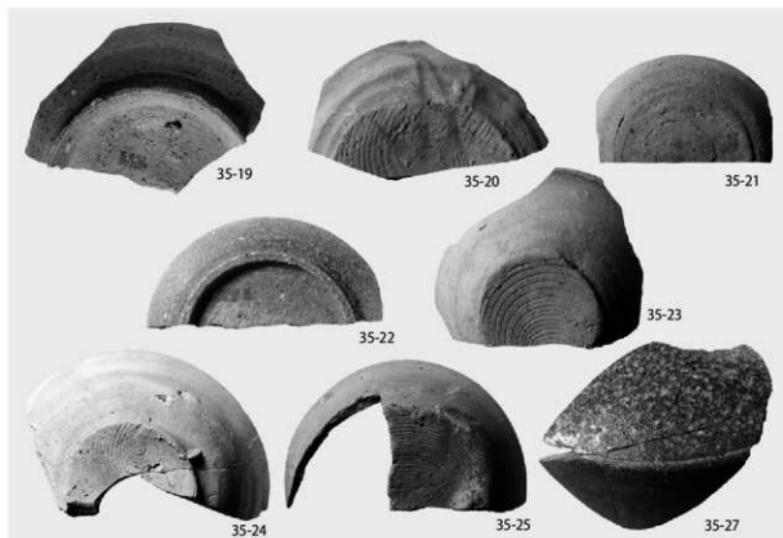
2 古墳時代土師器 (11)



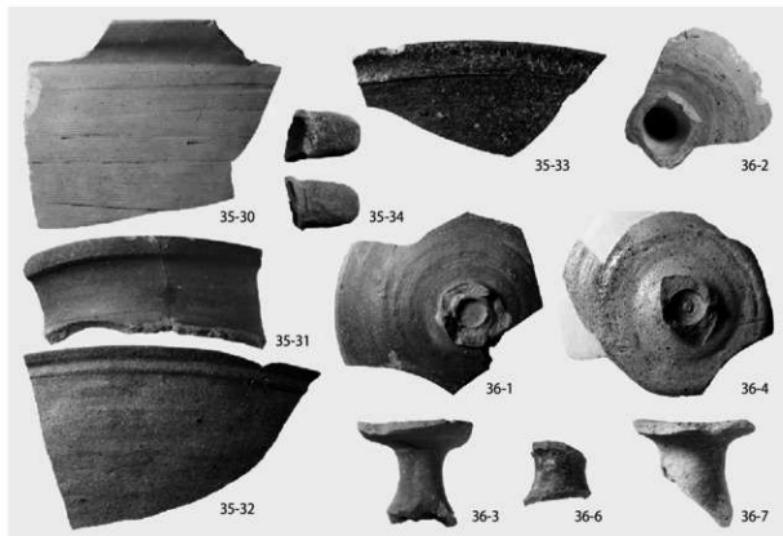
1 須恵器 (1)



2 須恵器 (2)



1 須恵器 (3)



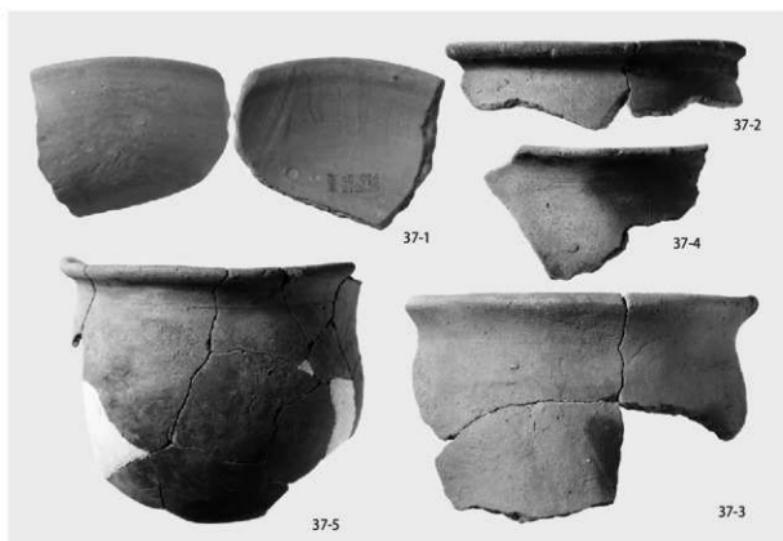
2 須恵器 (4)



1 須恵器 (5)



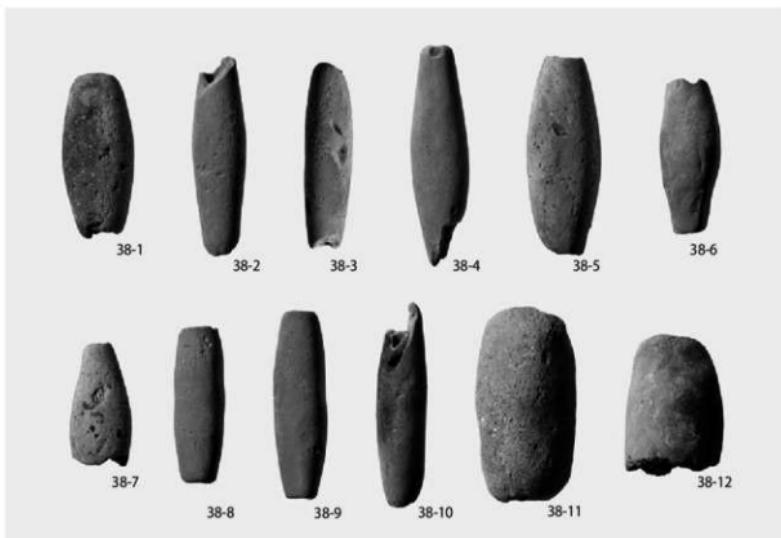
2 須恵器 (6)・古代・中世土師器 (1)



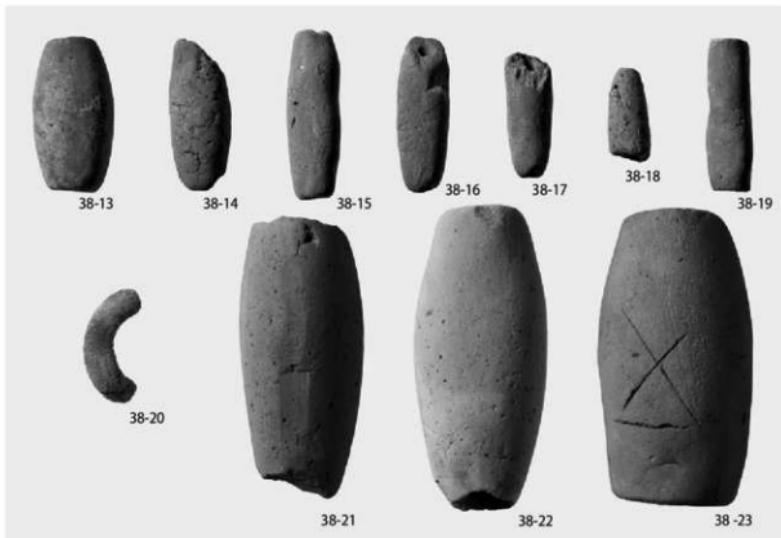
1 古代・中世土器 (2)



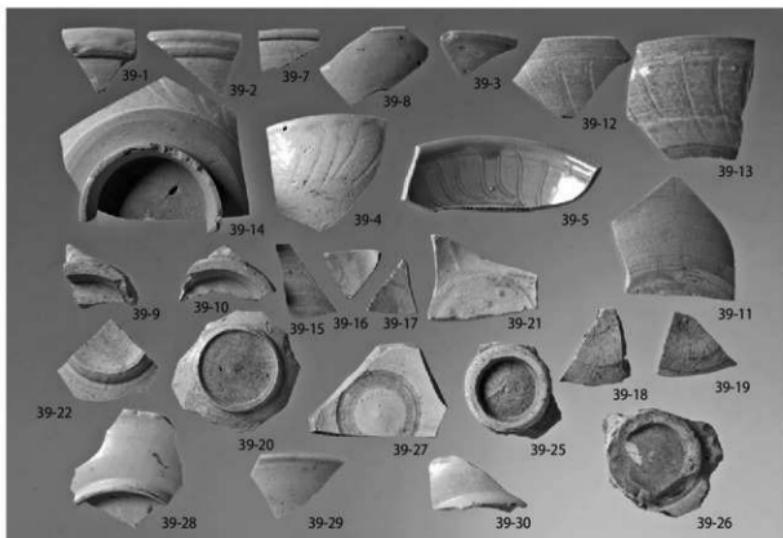
2 古代・中世土器 (3)



1 土製品 (1)



2 土製品 (2)



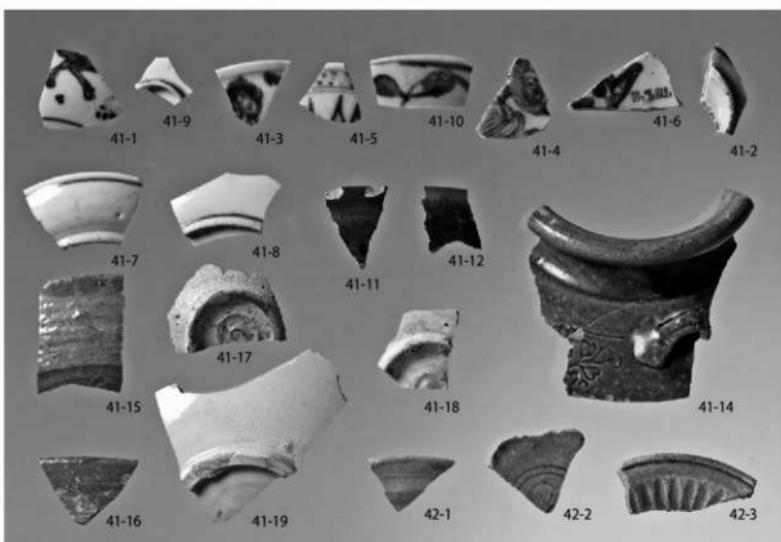
1 中世・近世陶磁器 (1)



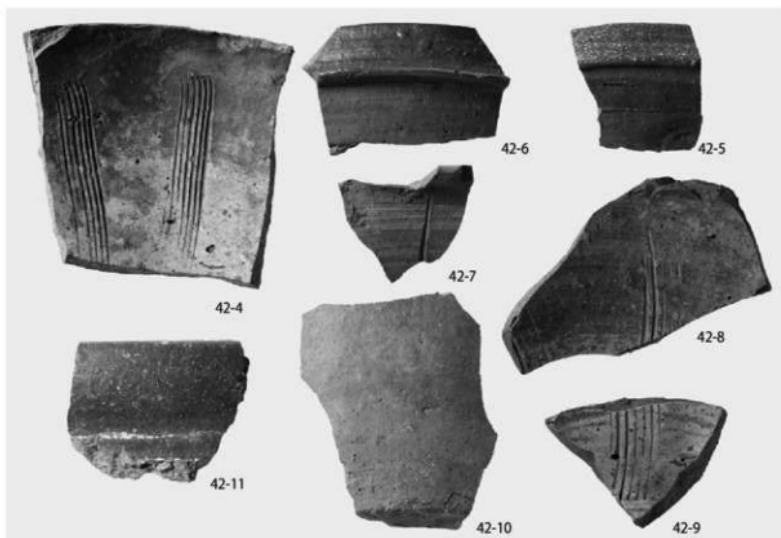
2 中世・近世陶磁器 (2)



1 中世・近世陶磁器 (3)



2 中世・近世陶磁器 (4)



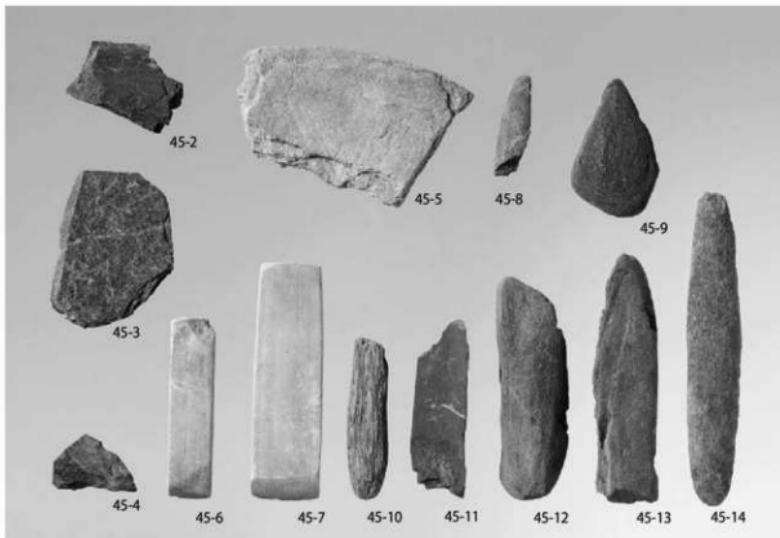
1 中世・近世陶磁器 (5)



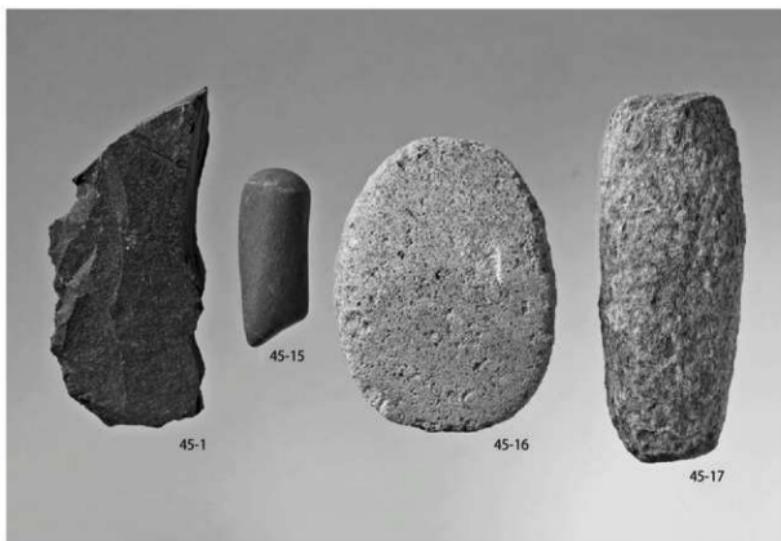
2 中世・近世陶磁器 (6)



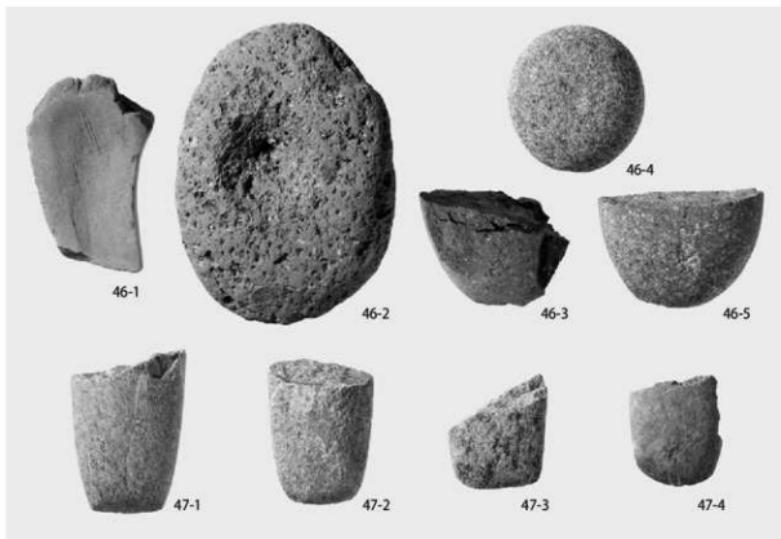
1 石器・石製品(1)



2 石器・石製品(2)



1 石器・石製品(3)



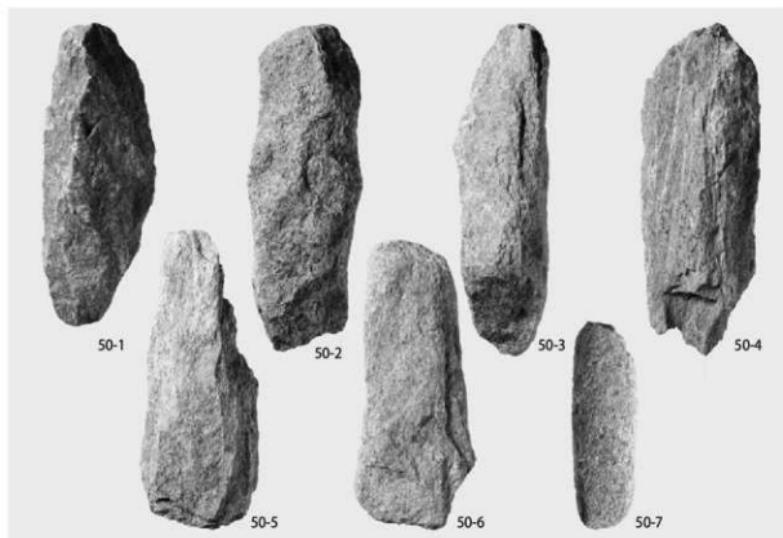
2 石器・石製品(4)



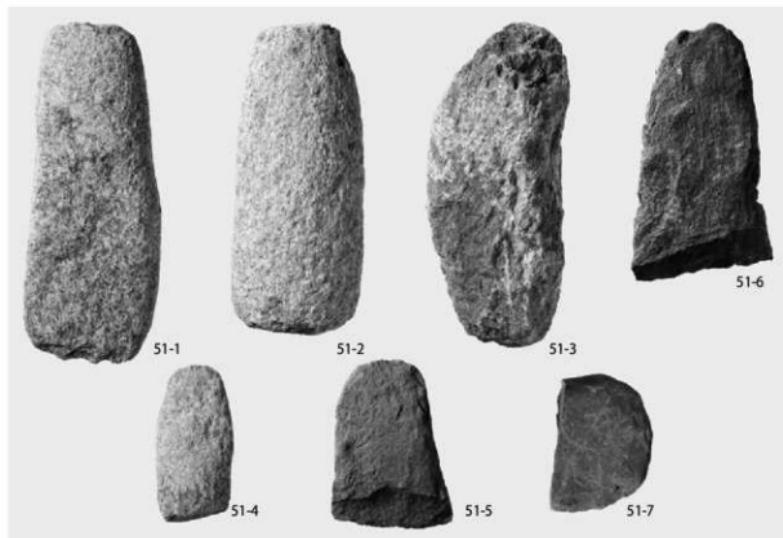
1 石器・石製品(5)



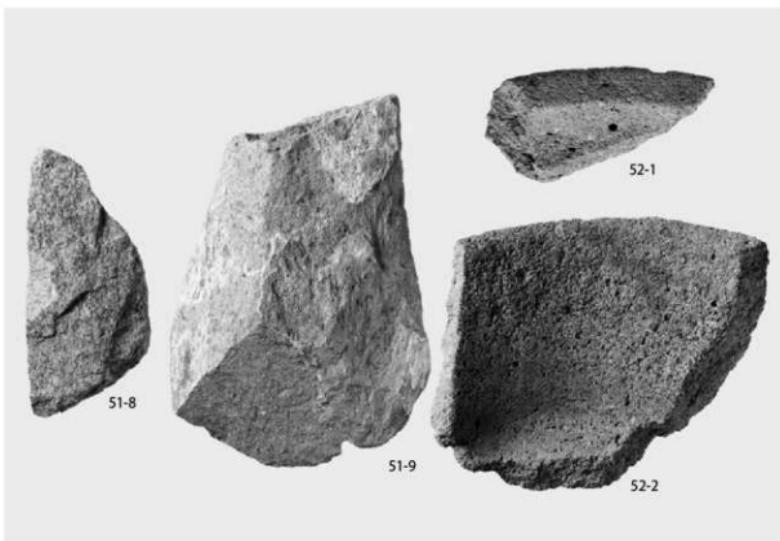
2 石器・石製品(6)



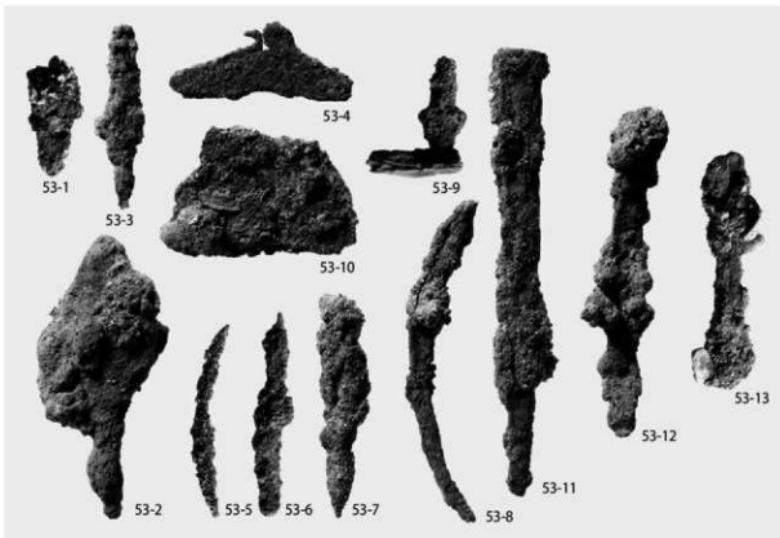
1 石器・石製品(?)



2 中世・近世陶磁器(8)

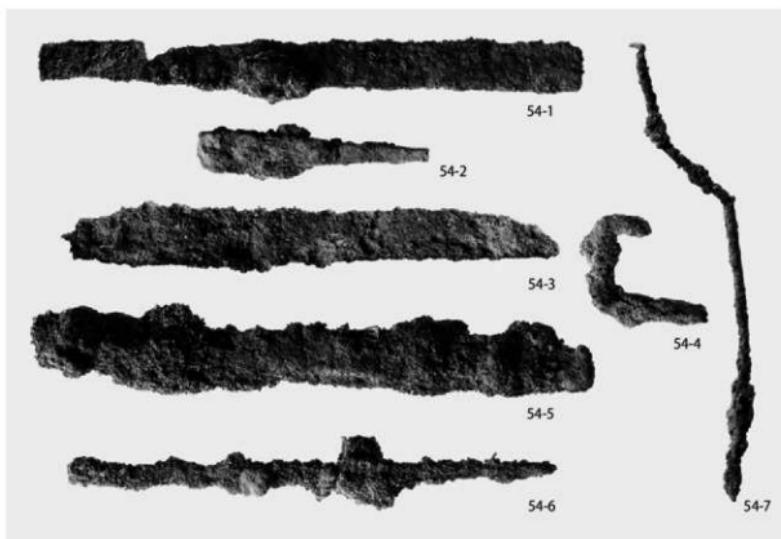


1 石器・石製品 (9)

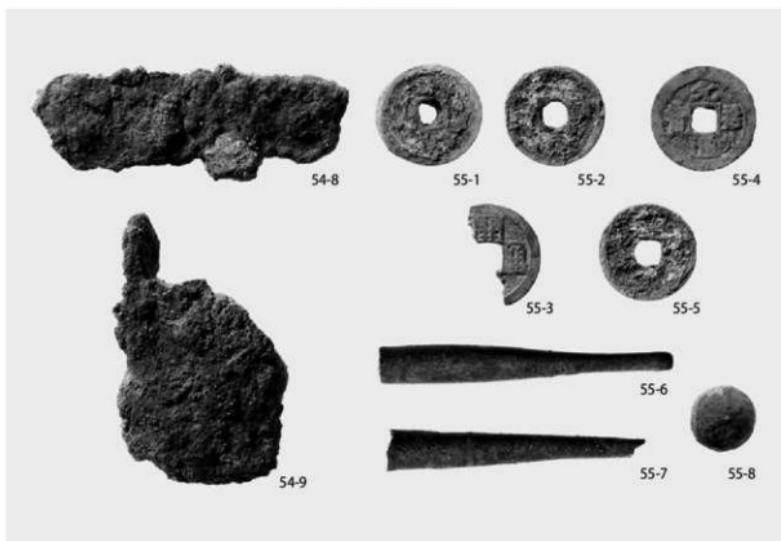


2 金属製品 (1)

図版 42



1 金属製品 (2)



2 金属製品 (3)

報 告 書 抄 錄

森原下ノ原遺跡

4区

一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書6

発行 2023（令和5）年3月

発行者 島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33番地
電話 0852-36-8608

印刷 渡部印刷株式会社

〒690-0874 島根県松江市中原町192
電話 0852-21-6231